



リモートルータ **RT60w**

スタートマニュアル

本機を使い始めるときにお読みください

本機お使いになる前に本書をよくお読みになり、正しく設置や設定を行ってください。
本書中の警告や注意を必ず守り、正しく安全にお使いください。

マニュアルのご案内

RT60wの機能を十分に活用していただくために、下記のマニュアルを用意致しました。目的にあわせてマニュアルをお選びください。🌀マークのマニュアルは付属のCD-ROMにPDF形式で収録しており、お読みになるにはAcrobat Readerが必要です。先にCD-ROMのAcrobat Readerをインストールしてください。(ユーザーズマニュアル 付録)



スタートマニュアル(本書)

RT60wを使い始めるときに読むマニュアルです。
設置のしかたや設定のしかた、基本的な使いかたについて説明しています。



ユーザーズマニュアル

RT60wの機能をもっと活用したくなるときに読むマニュアルです。
電話、FAX、ルータとしての代表的な使いかたについて、その解説と設定方法を説明しています。また、困ったときの対処方法についてもまとめて説明しています。



コマンドリファレンス(PDF形式)

コマンドを使って高度な設定を行いたいときに読むマニュアルです。
RT60wのコンソールコマンドについて解説しています。

- ・ 本書の記載内容を一部または全部を無断で転載することを禁じます。
- ・ 本書の記載内容は将来予告なく変更されることがあります。
- ・ 本製品を使用した結果発生した情報の消失等の損失については、当社では責任を負いかねます。保証は本製品の物損の範囲に限ります。予めご了承ください。

重要なお知らせ

プロバイダ契約について

RT60wをダイヤルアップルータとしてご使用になる前、もしくは新たにプロバイダ契約を行う前に、必ずプロバイダの契約上ダイヤルアップルータによる複数台のパソコン接続が可能であることを確認してください。プロバイダによっては禁止もしくは別の契約が必要な場合があります。契約に違反して本機を使用すると、予想外の料金を請求される場合があります。 使用できない場合は、必要な契約を行うか、使用可能な他のプロバイダと契約してください。

通信料金について

RT60wをダイヤルアップルータとしてご使用になる場合には、自動発信の機能をよくご理解の上ご使用ください。ダイヤルアップルータをパソコンやLANに接続した場合、ダイヤルアップルータはパソコンのアプリケーション（メールソフト、ブラウザなど）が送信するデータやLAN上を流れるデータの宛先を監視し、LAN外の宛先があると本体に設定された内容に従って自動的に回線への発信を行います。そのため設定間違い、回線切断忘れ、ソフトウェアや機器が定期送信パケットを発信していた場合には、予想外の電話料金やプロバイダ接続料金がかかる場合があります。 ときどき通信記録や累積料金を調べて、意図しない発信がないか、また累積料金が適当であるかどうかにご注意ください。また設定やリビジョンアップなどの最新情報を得るために、ときどきNetVolanteシリーズのホームページ(<http://NetVolante.rtrpro.yamaha.co.jp/>)を見ることを強く推奨します。

次のようなケースでは、予想外の通信料金がかかっている場合があります。

- 本機を使い始めた時
- 本機のプロバイダ接続設定を変更した時
- MP 接続を設定した時
- 無線 LAN の設定を変更した時
- 機器間アナログ通話機能の設定を変更した時
- LAN-TA機能を利用時にパソコンのダイヤルアップネットワーク設定を変更した時
- Real Player をインストールした時
- パソコンに新しいソフトウェアをインストールした時
- ネットワークに新しいパソコンやネットワーク機器、周辺機器などを接続した時
- 本機のファームウェアをリビジョンアップした時
- その他、いつもと違う操作を行ったり、通信の反応に違いを感じた時など



注意

- ・プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定（LAN-TA 接続利用時）の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- ・MP接続に対応していないプロバイダに対して、MP接続の設定や発信は絶対に行わないでください。意図しない料金を請求される場合があります。

無線LANの電波に関する注意

本製品に使用している無線装置は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、特定無線設備の認証を受けています。従って、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。また、本製品は日本国内でのみ使用できます。

心臓ペースメーカーを使用している人の近くで、本製品をご使用にならないでください。心臓ペースメーカーに電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。

医療機器の近くで本製品を使用しないでください。医療機器に電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。

電子レンジの近くで本製品を使用しないでください。電子レンジによって本製品の無線通信への電磁妨害が発生します。

本製品の無線装置は、電波法に基づく認証を受けていますので、以下の事項を行なうと法律で罰せられることがあります。

本製品を分解 / 改造すること

本製品の裏面に貼ってある証明ラベルをはがすこと。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

本製品の無線チャンネルを工場出荷時以外に設定して使用する場合は、以下の事項に注意してください。但し、本製品の無線チャンネルが工場出荷状態の場合は、移動体識別用の無線局と電波干渉をすることはありません。

この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。

万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに本製品の使用周波数を変更して、電波干渉を回避してください。

その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、弊社ネットボランチャコールセンターへお問い合わせください。

使用周波数帯域	2 . 4 GHz
変調方式	DS - SS方式
想定干渉距離	40 m以下
周波数変更の可否	全帯域を使用し、かつ「構内無線局」「特定小電力無線局」帯域を回避可能

電波障害規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

目次

マニュアルのご案内	表紙裏
重要なお知らせ	1
本書の表記について	6
商標について	6
安全にお使いいただくために	7
各部の名称と機能	9
前面	9
背面	10
ディスプレイ	11

第 1 章 準備しよう

1-1 回線の契約について	14
1-2 プロバイダとの契約について	16
1-3 LAN ポートについて	18
1-4 無線 LAN カードについて	19

第 2 章 ルータを設置しよう

2-1 バックアップ電池をセットする	22
2-2 ISDN 回線を接続する	24
本機の DSU を使う場合	25
他の ISDN 機器の DSU を使う場合	26
2-3 電話機や FAX を接続する	27
2-4 電源を接続する	28
2-5 動作を確認する	29
2-6 TEL ポートを設定する	32
2-7 LAN ポートに接続する	33
新たに LAN を構築する場合	34
既存の LAN に DHCP サーバがある場合	37
2-8 無線 LAN に接続する	43
2-9 専用線を接続する	47
回線を接続する (本機の DSU を使う場合)	48
回線を接続する (他の DSU を使う場合)	49
電源を接続する	50
パソコンを接続する	51

第 3 章 パソコンとルータを設定しよう

3-1	ソフトウェアをインストールする	54
	Windows 95/98/2000 の場合	54
	Macintosh の場合	56
3-2	ダイヤルアップ接続で設定する	57
3-3	専用線接続で設定する	67
3-4	2 台目以降のパソコンを設定する	77
3-5	手動でネットワーク機能を設定する	81
	Windows 95/98 のネットワーク設定	81
	Windows 2000 のネットワーク設定	83
	Macintosh (TCP/IP) のネットワーク設定	85
3-6	無線 LAN の設定を変更する	86

第 4 章 ルータを使ってみよう

4-1	インターネット接続を開始する	92
	自動で接続する	92
	ボタンで接続する	93
4-2	インターネット接続を終了する	94
	自動で切断する	94
	ボタンで切断する	95
4-3	ルータの動作状態を確認する	96
	ランプで確認する	96
	ディスプレイで確認する	97
	かんたん設定ページで確認する	98
4-4	料金情報をリセットする	101
4-5	プロバイダ接続を制限する	104
4-6	ブザーを止める	109
4-7	不審な自動接続が見つかったときは	111
	通信記録の見かた	112
	原因になりやすい設定項目	114

付録

索引	122
製品サポートのご案内	表紙裏

本書の表記について

■ マークの意味

本書では、安全にお使いいただくため、守っていただきたい事項に次のマークを表示しています。必ずお読みください。

 **警告** ・人体に危険を及ぼしたり、装置に大きなダメージを与える可能性があることを示しています。必ず守ってください。

 **注意** ・機能停止を招いたり、各種データを消してしまう可能性があることを示しています。十分注意してください。

MEMO ・操作や運用上に関連した情報です。参考にお読みください。

■ 略称について

本書では、YAMAHA RT60w のことを本機、Microsoft® Windows® 98 を Windows98、Microsoft® Windows® 95 を Windows95、Microsoft® Windows NT® を WindowsNT、Microsoft® Windows® 2000 を Windows2000、INS ネット 64 のことを ISDN、10BASE-T ケーブルのことを LAN ケーブルと記述しています。

■ 設定例について

本書に記載されている IP アドレスやドメイン名、URL アドレスなどの設定例は、説明のためのものです。実際に設定するときは、必ずプロバイダから指定されたものをお使いください。

商標について

- ・ イーサネットは富士ゼロックス社の登録商標です。
- ・ Apple、Macintosh、MacOS は米国 Apple 社の登録商標および商標です。
- ・ Microsoft、Windows は米国 Microsoft 社の米国およびその他の国における登録商標です。
- ・ Adobe、Acrobat は米国 AdobeSystems 社の登録商標です。
- ・ INS ネット 64 は日本電信電話株式会社の登録商標です。
- ・ Stac LZS は米国 Hi/fn 社の登録商標です。

安全にお使いいただくために

本機を安全にお使いいただくために下記をよくお読みになり、必ず守ってお使いください。



警告

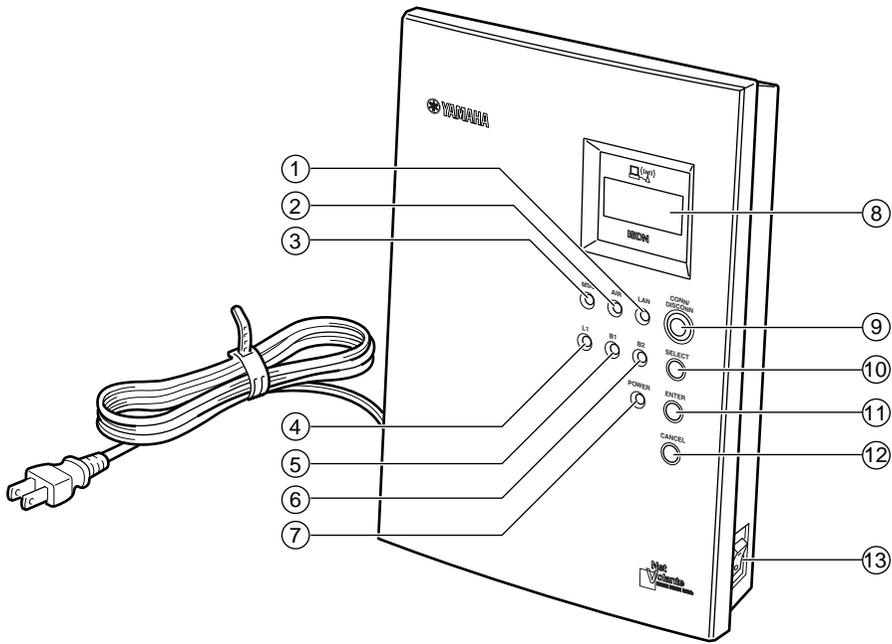
- ・本機は一般小規模オフィス向けの製品であり、人の生命や高額財産などを扱うような高度な信頼性を要求される分野に適応するようには設計されていません。誤って本機を使用した結果、発生したあらゆる損失について、当社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- ・ダイヤルアップルータはプロバイダ接続のために自動的に電話をかける機能を持った装置であり、本機にも自動的に電話をかける機能があります。それに伴った通話料金やプロバイダ接続料金がかかります。あらかじめ製品の機能や動作をよく理解した上でご使用ください。本機の使用方法や設定を誤って使用した結果発生したあらゆる損失について、当社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- ・メール確認や転送を設定すると定期的にインターネットへ自動接続を行うので、その度に通話料金やプロバイダ接続料金がかかります。あらかじめご理解いただいた上で、この機能を設定およびご使用ください。
- ・自動接続が設定されている場合、「かんたん設定ページ」の[ネットボランチホームページ]を押すとインターネットへ自動接続します。それに伴った通話料金やプロバイダ接続料金がかかりますので、あらかじめご理解いただいた上で、この機能をご使用ください。
- ・本機から発煙や異臭がするとき、内部に水分や薬品類が入ったとき、および電源ケーブルが発熱しているときは、直ちに電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いてください。そのまま使用を続けると、火災や感電の恐れがあります。
- ・濡れた手で電源ケーブルを触らないでください。感電や故障の恐れがあります。
- ・電源ケーブルを傷付けたり、無理に曲げたり、引っ張ったりしないでください。火災や感電、故障、ショート、断線の原因となります。
- ・本機は日本国内用AC100V(50/60Hz)の電源専用です。他の電源で使用しないでください。火災や感電、故障の原因となります。
- ・本機を落下させたり、強い衝撃を与えたりしないでください。内部の部品が破損し、感電や火災、故障の原因となります。
- ・本機を分解したり、改造したりしないでください。火災や感電、故障の原因となります。
- ・本機の換気口を塞いだ状態で使用しないでください。火災や感電、故障の原因となります。
- ・電源を入れたままケーブル類を接続しないでください。感電や故障、本機および接続機器の破損の恐れがあります。
- ・乾電池は逆向きに入れたり、充電したり、ショートさせたりしないでください。破裂や液漏れの恐れがあります。
- ・アナログポートやISDNポートに指や異物を入れないでください。感電や故障、ショートの原因となります。

 注意

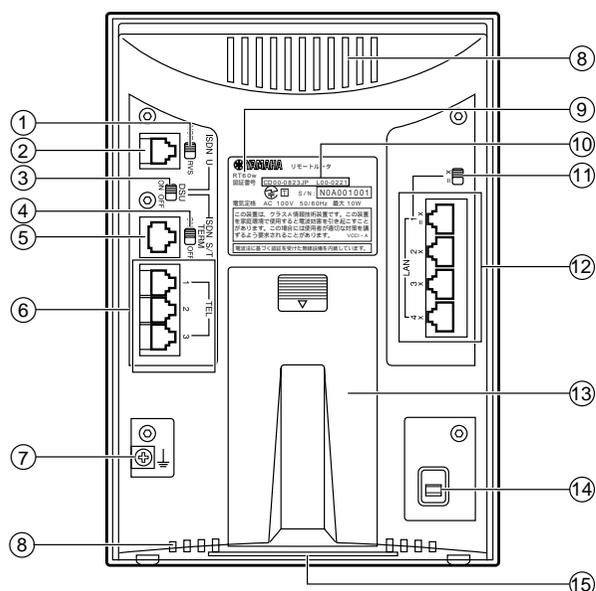
- ・直射日光や暖房器等の風が当たる場所、温度や湿度が高い場所には、置かないでください。故障や動作不良の原因となります。
- ・極端に低温の場所や温度差が大きい場所、結露が発生しやすい場所で使用しないでください。故障や動作不良の原因となります。結露が発生した場合は、電源コードを抜き、乾燥させるか、充分室温に慣らしてから使用してください。
- ・ほこりが多い場所や油煙が飛ぶ場所、腐蝕性ガスがかかる場所、磁界が強い場所に置かないでください。故障や動作不良の原因となります。
- ・本機を他の機器と重ねて置かないでください。熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。
- ・近くに雷が発生したときは、電源コードやケーブル類を取り外し、使用をお控えください。落雷によって火災や故障の原因となることがあります。
- ・本機のアースは必ずとってください。落雷時のダメージを軽減したり、感電防止やノイズ防止の効果があります。
- ・本機のアナログポートにはモデムを接続して使用することができますが、モデムの最高通信速度で接続できるとは限りません。モデムの通信速度は、その時の通信回線の環境や相手先の機器との相性によって決まりますので、モデムの最高性能よりも遅い速度でしか接続できない場合があります。
- ・無線 LAN を使用する場合は、金属製の壁や机、電子レンジ、他の無線 LAN 装置の近くへの設置を避けるようにしてください。また、遮蔽物があると、通信距離が短くなる場合があります。
- ・無線を使った第三者による ISDN 回線の不正使用を防ぐため、WEP 機能を ON にして使用することを強くお勧めします。
- ・本機のご使用にあたり、周囲の環境によっては電話、ラジオ、テレビなどに雑音が入る場合があります。この場合は本機の設置場所、向きを変えてみてください。

各部の名称と機能

前面

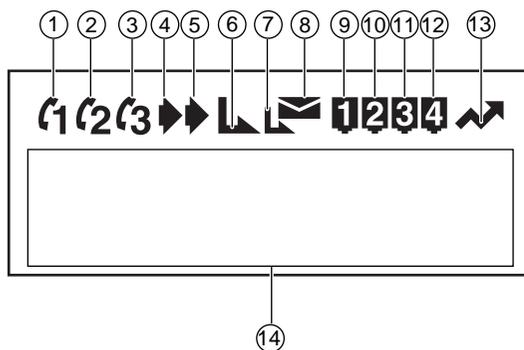


- ① LAN ランプ
LAN ポートの使用状態を表わすランプです。接続中は点灯、通信中は点滅します。(P.96)
- ② AIR ランプ
無線 LAN の使用状態を表わすランプです。通信可能な状態のときは点灯、通信中は点滅します。(P.96)
- ③ MSG ランプ
登録したメールアドレスへメールが着信しているときに、点滅します。(P.96)
- ④ L1 ランプ
ISDN の回線状態を表わすランプです。回線が使用可能なときに点灯します。(P.96)
- ⑤ B1 ランプ
ISDN B1チャネルの使用状態を表わすランプです。接続中は点灯、通信中は点滅します。(P.96)
- ⑥ B2 ランプ
ISDN B2チャネルの使用状態を表わすランプです。接続中は点灯、通信中は点滅します。(P.96)
- ⑦ POWER ランプ
電源の状態を表わすランプです。電源がオンのときは点灯、停電でバックアップ電源(電池)により動作しているときは点滅します。(P.96)
- ⑧ ディスプレイ
ルータの状態やメッセージが表示されます。(P.11)
- ⑨ CONN/DISCONN ボタン
プロバイダへのルータ接続を手動で切断したり、接続するときに押します。(P.92)
- ⑩ SELECT ボタン
本機のメニュー項目や設定項目を選択するときに押します。
- ⑪ ENTER ボタン
選択したメニューや項目を決定するときに押します。
- ⑫ CANCEL ボタン
メニュー階層をもどるときに押します。
- ⑬ POWER スイッチ
電源をオン/オフするスイッチです。(P.29)



- ① 極性反転スイッチ
ISDN Uポートの極性を反転させるスイッチです。
(P.30)
- ② ISDN Uポート
NTTのISDN回線とモジュラーケーブルで接続します。(P.25)
- ③ DSUスイッチ
内蔵のDSUを切り離すスイッチです。内蔵のDSUを使うときはON側、使わないときはOFF側にします。(P.25,26)
- ④ ターミネータスイッチ
ISDN機器のターミネータ(終端抵抗)をオン/オフするスイッチです。ISDN S/Tポートに何も接続していないときはON側、他のISDN機器を接続しているときは、終端の機器のターミネータを1つだけONにし、その他の機器はすべてOFFにします。(P.30)
- ⑤ ISDN S/Tポート
ISDN機器を接続するポートです。内蔵のDSUを使わない場合は、このポートとDSUまたはISDN機器をISDNケーブルで接続します。(P.26)
- ⑥ TELポート
アナログの電話機やFAX、モデムを3台まで接続できます。停電時はバックアップ電源により、TEL1ポートのみ使用可能となります。(P.27)
- ⑦ アース端子
アースコードを接続します。必ず接続してください。(P.28)
- ⑧ 換気口
内部の熱を逃がすための穴です。
- ⑨ 機器名
ISDN回線の申し込み時には、ここに表示されている機器名を記入します。(P.14)
- ⑩ 認証番号
ISDN回線の申し込み時には、ここに表示されている認証番号を記入します。2つとも記入してください。(P.14)
- ⑪ LANスイッチ
LAN1ポートの極性を切り替えるスイッチです。パソコンやHUBのUPLINKポートと接続するときはx側、HUBのUPLINK以外のポートと接続するときは=側にします。(P.35)
- ⑫ LANポート
パソコンのLANポートまたはHUBのポートとLANケーブルで接続します。(P.33)
- ⑬ 電池ボックス
停電時のバックアップ電源用電池を入れます。停電中でもTEL1ポートに接続したアナログ電話機が使用可能になります。(P.22)
- ⑭ 電源コード
AC100V、50/60Hzのコンセントに接続します。(P.28)
- ⑮ MACアドレス(底面)
機器固有のネットワーク識別番号です。下6桁がESS-IDの工場出荷値に設定されています。

ディスプレイ



- ① TEL 1 ポート表示
TEL 1 ポートの使用状態を表わします。TEL 1 ポートに接続したアナログ機器を使用中に点灯します。
- ② TEL 2 ポート表示
TEL 2 ポートの使用状態を表わします。TEL 2 ポートに接続したアナログ機器を使用中に点灯します。
- ③ TEL 3 ポート表示
TEL 3 ポートの使用状態を表わします。TEL 3 ポートに接続したアナログ機器を使用中に点灯します。
- ④ B1 チャンネル表示
B1チャンネルがデータ通信で使用されているときに点灯します。
- ⑤ B2 チャンネル表示
B2チャンネルがデータ通信で使用されているときに点灯します。
- ⑥ 着信転送表示
着信転送が設定されている場合に点灯します。
- ⑦ メール転送表示
メール転送が設定されている場合に点灯します。
- ⑧ メール着信表示
メール着信機能が設定されている場合に点灯します。
- ⑨ LAN1 ポート表示
LAN1 ポートに機器が接続されている場合に点灯します。
- ⑩ LAN2 ポート表示
LAN2 ポートに機器が接続されている場合に点灯します。
- ⑪ LAN3 ポート表示
LAN3 ポートに機器が接続されている場合に点灯します。
- ⑫ LAN4 ポート表示
LAN4 ポートに機器が接続されている場合に点灯します。
- ⑬ 自動接続表示
プロバイダ自動接続が設定されている場合に点灯します。
- ⑭ メッセージ表示
ルータの動作状態や各種情報、メニューが表示されます。ISDN 回線の場合、通常は日付と時刻が表示されています。

第 1 章

準備しよう

この章では、RT60wを使う上で必要な契約や準備について説明しています。設置を始める前にお読みになり、必要なものや情報を揃えてください。

1-1	回線の契約について	14
1-2	プロバイダとの契約について	16
1-3	LAN ポートについて	18
1-4	無線 LAN カードについて	19

1-1 回線の契約について

本機をお使いになるには、ISDN回線または専用線の契約が必要です。

■ ISDN 回線

電話機のみで使う場合やインターネットへダイヤルアップで接続する場合、フレッツ・ISDN(IP接続サービス)で接続するは、ISDN回線が必要です。これからISDN回線を引く場合は、NTTへお申し込みください。

申込票の各項目は、下記を参考にご記入ください。

お取付工事

・通信機器の名称	RT60w
・メーカー	YAMAHA
・認証番号	CD00-0823JP L00-0221
・DSU	DSU 内蔵型 TA お客さま工事、またはNTT工事

コンサルティング項目

・インタフェース形態	
およびレイヤ1起動種別	P-MP 常時またはP-MP 呼毎
・発信者番号通知サービス	通常通知(通話ごと非通知)*
・ユーザ間情報通知サービス	着信許可
・通信中着信通知サービス	許可
・グローバル着信	有
・i・ナンバーサービス	複数の電話番号を取得したい場合(3つまで)
・ダイヤルインサービス	4つ以上の電話番号を取得したい場合

*「通常非通知(回線ごと非通知)」を選択した場合は、番号通知を利用した一部のサービスが受けられない場合があります。

MEMO

- ・コンサルティング項目の無料項目については、なるべく許可で申し込むことをお勧めします。実際に使うときの動作は、本機の機能で使わないように設定することができます。

■ 専用線

専用線を利用する場合は、いずれかのプロバイダに専用線接続サービスをお申し込みください。OCNエコノミーやデジタルアクセス64などの申し込みも一緒に手配されます。ただし、一般の電話やFAXと発着信することはできません。詳しくは、各プロバイダへご相談ください。

申込票の各項目には、下記を参考にご記入ください。

・通信機器の名称	RT60w
・メーカー	YAMAHA
・認証番号	CD00-0823JP L00-0221

ISDNの付加サービスについて

ISDN回線では、次のようなサービスが利用できます。サービスによって申し込みが必要なものや有料のものがあります。この他にもさまざまなサービスがありますので、詳しくはNTTへお問い合わせください。

発信者番号通知：	発信者の番号を相手に通知できます。
サブアドレス通知：	ISDN回線やPHSからの通話の場合に、接続した機器を指定して着信させることができます。
i・ナンバー（有料）：	電話番号を最大2つまで増設でき、アナログ回線からの通話でも最大3つの電話番号を使い分けて着信させることができます。
ダイヤルイン（有料）：	電話番号を最大99個まで増設できます。アナログ回線からの通話でも電話番号を使い分けて着信させることができます。
料金情報通知：	通話にかかった料金が通知されるサービスです。
ユーザ間情報通知：	通信開始時と終了時にメッセージを送受信できます。
通信中着信通知サービス：	通話中に着信を知らせるサービスです。

[フレックスホン]

INS キャッチホン（有料）：	通話中に着信があったとき、通話中の相手を保留にして着信に応答できるキャッチホンサービスです。
三者通話（有料）：	通話中に第三者を呼び出し、三者間通話ができます。
通信中転送（有料）：	通話中の通信を第三者へ転送できます。
着信転送（有料）：	着信した通信を応答する前に第三者へ転送できます。

MEMO

- ・本機では、フレックスホンとほぼ同等の機能を本機だけで実現することができます。フレックスホン同様に4つのサービスの先頭に「擬似」を付けて、擬似キャッチホン、擬似通信中転送、擬似三者通話、擬似着信転送と呼んで区別しています。
- ・NTTのフレックスホンでは交換機がサービスを行うので、回線の状態にかかわらず利用することができます。
- ・擬似フレックスホンでは、ISDN回線の2本同時に通信できる特徴を利用して、擬似的に同等の機能を実現しています。したがって、擬似フレックスホン機能が働いている時は、2回線共に通話中となり、それに伴った課金が行われます。

1-2 プロバイダとの契約について

インターネットへ接続するためには、いずれかのプロバイダとの接続契約が必要です。



注意

・プロバイダを変更したり、解約したときは、必ず本機から不要な設定を削除してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない課金を請求される場合があります。

■ 端末型ダイヤルアップ接続契約

必要なときだけ電話をかけてインターネットへ接続する場合は、いずれかのプロバイダに"端末型ダイヤルアップ接続"の契約でお申し込みください。すでにモデムを使ってインターネットへ接続していた場合は、そのプロバイダがISDNに対応していれば、同じ契約のまま本機を使用することができます。

設定を行うためには、次の情報が必要です。契約時に入手した接続情報の書類を確認してください。

ドメイン名

ネームサーバアドレス (DNS サーバアドレス)

ISDN 対応アクセスポイントの電話番号

回線速度 (64kbit/s、128kbit/s MP 接続)

ユーザID (アカウント名)

パスワード



注意

・RT60wをダイヤルアップルータとしてご使用になる前、もしくは新たにプロバイダ契約を行う前に、必ずプロバイダの契約上ダイヤルアップルータによる複数台のパソコン接続が可能であることを確認してください。プロバイダによっては禁止もしくは別の契約が必要な場合があります。契約を違反して本機を使用すると、予想外の料金を請求される場合があります。使用できない場合は、必要な契約を行うか、使用可能な他のプロバイダと契約してください。

■ フレッツ・ISDN (IP 接続サービス) 接続契約

ISDN回線でインターネットへ常時接続する場合は、NTTとフレッツ・ISDN接続契約を行い、フレッツ・ISDN対応プロバイダに"フレッツ・ISDN (IP 接続サービス) 接続"の契約でお申し込みください。

設定を行うためには、次の情報が必要です。契約時に入手した接続情報の書類を確認してください。

NTT から通知される情報

ISDN 対応アクセスポイントの電話番号

プロバイダから通知される情報
ドメイン名
ネームサーバアドレス (DNS サーバアドレス)
ユーザID (アカウント名)
パスワード

■ 専用線接続契約

専用線で接続する場合は、いずれかのプロバイダに"専用線接続"の契約でお申し込みください。

設定を行うためには、次の情報が必要です。契約時に入手した接続情報の書類を確認してください。

ドメイン名
ネームサーバアドレス (DNS アドレス)
IP アドレス番号 (例 : 192.168.0.112)
ネットマスク (例 : 225.225.225.240)
回線速度 (64kbit/s、128kbit/s)

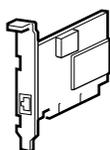
1-3 LANポートについて

本機を有線LAN接続で使う場合は、LANポート（10BASE-Tポート）が必要です。お使いのパソコンにLANポートがない場合は、本機の設置を始める前に、10BASE-T対応LANボードまたは10BASE-T対応LANカード（PCカード）を取り付けて、LANポートを増設してください。

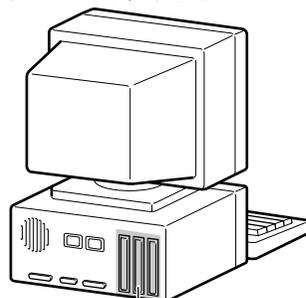
取り付け後は、LANボード/カードのマニュアルにしたがって、正常に動作することを確認してください。もし、正常に動作していない場合は、先にLANボード/カードの問題を解決してから、本機の設置を行ってください。

■ デスクトップ型やタワー型パソコンの場合

デスクトップ型やタワー型パソコンの場合は、拡張スロットにLANボードを取り付けます。スロットには、PCIやISAなどの種類があるので、お使いのパソコンで空いているスロットの種類を調べてから、対応したLANボードを取り付けてください。



LANボード



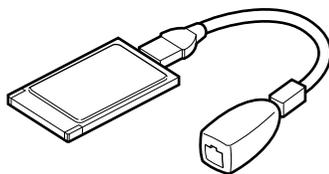
拡張スロット

購入時のチェックポイント

- ・ OSの種類（Windows95/98、MacOS など）
- ・ スロットの種類（PCI、ISA、Cバス、Nubus など）
- ・ コネクタの種類（10BASE-Tまたは10BASE-T/100BASE-TX）

■ ノート型パソコンの場合

ノート型パソコンの場合は、PCカードスロットにLANカードを取り付けます。PCカードスロットの規格や添付ソフトの種類があるので、お使いのパソコンに対応したPCカード型LANカードを取り付けてください。



LANカード

購入時のチェックポイント

- ・ OSの種類（Windows95/98、MacOS など）
- ・ PCカードスロットの種類（CardBus、PCMCIA Type I/Type II/Type III）
- ・ コネクタの種類（10BASE-Tまたは10BASE-T/100BASE-TX）

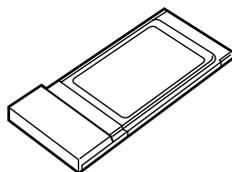
1 - 4 無線 LAN カードについて

本機は IEEE802.11b 準拠の 11Mbit/s 無線 LAN アクセスポイントを内蔵しており、対応した 11Mbit/s 無線 LAN カードもしくは 11Mbit/s 無線 LAN ボードをパソコンに取り付けることにより、ワイヤレスでダイヤルアップルータや LAN を使用することができます。

無線 LAN カード (ボード) は、下記の製品を推奨しています。その他の製品の動作確認情報については、NetVolante ホームページ (<http://NetVolante.rpro.yamaha.co.jp/>) をご覧ください。

■ ノート型パソコンの場合

ノート型パソコンの場合は、PC カードスロットに無線 LAN カードを取り付けます。PC スロットの規格や添付ソフトに種類があるので、お使いのパソコンに対応した無線 LAN カードを取り付けてください。



無線 LAN カード

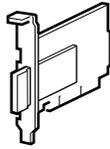
推奨品

下記に示す無線 LAN カードが、ご使用になるパソコンで動作することを、各社ホームページ、カタログなどで事前にご確認ください。

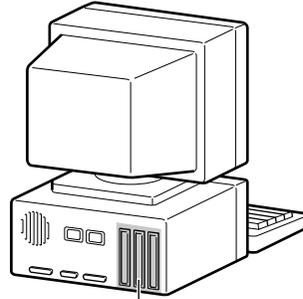
- ・ エレコム社製 11Mbps 対応無線 LAN イーサネット PC カード LD-WL11/PCC
対応機種 : PC/AT 互換機(DOS/V)、NEC PC98-NX
対応 OS : Windows 98/95/Me/NT 4.0、Windows 2000 対応予定
最新ドライバー情報など詳細につきましては、エレコム社ホームページをご覧ください。(エレコムホームページ <http://www.elecom-lanec.com>)
- ・ コレガ社製 11Mbps 規格対応 無線 PC カード
corega Wireless LAN PCC-11 (型番 : CG-WLPCC-11)
PC インターフェース : PC Card Standard (3.3V 仕様) 5V 仕様は動作不可
対応パソコン : DOS/V、PC98-NX シリーズ
NEC 製 PC98-21Ne および EPSON 製 98 互換機を除く
対応 OS : Windows95(OSR2 以上)、Windows98 (Second Edition 含)
WindowsMe、Windows2000、Windows NT4.0
東芝製 ノート PC で Windows2000 をご使用の場合は
お使いいただけません。
Windows NT4.0 上でお使い頂くためには、別途カードウィザード
ソフトウェアが必要になります。
最新ドライバー情報など詳細につきましては、コレガ社ホームページ
をご覧ください。(corega ホームページ <http://www.corega.co.jp/>)

■ デスクトップ型やタワー型パソコンの場合

デスクトップ型やタワー型パソコンの場合は、拡張スロットに無線LANボードを取り付けます。スロットにはPCIやISAなどの種類があるので、お使いのパソコンで空いているスロットの種類を調べてから、対応したLANボードを取り付けてください。



無線LANボード



拡張スロット

推奨品

下記に示す無線LANボードが、ご使用になるパソコンで動作することを、各社ホームページ、カタログなどで事前にご確認ください。

- ・エレコム社製 11Mbps 対応無線LAN イーサネット PCI ボード LD-WL11/PCI
対応機種：PC/AT 互換機(DOS/V)、NEC PC98-NX
対応OS：Windows 98/Me/2000/NT 4.0
最新ドライバー情報など詳細につきましては、エレコム社ホームページをご覧ください。(エレコムホームページ <http://www.elecom-laneed.com>)

第 2 章

ルータを設置しよう

この章では、RT60w の設置方法について説明しています。

ISDN 回線の場合は、2-1 ~ 2-5 の手順に従って設置を行い、電話機が使えることを確認します。インターネットに接続する場合は、接続方法に応じて 2-7 (有線 LAN) または 2-8 (無線 LAN) の手順でパソコンと接続します。

専用線の場合は、2-9 の手順に従って接続および動作確認を行います。

本機各部の名称と機能については「各部の名称と機能」(P.9) をご覧ください。

2-1	バックアップ電池をセットする	22
2-2	ISDN 回線を接続する	24
	本機の DSU を使う場合	25
	他の ISDN 機器の DSU を使う場合	26
2-3	電話機や FAX を接続する	27
2-4	電源を接続する	28
2-5	動作を確認する	29
2-6	TEL ポートを設定する	32
2-7	LAN ポートに接続する	33
	新たに LAN を構築する場合	34
	既存の LAN に DHCP サーバがある場合	37
2-8	無線 LAN に接続する	43
2-9	専用線を接続する	47
	回線を接続する (本機の DSU を使う場合)	48
	回線を接続する (他の DSU を使う場合)	49
	電源を接続する	50
	パソコンを接続する	51

2-1 バックアップ電池をセットする

ISDN回線では、通常停電時に回線が使えなくなってしまうますが、バックアップ電池を入れることにより、停電でも約4時間 TEL1 ポートに接続したアナログ電話機で通話できるようになります。

- MEMO
- ・ 停電以外の時は、乾電池を入れなくても本機を使用できます。
 - ・ 本機を専用線で使用する場合や ISDN 回線に接続せずに使用する場合は、乾電池は不要です。

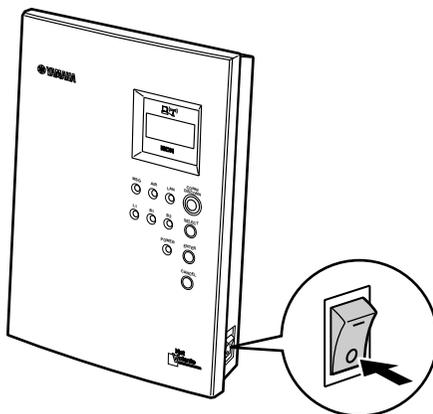
■ 必要なもの

乾電池

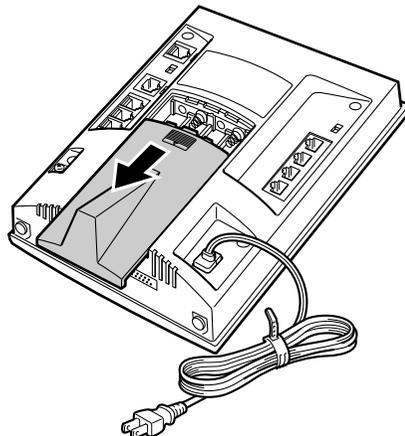
同一銘柄で新品の単3形アルカリ乾電池を8本ご用意ください。

■ 接続のしかた

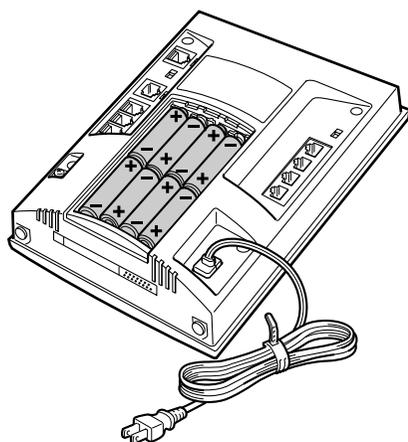
- 1 POWER スイッチの「**▶**」側を押して、本機の電源をオフにします。



- 2 本機背面の電池カバーを押して、電池カバーを開きます。



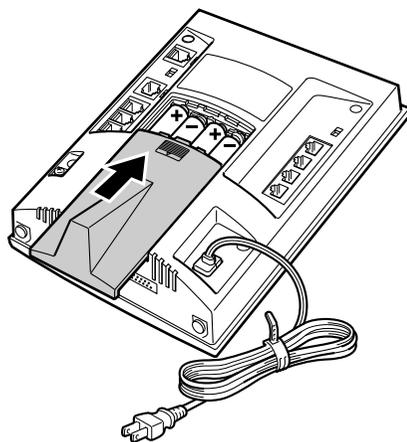
3 乾電池を図の方向にセットします。



警告

・乾電池を入れるときには、電池のプラス(+) マイナス(-)を本体の表示に合わせてください。間違えると電池の破裂、液漏れにより、火災・化学やけどや周囲を汚損する原因となることがあります。

4 電池カバーを閉じます。

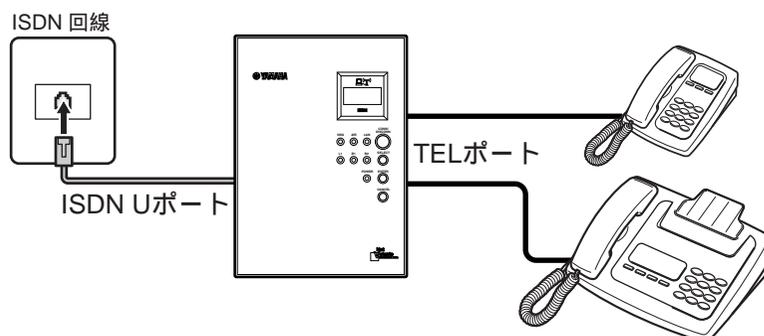


2-2 ISDN 回線を接続する

本機に ISDN 回線を接続する場合、2つの方法があります。ISDN 回線の申込票をご確認の上、該当する方法で接続してください。

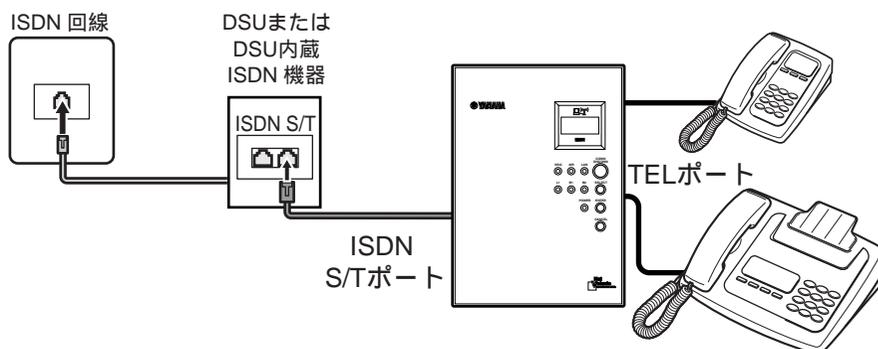
本機の DSU を使う場合

- ・ 申込票の「DSU」項目で、「DSU 内蔵 TA」を選択したとき
- ・ 工事後の ISDN 回線が、通常のもジュラーjackと同じ形（6 極端子）をしているとき



他の ISDN 機器の DSU を使う場合

- ・ 申込票の「DSU」項目で、「NTT 工事」を選択したとき
- ・ 工事後の ISDN 回線が、通常のもジュラーjackより幅の広い形（8 極端子）をしているとき
- ・ 他の ISDN 機器や DSU と接続するとき



本機の DSU を使う場合

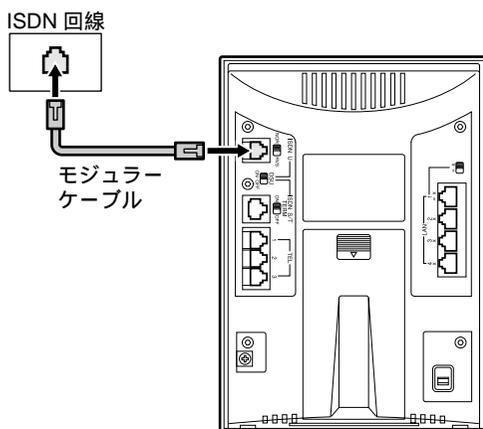
■ 必要なもの

モジュラーケーブル

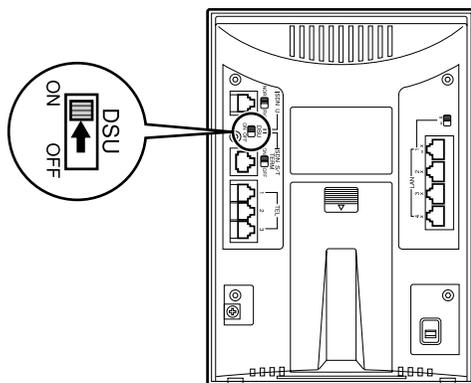
一般に市販の電話用ケーブル(2極用、4極用、6極用のいずれでも可、ただしビジネスホン専用の特殊な結線のものを除く)が使用できます。接続に必要な距離に合わせてご用意ください。本機には1本(3m)付属しています。

■ 接続のしかた

- 1 回線のモジュラージャックと本機のISDN Uポートをモジュラーケーブル(灰色)で接続します。



- 2 DSU スイッチを「ON」側にします。



MEMO 本機のS/Tポートに他のISDN機器を接続して使うことが可能です。ただし、DSU内蔵でかつDSU切り離しができない機器の場合は、次ページの手順で、その機器のDSUを使って接続してください。

他のISDN 機器の DSU を使う場合

■ 必要なもの

ISDN ケーブル

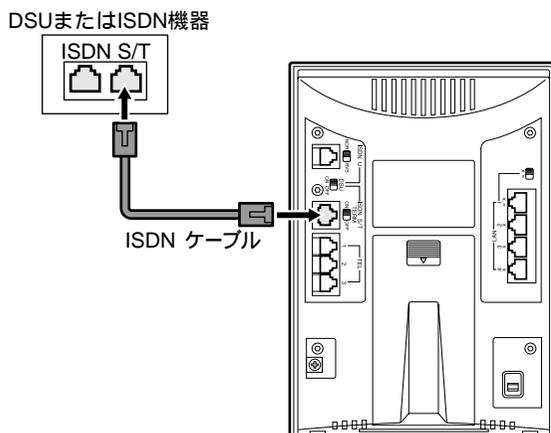
市販のISDNケーブルをご用意ください。ただし、DSUや各ISDN機器間の総延長が150m以内になるようにしてください。また、接続できるISDN機器は最大8台です。

MEMO

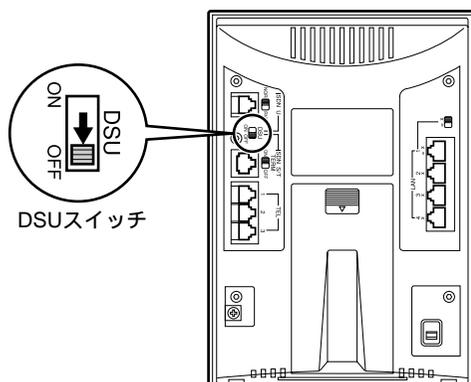
・ISDNケーブルは、LANケーブルのコネクタ(RJ-45)と同じ形状をしています。間違えないように注意してください。

■ 接続のしかた

- 1 DSU(またはISDN機器のS/T点ポート)と本機のISDN S/TポートをISDNケーブルで接続します。



- 2 DSUスイッチを「OFF」側にします。



2-3 電話機やFAXを接続する

ISDN回線の場合は、本機のTELポートに電話機やFAX、モデムなどのアナログ機器を3台まで接続できます。TEL1ポートは、停電時のバックアップ機能があるので、電話機や受話器付FAXを接続してください。

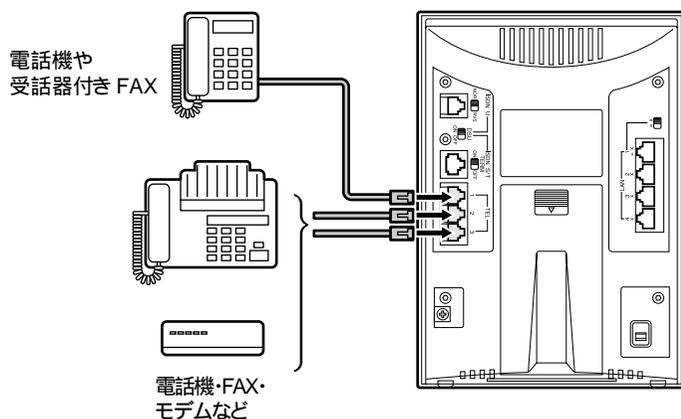
- MEMO
- ・各TELポートにはアナログ機器1台のみ接続可能です。分岐アダプタや切替器などで2台以上接続した場合は正しく動作しません。
 - ・アナログ機器は3台まで接続できますが、ISDN回線を同時に使えるのはルータによる通信と合わせて2通話までです。

■ 必要なもの

- モジュラーケーブル 市販の電話用ケーブル(2極用、4極用、6極用のいずれでも可、ただしビジネスホン専用の特殊な結線のものは除く)が使用できます。アナログ機器の数や距離に合わせてご用意ください。

■ 接続のしかた

- 1 電話機と本機のTELポートをモジュラーケーブルで接続します。



2-4 電源を接続する

本機を使用するときは、アースコードと電源コードをコンセントに接続します。



注意

- ・本機のアースコードは必ず接続してください。落雷時のダメージを軽減したり、感電防止やノイズ防止の効果があります。
- ・アースコードは必ずコンセントのアース端子に接続してください。ガス管などには絶対に接続しないでください。

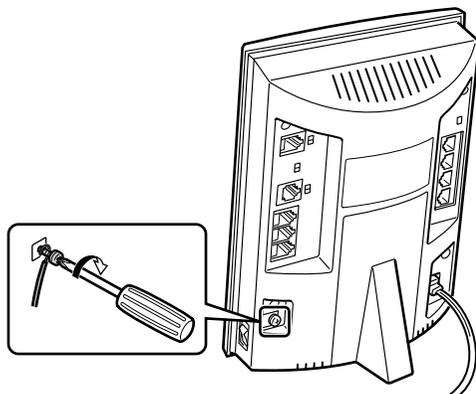
■ 必要なもの

アースコード

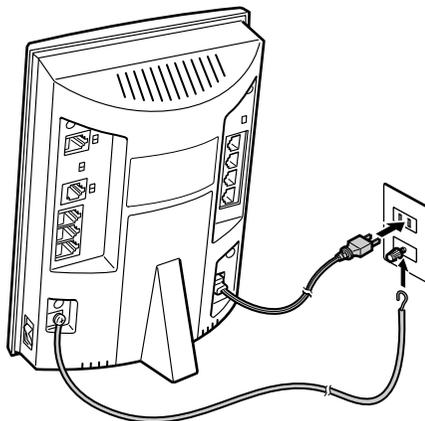
設置場所に合わせて市販のアースコードをご用意ください。

■ 接続のしかた

- 1 アース端子のネジを⊕ドライバーで緩め、アースコードをアース端子に接続して固定します。



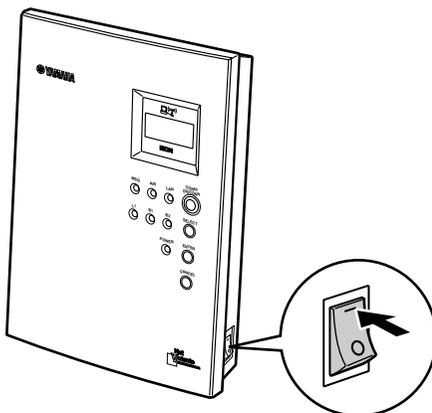
- 2 アースコードと電源コードをコンセントに接続します。



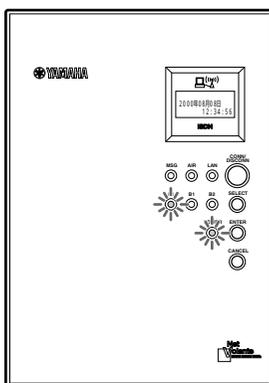
2-5 動作を確認する

回線や電話機の接続が終わったら、ルータの動作を確認します。

- 1 POWERスイッチの「|」側を押して、本機の電源をオンにします。
電源をオンにすると、ランプが数回点滅します。



- 2 POWERランプとL1ランプが点灯していることを確認します。



両方のランプが点灯していれば正常です。手順6へ進んでください。
点灯していないときは次の手順へ進み、順に確認してください。

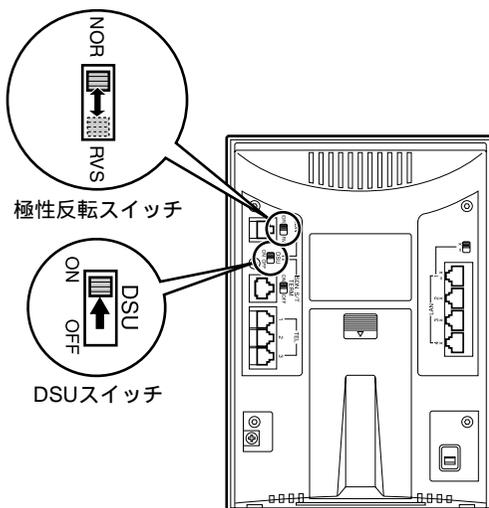
MEMO ・ISDN回線で何も発着信していないときは、ディスプレイに日付と時刻が表示されます。

- 3 POWERランプが消灯している場合は、一旦POWERスイッチの「|」側を押して電源をオフにし、電源コードの接続状態やコンセントに電気が来ているかを確認します。
コンセントに他の電気製品を接続し、電源が入るかを確認してください。

- 4** ディスプレイに「ISDNカイセンショウガイ」が表示されている（ISDN L1 ランプ消灯）場合は、一旦 POWER スwitchの「**|**」側を押して電源をオフにし、各Switchの設定を確認します。

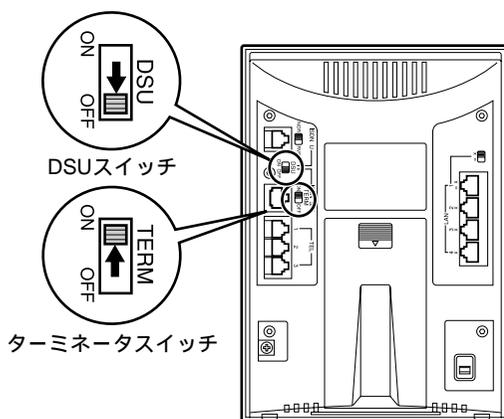
本機の DSU を使う場合

DSU スwitchが「ON」側になっていることを確認します。すでに「ON」側になっている場合は、極性反転スswitchを逆側にします。



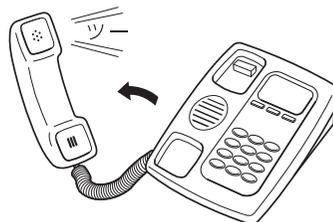
他の ISDN 機器の DSU を使う場合

DSU スwitchが「OFF」側になっていることを確認します。すでに「OFF」側になっている場合は、ターミネータスswitchを「ON」側にします。

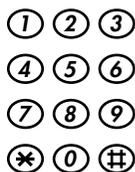


- 5** POWER スwitchの「**|**」側を押して本機の電源をオンにし、ランプやディスプレイの表示を確認します。

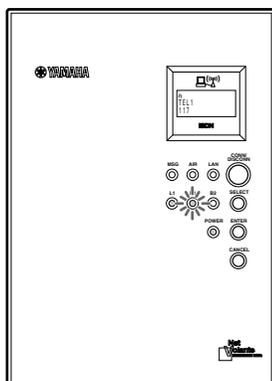
6 電話機の受話器を上げて、ツーという発信音を確認します。



7 117 など、試しに電話をかけます。



電話がつながると、ISDN B1またはB2ランプが点灯します。



8 受話器を置いて、電話を切ります。



2-6 TELポートを設定する

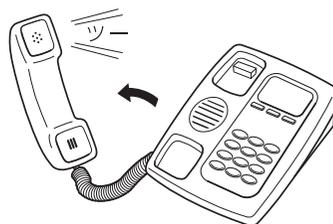
何も接続していないTELポートが[着信可能]に設定されていると、そのTELポートにも着信してしまい、回線が話し中にならない場合があります。何も接続していないTELポートがある場合は、TELポートに接続した電話機を使って、そのTELポートを[使用しない]に設定してください。本機の工場出荷値は、すべてのTELポートが[発信・着信可能]に設定されています。

MEMO ・ 3つのTELポートすべてにアナログ機器を接続した場合は、この設定は不要です。

■ 設定のしかた

本機のTELポートに接続した電話機を使って、各TELポートを設定します。

1 受話器を上げます。



発信音が聞こえます。

2 接続していないTELポート毎に設定番号を押します。

TEL1ポートを使用しない場合

✳️ # 1 4 1 0 #

TEL2ポートを使用しない場合

✳️ # 1 4 2 0 #

TEL3ポートを使用しない場合

✳️ # 1 4 3 0 #

"ピー"という音が聞こえ、設定が変更されます。設定内容が不適切だったり、正常に変更されなかったときは、"ピー、ピー"と聞こえますので、いったん受話器を置いて手順1からやり直してください。

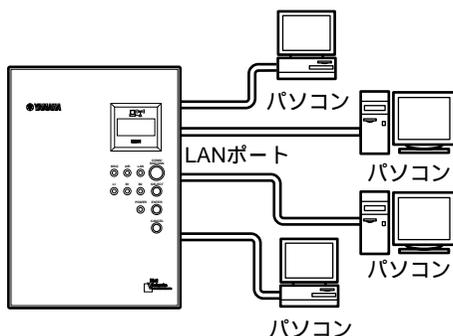
3 受話器を置きます。

MEMO ・ その他の電話機能の設定操作については、ユーザズマニュアル「2-2 電話機で設定する」をご覧ください。

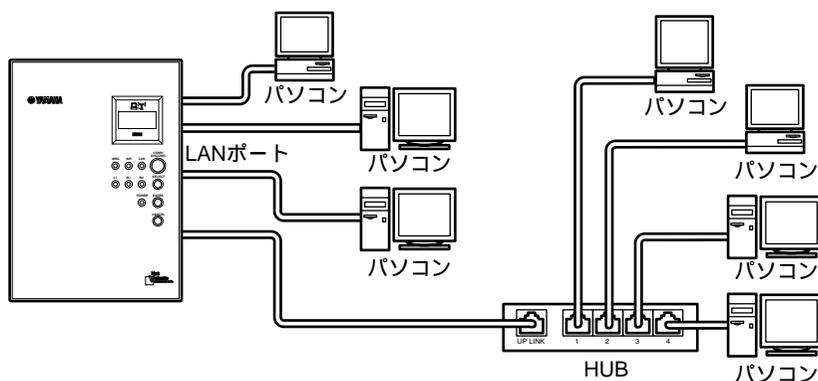
2-7 LANポートに接続する

パソコンのLANポートに接続する場合や既存のLANに接続する場合は、本機のLANポートに接続します。本機のLANポートには、パソコンを4台まで接続できます。またHUBを追加することにより、パソコンを5台以上接続することも可能です。パソコンの台数に合わせてHUBをご用意ください。

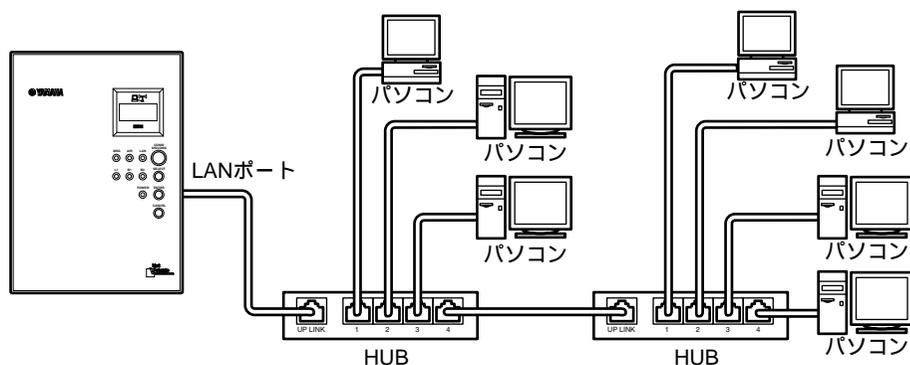
4台までのパソコンを接続する場合の例



5台以上のパソコンを接続する場合の例



既存のLANに接続する場合の例



注意

・ DHCPサーバを使用しているLANに本機を接続する場合は、下記の設定が必要です。設定を行わないとLANの通信ができなくなります。

本機の DHCP サービス : OFF

本機のIPアドレス : DHCPクライアントまたは指定されたIPアドレス

新たにLANを構築する場合

本機のHUB機能を使って新たにLANを構築する場合は、本機のDHCPサーバを使う設定で使用します。この場合は、工場出荷設定のまま接続できます。

■ 必要なもの

LAN ケーブル

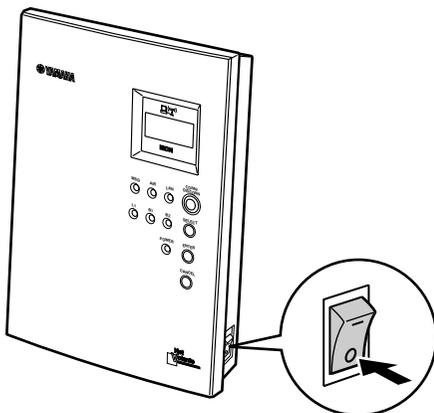
パソコンの台数や距離に合わせて10BASE-T対応のLANケーブル(ストレートタイプ)をご用意ください。(本機に1本付属)

HUB

パソコンの台数に合ったポート数を備えた10BASE-T対応のHUBをご用意ください。

■ 接続のしかた

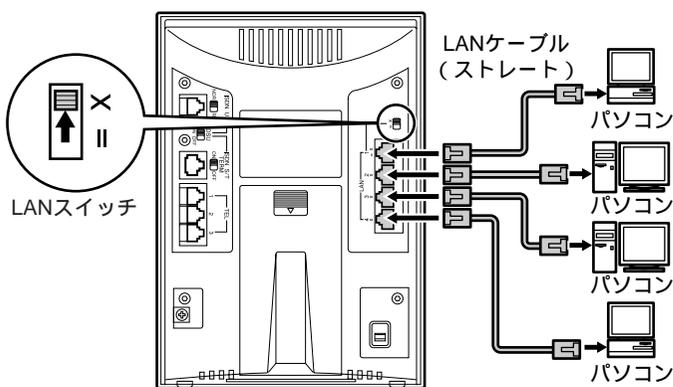
- 1 POWERスイッチの「**↑**」側を押して、本機の電源をオフにします。



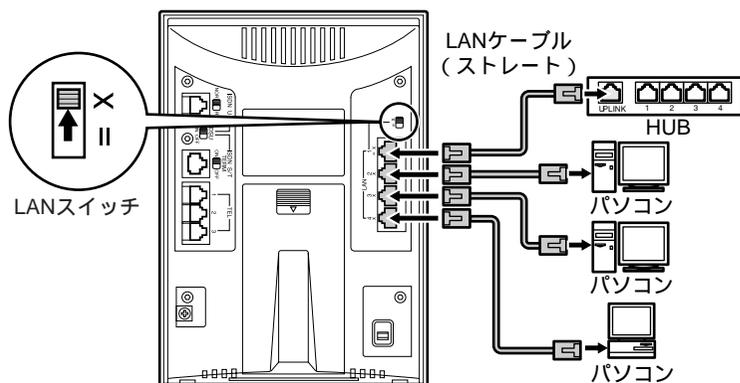
- 2 パソコンのLANポートやHUBのポートと本機のLANポートをLANケーブルで接続します。

4台までのパソコンを接続する例

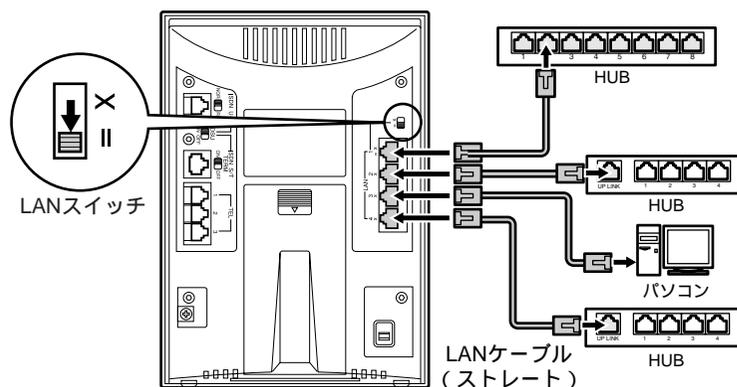
本機のLANポートに接続します。LAN1ポートに接続した場合は、LANスイッチを「**×**」側にしてください。



5 台以上のパソコンを接続する例
 HUBの場合は、UPLINK(カスケード)ポートを接続します。LAN1ポートに接続した場合は、LANスイッチを「×」側にしてください。



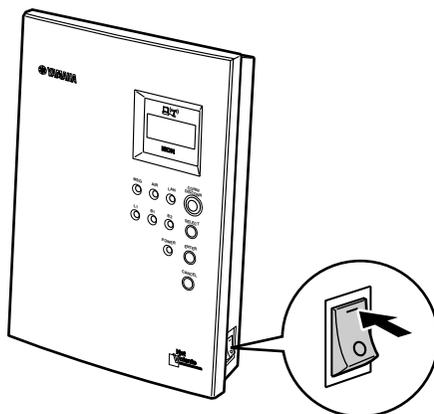
HUBにUPLINK(カスケード)ポートがない場合や空いていない場合は、HUBのポートと本機のLAN1ポートを接続し、LANスイッチを「=」側にしてください。



MEMO

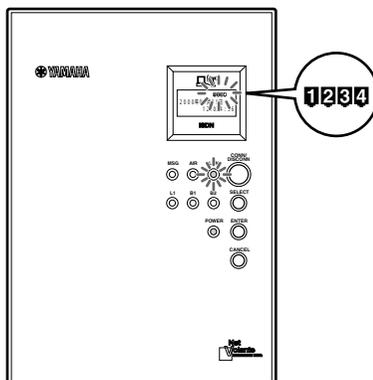
・HUBは、10BASEの場合4段(階層)まで、10/100BASE混在の場合2段(階層)までしかUPLINK(カスケード)接続することはできません。ポート数の多いHUBやスイッチングHUBなどを使用して、階層数が規定以内になるように設置してください。

3 POWERスイッチの「|」側を押して、本機の電源をオンにします。



ランプが数回点滅した後、POWERランプとISDN L1ランプが点灯します。

- 4** パソコンやHUBの電源をオンにし、LANランプが点灯または点滅することを確認します。
- 本機のディスプレイに接続したLANポートの表示が点灯し、LANランプが点灯または点滅すれば正常です。



- MEMO**
- ・本機に接続したパソコンやHUBの電源がすべてオフの状態では、LANランプは点灯または点滅しません。
 - ・本機のディスプレイのLANポート表示は、接続されているポートのみ点灯します。LANポート表示が通信中に点滅することはありません。

- 5** LANランプが点灯または点滅しない場合は、LANケーブルの接続状態および、パソコンやHUBの電源を確認します。

Win

Mac

既存の LAN に DHCP サーバがある場合

既存 LAN に接続する場合すでに DHCP サーバがある場合は、本機の DHCP サーバ機能をオフにします。次の手順で本機の設定を行ってから、LAN に接続してください。

■ 必要なもの

LAN ケーブル

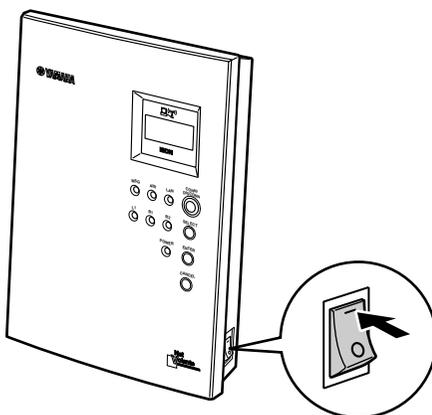
パソコンの台数や距離に合わせて10BASE-T対応のLAN ケーブル(ストレートタイプ)をご用意ください。(本機に1本付属)

HUB

パソコンの台数に合ったポート数を備えた10BASE-T対応のHUBをご用意ください。

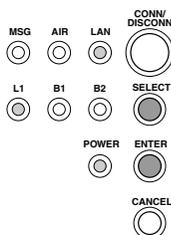
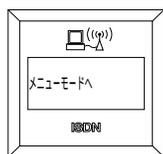
■ 設定のしかた

- 1 POWER スイッチの「|」側を押して、本機の電源をオンにします。



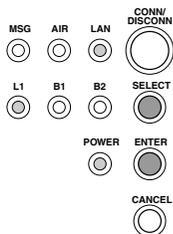
ランプが数回点滅した後、POWER ランプと ISDN L1 ランプが点灯します。

- 2 [SELECT] ボタンを押して [メニューモードへ] を表示し、[ENTER] ボタンを押します。

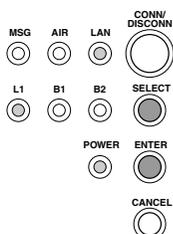


メニュー項目が表示されます。

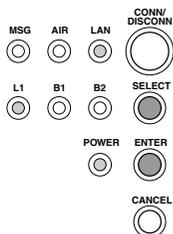
- 3** [SELECT] ボタンを何度か押して [DHCP サービス] を表示し、[ENTER] ボタンを押します。



- 4** [SELECT] ボタンを押して [OFF] を選び、[ENTER] ボタンを押します。



- 5** [SELECT] ボタンを何度か押して [IPアドレスセッテイ] を表示し、[ENTER] ボタンを押します。



2

ルータを設置しよう

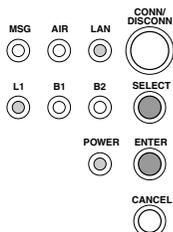
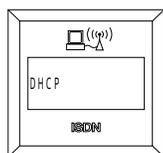
Win

Mac

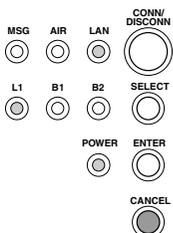
6 [SELECT] ボタンを押して本機の IP アドレスとネットマスクを設定し、[ENTER] ボタンを押します。

本機の IP アドレスが指定されている場合は、IP アドレスとネットマスクを一桁ずつ設定してください。最後の桁で [ENTER] ボタンを押すと、設定が変更されます。

本機の IP アドレスが指定されていない場合は、最初の桁で [DHCP] を選択してください。[ENTER] ボタンを押すと、設定が変更されます。

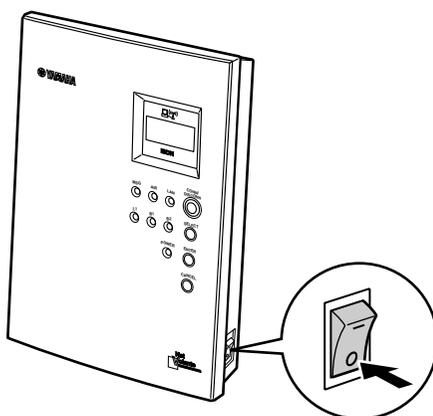


7 [CANCEL] ボタンを何度か押して、日付・時刻表示にもどります。



■ 接続のしかた

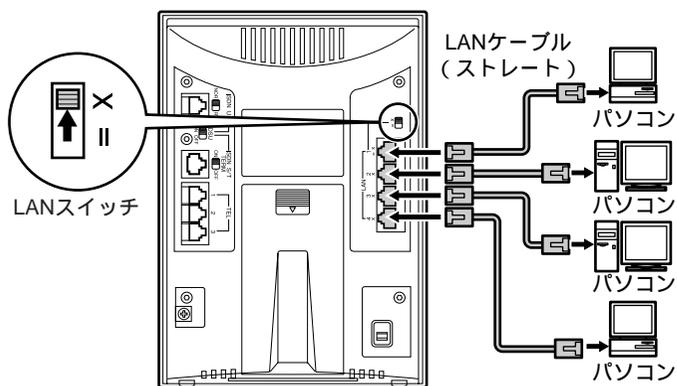
- 1 POWER スイッチの「**↑**」側を押して、本機の電源をオフにします。



- 2 パソコンのLANポートやHUBのポートと本機のLANポートをLANケーブルで接続します。

4 台までのパソコンを接続する例

本機のLANポートに接続します。LAN1ポートに接続した場合は、LANスイッチを「**×**」側にしてください。



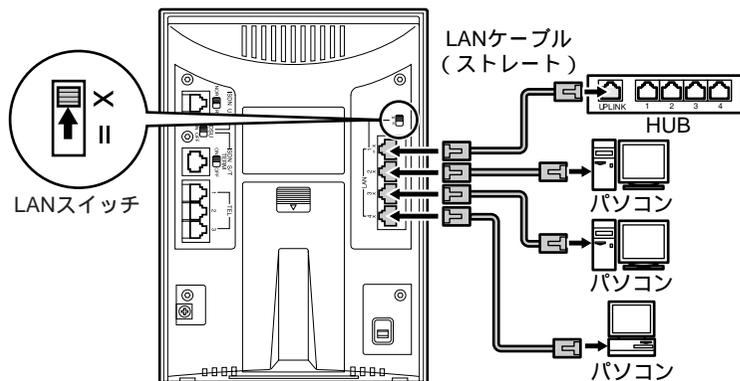
2

ルータを設置しよう

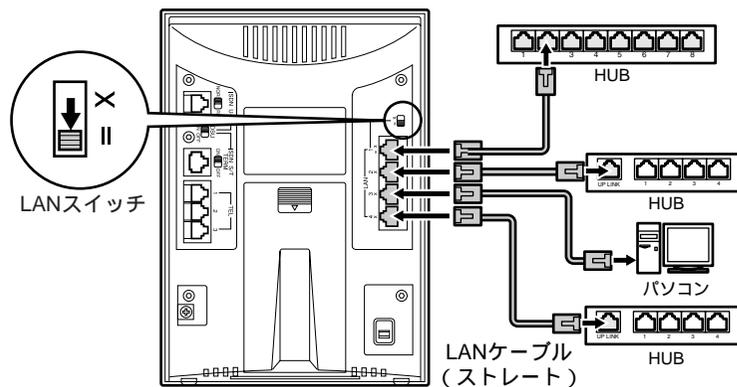
Win

Mac

5 台以上のパソコンを接続する例
 HUB の場合は、UPLINK (カスケード) ポートを接続します。LAN1 ポートに接続した場合は、LAN スイッチを「×」側にしてください。



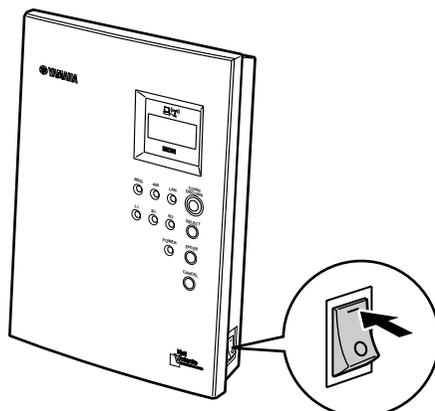
HUB に UPLINK (カスケード) ポートがない場合や空いていない場合は、HUB のポートと本機の LAN1 ポートを接続し、LAN スイッチを「=」側にしてください。



MEMO

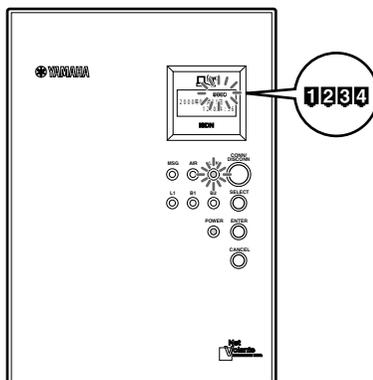
・ HUB は、10BASE の場合 4 段 (階層) まで、10/100BASE 混在の場合 2 段 (階層) までしか UPLINK (カスケード) 接続することはできません。ポート数の多い HUB やスイッチング HUB などを使用して、階層数が規定以内になるように設置してください。

3 POWER スイッチの「|」側を押して、本機の電源をオンにします。



ランプが数回点滅した後、POWER ランプと ISDN L1 ランプが点灯します。

- 4** パソコンやHUBの電源をオンにし、LANランプが点灯または点滅することを確認します。
- 本機のディスプレイに接続したLANポートの表示が点灯し、LANランプが点灯または点滅すれば正常です。



- MEMO**
- ・本機に接続したパソコンやHUBの電源がすべてオフの状態では、LANランプは点灯または点滅しません。
 - ・本機のディスプレイのLANポート表示は、接続されているポートのみ点灯します。LANポート表示が通信中に点滅することはありません。

- 5** LANランプが点灯または点滅しない場合は、LANケーブルの接続状態および、パソコンやHUBの電源を確認します。

Win

Mac

2-8 無線 LAN に接続する

本機に内蔵の無線 LAN には、ノートパソコンやデスクトップパソコン、複数の RT60w を接続することができます。



注意

- ・ WEP 機能 (暗号化機能) を使用しない場合、部外者が勝手に接続することが可能であり、不正侵入や盗聴、妨害、データの消失、破壊などに遭う危険性があります。また、無線 LAN 経由で ISDN 回線を使用されて電話料金やプロバイダ接続料金を請求される恐れがあります。WEP 機能をご使用になることを強く推奨します。

MEMO

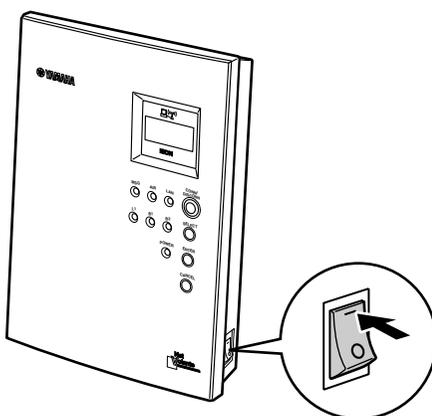
- ・ 本機の無線 LAN に多くのパソコンを接続すると通信速度が著しく低下します。32 台以内での利用をお勧めします (同時使用可能な無線端末数は、使用環境により減る場合があります)。
- ・ 複数の RT60w を接続する場合の設置方法については、ユーザーズマニュアル「6-4 複数台の RT60w を接続する」をご覧ください。
- ・ パソコンを無線 LAN で接続するときは、始めに遮蔽物がない見通しの良い場所で接続状態の確認を行ってください。
- ・ 使用中に動作が不安定になる場合は、本機やパソコンの設置場所、向きを変えてみてください。

必要なもの

無線 LAN カード (ボード) お使いのパソコンに対応した 11Mbit/s 無線 LAN カードやボードと付属のソフトウェアをご用意ください。

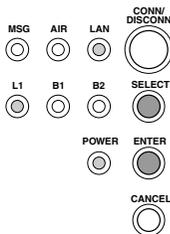
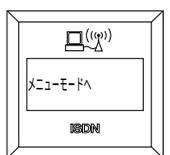
■ 接続のしかた

- 1 POWER スイッチの「 | 」側を押して、本機の電源をオンにします。



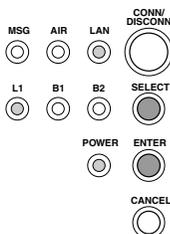
ランプが数回点滅した後、POWER ランプと ISDN L1 ランプが点灯します。

- 2 [SELECT] ボタンを押して [メニューモードへ] を表示し、[ENTER] ボタンを押します。

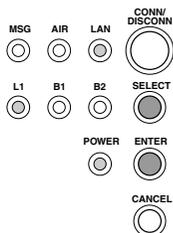


メニュー項目が表示されます。

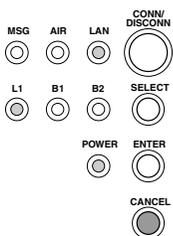
- 3 [SELECT] ボタンを何度か押して [ムセンESS-ID] を表示し、[ENTER] ボタンを押します。



4 表示された本機の ESS-ID 設定値をメモします。



5 [CANCEL] ボタンを何度か押して、日付・時刻表示にもどります。



6 無線 LAN カード (ボード) のマニュアルにしたがって、パソコンに無線 LAN カード (ボード) を取り付け、必要なドライバソフトや設定ユーティリティソフトをインストールします。

7 取り付けた無線 LAN カード (ボード) の動作確認を行います。
問題がある場合は、無線 LAN カード (ボード) のマニュアルにしたがってチェックしてください。

2

ルータを設置しよう

Win

Mac

8 無線LANカード(ボード)の設定ユーティリティソフトを開いて、下記の項目を設定します。

本機の設定をまだ行っていない場合

通信モード = インフラストラクチャモード

(メルコの場合は、エアステーション経由通信)

ESS-ID = 手順 4 で確認した ESS-ID

WEP 機能 = オフ

本機の設定が終わっている場合

通信モード = インフラストラクチャモード

(メルコの場合は、エアステーション経由通信)

ESS-ID = 本機に設定した ESS-ID

WEP 機能 = 本機に設定した設定および WEP キー

MEMO

- ・ ESS-ID、WEP 機能の設定が両方とも合っていないと、無線LANで本機とパソコンを接続できません。本機に設定した値を正確にメモして、必ず無線接続するすべてのパソコンに同じ値を設定してください。
- ・ ESS-ID、WEP 機能設定を変更している途中は、一時的に本機とパソコンが接続できない状態になります。本機や各パソコンの設定変更がすべて完了すれば、接続できる状態になります。
- ・ 無線LANカード側のパソコンに「アクセスポイントが見つかりません」などの表示が出る場合がありますが、本機との接続の確認や通信速度の確認は、実際に通信をして行ってください。
- ・ ESS-ID、WEP 機能については、ユーザーズマニュアル「6-1 無線LANについて」をご覧ください。

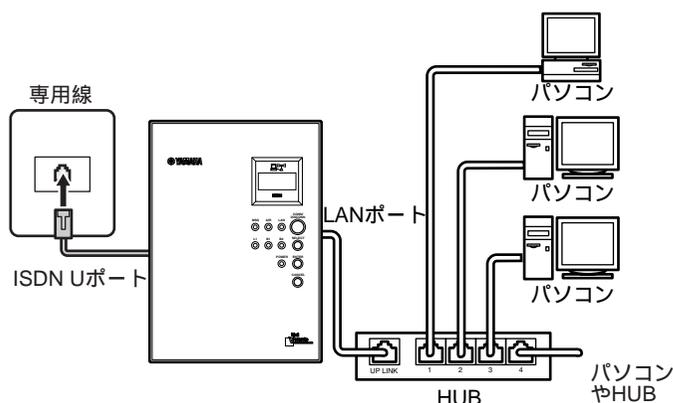
2-9 専用線を接続する

本機を専用線に接続して使用する場合は、回線の接続とパソコンの接続、電源の接続を行います。回線の接続は、専用線の工事内容により、2つの方法があります。またパソコンの接続は、台数に合わせて必要なLANケーブルやHUBをご用意ください。

- MEMO
- ・専用線の場合は、TELポート間の内線通話と機器間アナログ通話以外でTELポートにアナログ機器（電話機、FAX、モデムなど）を接続して使うことはできません。

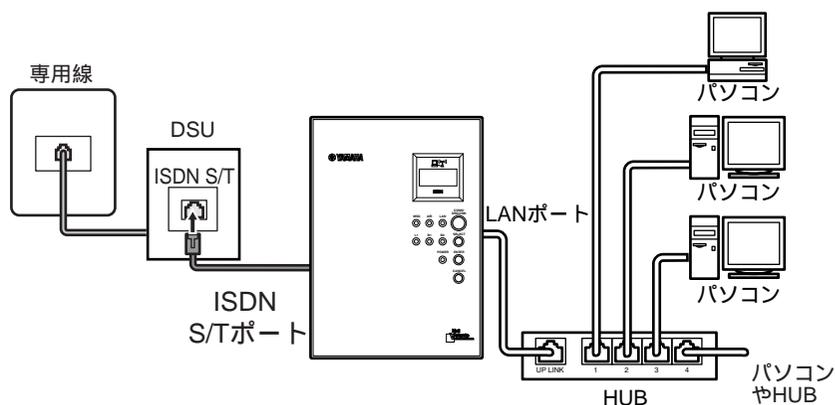
本機のDSUを使う場合

- ・専用線申込票の「DSU」項目で、本機内蔵のDSU使用で申し込んだとき
- ・工事後の専用線が、通常のもジュラーjackと同じ形（6極端子）をしているとき



他のDSUを使う場合

- ・専用線申込票の「DSU」項目で、回線業者のDSU使用で申し込んだとき
- ・工事後の専用線が、通常のもジュラーjackより幅の広い形（8極端子）をしているとき



回線を接続する（本機の DSU を使う場合）

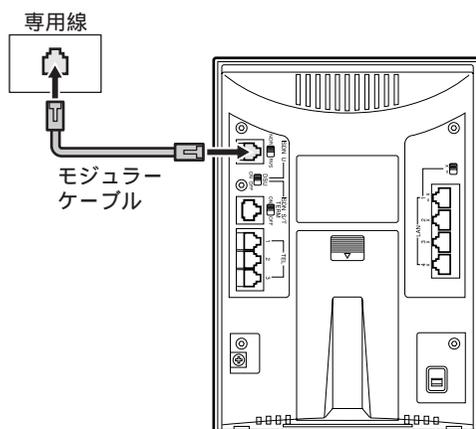
■ 必要なもの

モジュラーケーブル

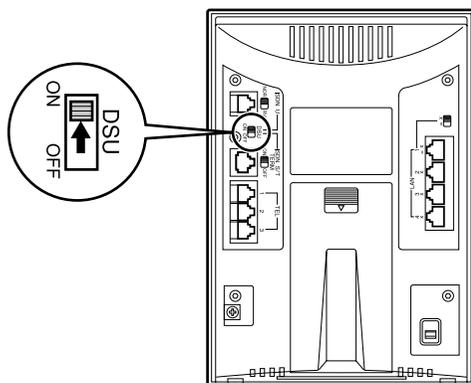
一般に市販の電話用ケーブル(2極用、4極用、6極用のいずれでも可、ただしビジネスホン専用の特殊な結線のものとは除く)が使用できます。接続に必要な距離に合わせてご用意ください。本機には1本(3m)付属しています。

■ 接続のしかた

- 1 専用線のモジュラージャックと本機のISDN Uポートをモジュラーケーブル(灰色)で接続します。



- 2 DSU スイッチを「ON」側にします。



注意

- ・専用線の場合は、S/Tポートには絶対に機器を接続しないでください。S/Tポートに機器を接続して使うことはできません。

回線を接続する（他の DSU を使う場合）

■ 必要なもの

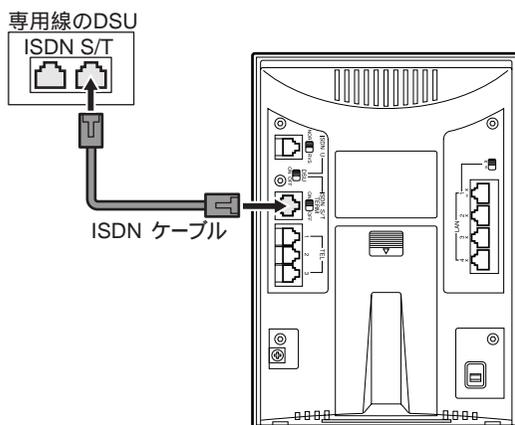
ISDN ケーブル

市販の ISDN ケーブルをご用意ください。ただし、DSU まで総延長が 150m 以内になるようにしてください。

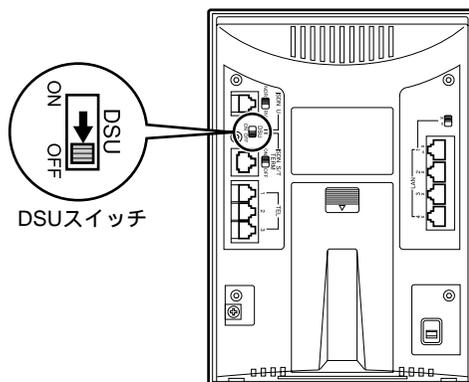
MEMO ・ ISDN ケーブルは、LAN ケーブルのコネクタ（RJ-45）と同じ形状をしています。間違えないように注意してください。

■ 接続のしかた

- 1 専用線の DSU と本機の ISDN S/T ポートを ISDN ケーブルで接続します。



- 2 DSU スイッチを「OFF」側にします。



2

ルータを設置しよう

Win

Mac

電源を接続する

本機を使用するときは、アースコードと電源コードをコンセントに接続します。



注意

- ・本機のアースコードは必ず接続してください。落雷時のダメージを軽減したり、感電防止やノイズ防止の効果があります。
- ・アースコードは必ずコンセントのアース端子に接続してください。ガス管などには絶対に接続しないでください。

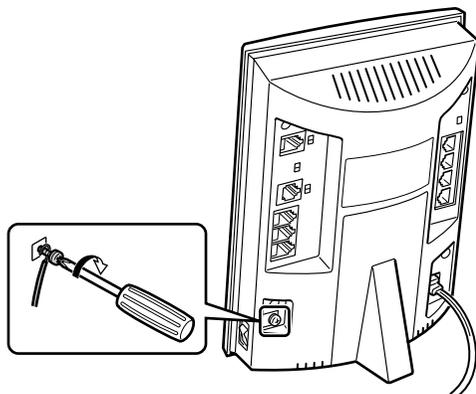
■ 必要なもの

アースコード

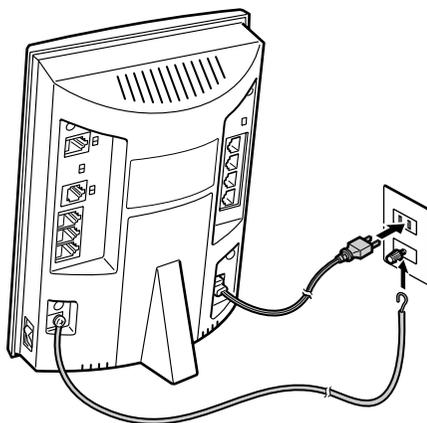
設置場所に合わせて市販のアースコードをご用意ください。

■ 接続のしかた

- 1 アース端子のネジを⊕ドライバーで緩め、アースコードをアース端子に接続して固定します。



- 2 アースコードと電源コードをコンセントに接続します。



パソコンを接続する

専用線を利用する場合も、ISDN回線の場合と同様に、パソコンを本機のLANポートや無線LANに接続します。

■ LANポートに接続する場合

LANケーブルでパソコンや既存のLANに接続する場合は、本機のLANポートに接続します。本機のLANポートには、パソコンを4台まで接続できます。また、既存のLANのHUBに接続することにより、LAN上のパソコンを接続できます。

接続方法と動作確認については、「2-7 LANポートに接続する」(P.33)をご覧ください。

■ 無線LANに接続する場合

無線LANでパソコンや既存のLANに接続する場合は、ルータと各パソコンの無線LANの設定を行います。

接続方法と動作確認については、「2-8 無線LANに接続する」(P.43)をご覧ください。

第 3 章

パソコンとルータを設定しよう

この章では、インターネットに接続するためのパソコンとルータの設定方法について説明しています。接続方法やOSに合わせてソフトウェアのインストールと設定を行ってください。

3-1	ソフトウェアをインストールする	54
	Windows 95/98/2000 の場合	54
	Macintosh の場合	56
3-2	ダイヤルアップ接続で設定する	57
3-3	専用線接続で設定する	67
3-4	2 台目以降のパソコンを設定する	77
3-5	手動でネットワーク機能を設定する	81
	Windows 95/98 のネットワーク設定	81
	Windows 2000 のネットワーク設定	83
	Macintosh (TCP/IP) のネットワーク設定	85
3-6	無線 LAN の設定を変更する	86

3-1 ソフトウェアをインストールする

インターネットに接続するには、「パソコンのネットワーク機能設定」と「ルータの接続先設定」を行います。パソコンのネットワーク機能設定は、本機に付属のユーティリティソフト「RT60w パソコンセットアップ ユーティリティ」を使うと、簡単に行えます。ルータの接続先設定は、ブラウザで行います。ブラウザはOSに標準インストールされているものが使えます。もし、ブラウザがインストールされていない場合は、設定作業を始める前にインストールしてください。



注意

- ・インストールを始める前に他のアプリケーションソフトをすべて終了してください。インストールの途中で再起動が必要になるので、データが消失することがあります。

MEMO

- ・ここでは、Windows 95/98/2000 および MacOS8.0 以降を例に説明しています。それ以外のOSの場合は、OSに合ったソフトウェアをインストールし、手で同等の設定を行ってください。(P.81)

Windows 95/98/2000 の場合

■ ブラウザのインストール

本機の設定を行うには、Internet Explorer 3.0J 以降または Netscape Navigator 2.0J 以降のブラウザが必要です。Windows95 以降には、Internet Explorer が標準でインストールされており、追加インストール作業は不要です。もし、インストールされていない場合は、別途インストールしてください。

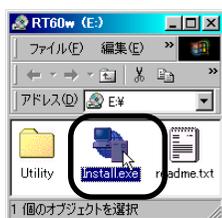
■ ユーティリティソフトのインストール

本機に付属のCD-ROM内のユーティリティソフト「RT60w ユーティリティ」は Windows 95/98/2000用のソフトウェアです。設定の前にインストールを行います。

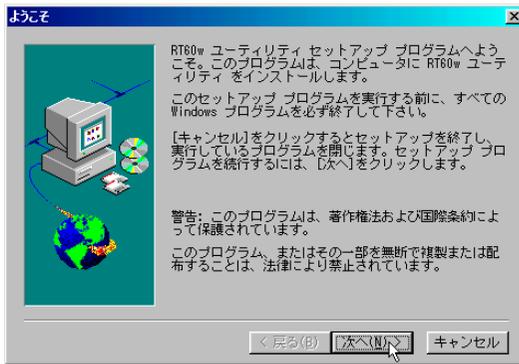
MEMO

- ・すでに古いバージョンの「RT60w ユーティリティ」がインストールされている場合は、先に[コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]でアンインストールしてください。

1 付属のCD-ROMをパソコンにセットし、[Install.exe]アイコンを開きます。



2 メッセージを確認して、[次へ] ボタンを押します。



ユーティリティソフト「RT60w パソコンセットアップ」がインストールされます。

3 インストールが終わったら、[終了] ボタンを押します。



インストーラのウィンドウが閉じます。

3

パソコンとルータを設定しよう

Win

Macintosh の場合

■ ブラウザのインストール

本機の設定を行うには、Internet Explorer 3.0J以降またはNetscape Navigator 2.0J以降のブラウザが必要です。MacOS8.0以降には、Internet Explorer が標準でインストールされており、追加インストール作業は不要です。もし、インストールされていない場合は、別途インストールしてください。

■ ユーティリティソフトについて

PowerMacintosh用のユーティリティソフト「RT60wパソコンセットアップ」は、MacOS8.0&OpenTransport1.2以降に対応したソフトウェアです。「RT60wパソコンセットアップ」は、付属のCD-ROMから直接開いて使うことができるので、ソフトのインストール作業は不要です。

3-2 ダイヤルアップ接続で設定する

インターネットに「端末型ダイヤルアップ」で接続するときや「フレッツ・ISDN (IP接続サービス)」で接続するときは、「パソコンのネットワーク機能設定」と「ルータのプロバイダ登録」を行う必要があります。ユーティリティソフト「RT60w パソコンセットアップユーティリティ」のメッセージに従って、必要な情報を入力してください。

複数のパソコンを接続する場合、他のパソコンは「パソコンのネットワーク機能設定」のみを行います。設定方法については、「3-4 2台目以降のパソコンを設定する」(P.77)をご覧ください。

⚠注意

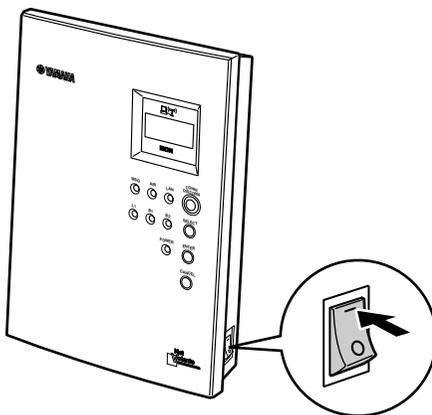
- ・プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定(LAN-TA接続利用時)の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- ・設定を始める前にLANボード/カード、無線LANボード/カードが正しく動作していることを確認してください。正しく動作していないと、設定が行えません。正しく動作していない場合は、先にボードやカードの問題を解決してから設定を行ってください。
- ・設定を始める前に他のアプリケーションソフトをすべて終了してください。設定の途中で再起動が必要になるので、データが消失することがあります。

MEMO

- ・ダイヤルアップ接続の設定を行うと、意図しない発信を防ぐためにいくつかのフィルタが自動的に設定されます。
- ・お使いのパソコンの仕様やソフトウェアの状態によっては、「RT60w パソコンセットアップ ユーティリティ」が正しく動作しないことがあります。その場合は、ネットワークの設定を手動で設定してください。(P.81)
- ・その後ブラウザで “ <http://192.168.0.1/> ” にアクセスし、手順 10 (P.61) に進んでください。

ここではWindows98 と Internet Explorer 5.0J の画面を例に説明しています。
Windows95やMacintoshの場合、画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。

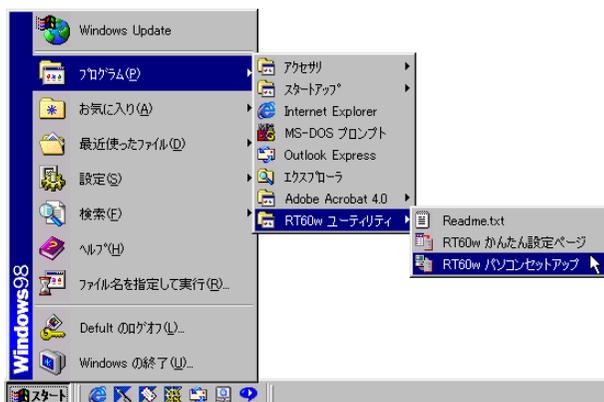
- 1 POWER スイッチの「 | 」側を押して、本機の電源をオンにします。



- 2 RT60w パソコンセットアップ ユーティリティを開きます。

Windows95/98 の場合

[スタート] ボタンを押し、[プログラム]-[RT60w ユーティリティ]-[RT60w パソコンセットアップ] を開きます。

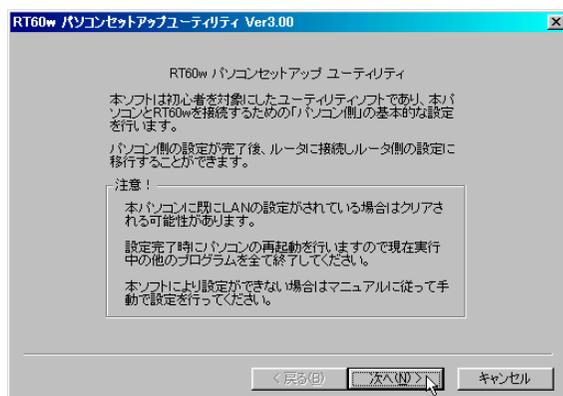


Macintosh の場合

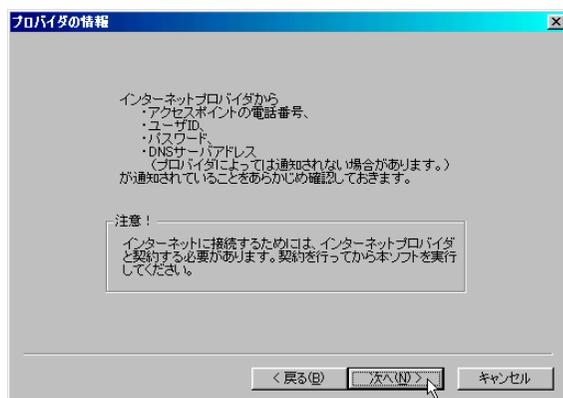
付属の CD-ROM をパソコンにセットし、[RT60w パソコンセットアップ] フォルダ内の [パソコンセットアップ] アイコンを開きます。



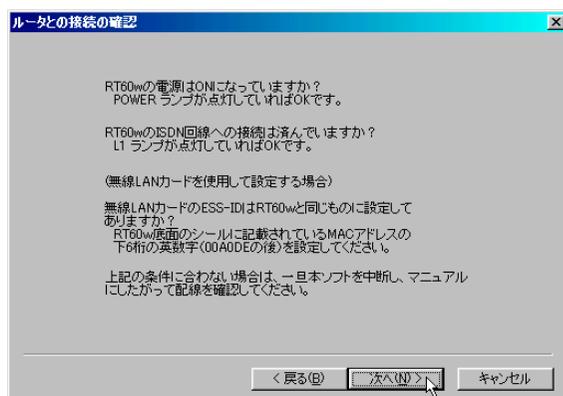
- 3** メッセージの内容を確認し、[次へ] ボタンを押します。
問題がある場合は、[キャンセル] ボタンを押して、問題を解決してからやり直してください。



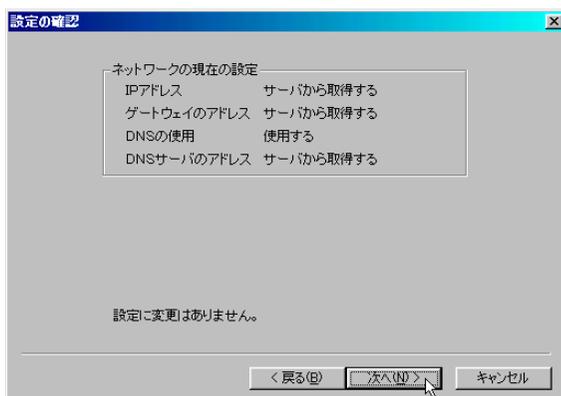
- 4** プロバイダ登録に必要な情報が揃っているかを確認し、[次へ] ボタンを押します。



- 5** 本機の電源やランプ表示を確認し、[次へ] ボタンを押します。
問題がある場合は、[キャンセル] ボタンを押して、接続を確認してからやり直してください。

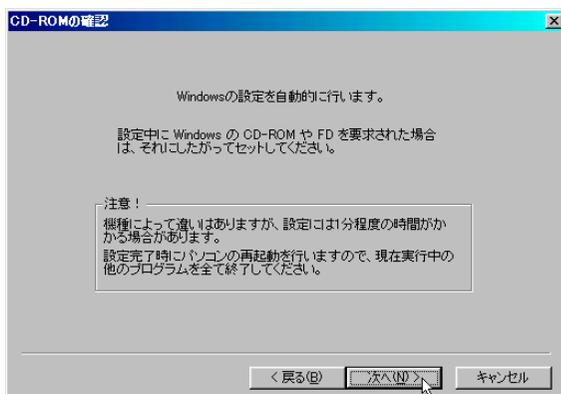


6 設定内容を確認し、[次へ]ボタンを押します。



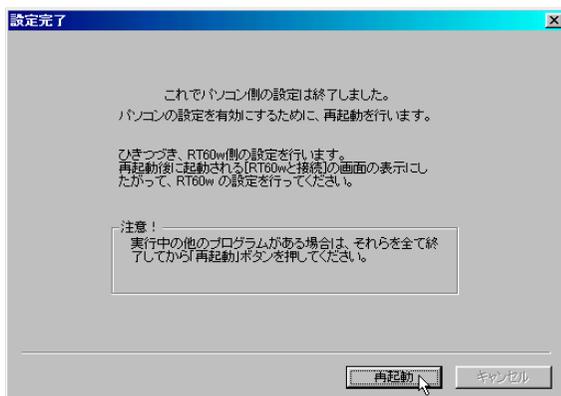
7 メッセージの内容を確認し、[次へ]ボタンを押します。

パソコンのネットワーク設定が自動的に行われます。Windows95の場合はWindowsのインストールCD-ROMが必要になる場合があります。



ネットワークの設定が完了すると、OSの種類やパソコンにより再起動のメッセージが表示されます。再起動のメッセージが表示されない場合は、そのまま手順9へ進んでください。

8 パソコンの設定が終わり再起動のメッセージが表示された場合は、[再起動]ボタンを押します。



パソコンが再起動されます。

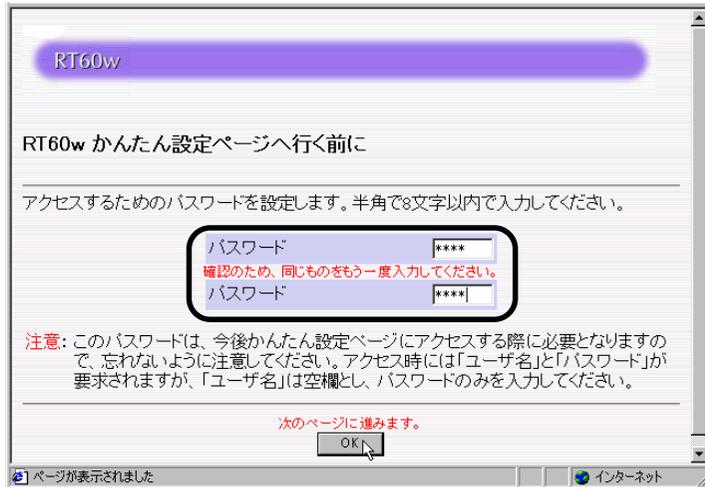
9 「RT60w と接続」が表示されたら、[開く] ボタンを押します。



ブラウザが開き、「RT60w かんたん設定ページへ行く前に」が表示されます。

MEMO ・「RT60w と接続」や「RT60w かんたん設定ページへ行く前に」が表示されないときは、ブラウザを開いて、“http://192.168.0.1/” にアクセスしてください。(ユーザーズマニュアル「2-4 ブラウザで設定する」)

10 ルータの管理パスワードを2つの入力欄に入力して[OK] ボタンを押し、確認のメッセージに従って操作します。



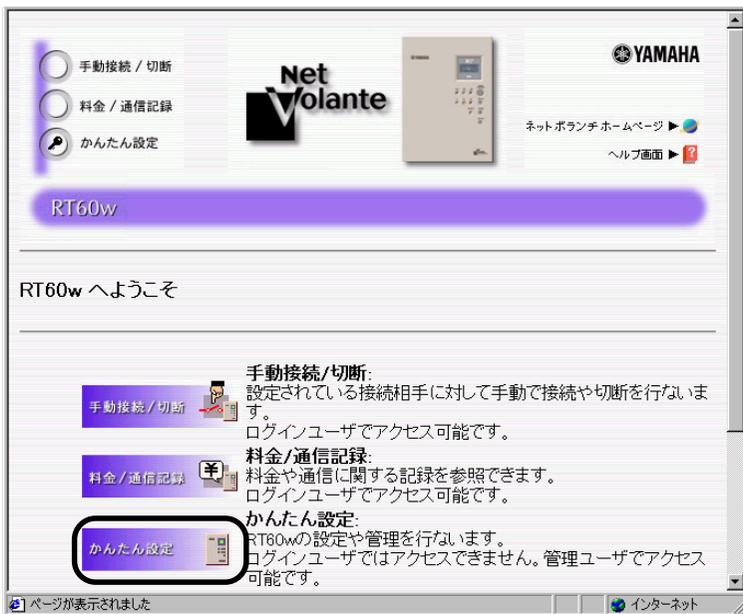
MEMO ・ルータの管理パスワードは、本機の設定を変えるときや情報を見るときに必要になります。プロバイダのパスワードとは別に大切に管理してください。

11 [パスワード] 入力欄にルータの管理パスワードを入力し、[OK] ボタンを押します。



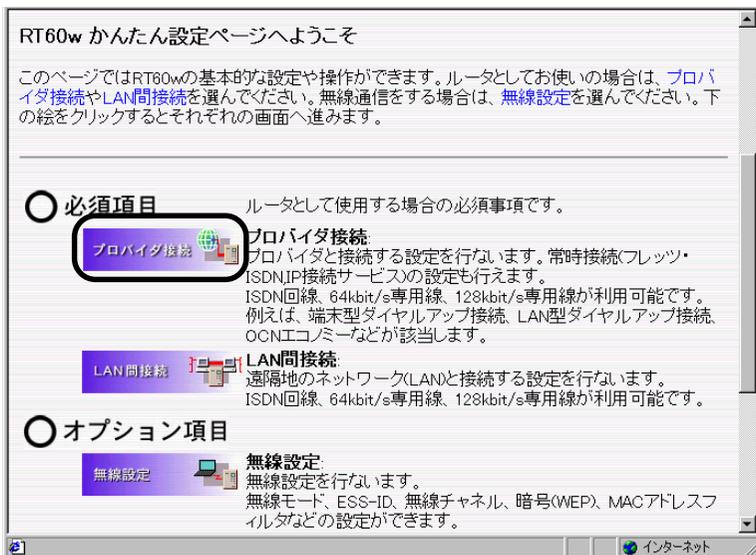
「RT60w へようこそ」ページが表示されます。

12 [かんたん設定] を押します。



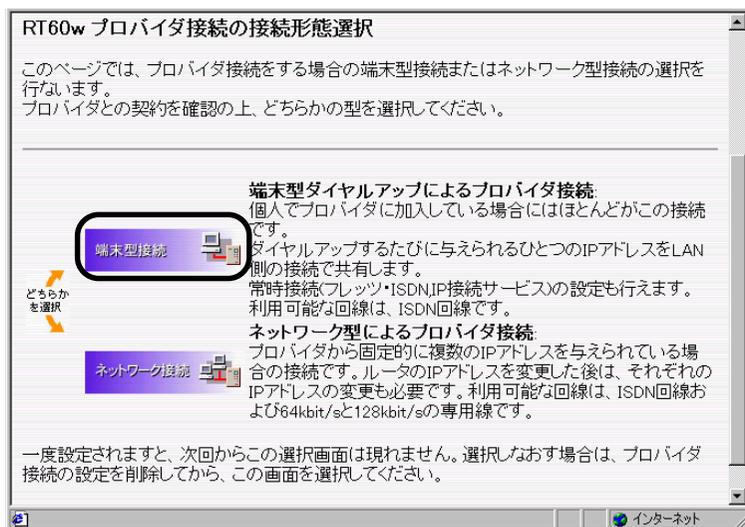
「RT60w かんたん設定ページ」が表示されます。

13 [プロバイダ接続] を押します。



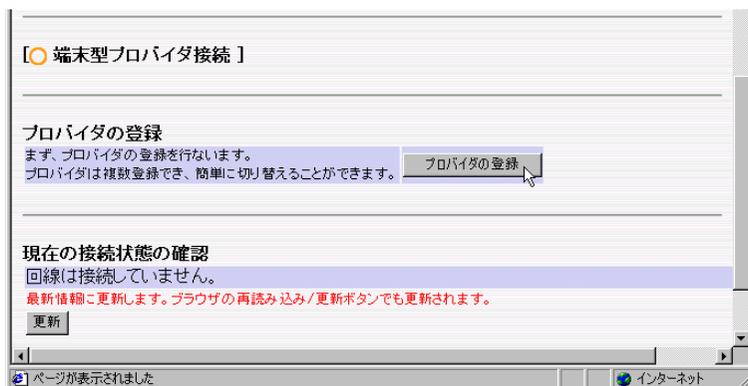
「RT60w プロバイダ接続の接続形態選択」ページが表示されます。

14 [端末型接続] を押します。



「端末型プロバイダ接続」ページが表示されます。

15 [プロバイダの登録] ボタンを押します。



「新規登録」ページが表示されます。

- 16** プロバイダ名、ISDN 対応アクセスポイント電話番号、接続形式、ユーザ名 (ID)、パスワード、ネームサーバの IP アドレスを入力し、[登録] ボタンを押します。アクセスポイント電話番号、ユーザ名 (ID)、パスワード、ネームサーバの IP アドレスは、プロバイダから通知されたものを入力してください。フレッツ・ISDN (IP 接続サービス) 契約をしている場合は、[接続形式] で [常時接続] をチェックし、[プロバイダの電話番号] でフレッツ・ISDN の電話番号を入力してください。

[端末型プロバイダ接続設定] - [新規登録]

契約したインターネットプロバイダから通知された情報を設定します。(同じプロバイダを複数登録しないで下さい)
DNSサーバアドレスの自動取得は、プロバイダが対応している必要があります。
意図しない課金や接続を防ぐために、登録後には設定した通りの接続/切断が行なわれる事を確認してください。
発信制限やユーザID/パスワード違いにより自動的に接続を禁止する場合がありますので、接続ができなくなった場合は
必ずその項目を確認してください。

プロバイダ名	Provider1	半角32文字以内
接続形式	<input checked="" type="radio"/> ダイヤルアップ接続 <input type="radio"/> 常時接続(フレッツ・ISDN,IP接続サービス)	設定可能数は、1件)
プロバイダの電話番号 1	XXXXXXXXXX	半角入力32桁以内
2		(省略可能)
3		(省略可能)
ユーザID	username	半角入力32文字以内
パスワード	*****	半角入力32文字以内
DNSサーバアドレス	IPアドレスを指定する	
プライマリDNSサーバアドレス	10.40.3.22	指定の場合半角入力
セカンダリDNSサーバアドレス	10.40.3.23	(省略可能)
セキュリティフィルタの定義と適用	すべて自動設定(推奨)	常時接続設定のみ有効

上記の項目を設定した後、登録ボタンで設定内容を登録してください。

登録 既定値に戻す

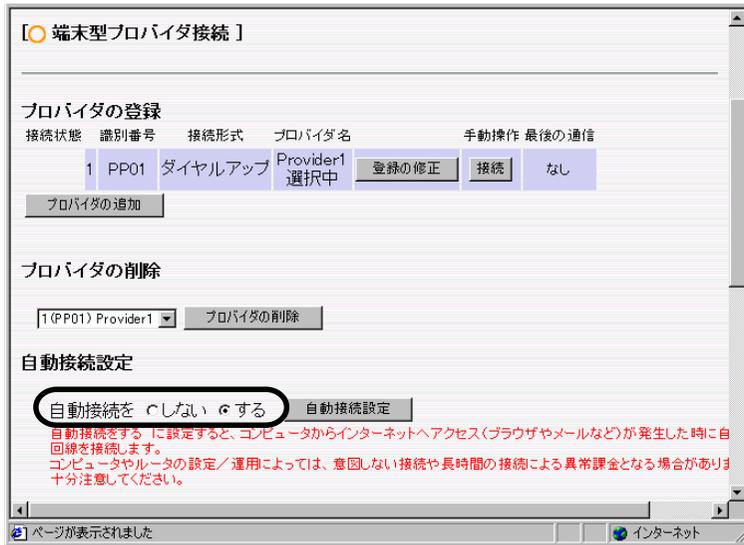
ページが表示されました インターネット

注意 ・ 端末型ダイヤルアップ接続のプロバイダ登録時は、絶対に接続形式の [常時接続 (フレッツ・ISDN, IP 接続サービス)] を選択しないでください。自動切断機能や接続制限機能が設定されないのとなぎっぱなしの状態となり、予想外の電話料金やプロバイダ接続料金を請求される恐れがあります。

MEMO ・ プロバイダによっては、「メールアドレス」と「ダイヤルアップ用ユーザID」が異なる場合があります。必ずプロバイダの設定情報書類をよく確認してから入力してください。(例：DTI、So-net など)
・ DNS サーバのアドレス情報がない場合は、空欄のままでもかまいません。自動的に [接続時に自動取得する] が選択されます。
・ 設定したパスワードの文字数を隠すため、ページを再表示したときは、パスワード欄が「*」一つだけの表示となります。

- 17** 入力し終わったら、[登録] ボタンを押します。メッセージに従ってボタンを押すと、設定が登録されて「端末型プロバイダ接続」ページへ戻ります。

18 [自動接続設定]が[する]になっていることを確認します。



これでルータのダイヤルアップ設定は完了です。



注意

- 自動接続を設定すると、パソコンやソフトウェアの設定により、意図しない接続や課金が発生することがあります。自動接続したくないときは、[しない]を押して[自動接続設定]ボタンを押し、設定を解除してください。

- 19 ページ右上の [ネットボランチホームページ] を押します。
自動的にインターネットへ接続されて、NetVolanteのホームページが表示されることを確認してください。



インターネットへ接続中は、ISDN B1またはB2ランプが点灯します。
一定時間インターネットへアクセスしないと、自動的にプロバイダとの接続が切れます。

MEMO ・プロバイダ登録を新規に行うと、自動的に発信制限が累積料金1万円、累積通信時間50時間、累積発信回数1000回に設定されます。また連続接続時間も9時間に制限されるように設定されます。(P.104)

■ インターネットにつながらないときは

「端末型プロバイダ接続」ページに戻り、ブラウザの [更新] (再読み込み) ボタンを押すと、[最後の通信] のメッセージ欄に原因が表示されます。メッセージの内容を確認し、[登録の修正] ボタンを押して設定内容を確認してください。

MEMO ・プロバイダによっては、「メールアドレス」と「ダイヤルアップ用ユーザID」が異なる場合があります。必ずプロバイダの設定情報書類をよく確認してから入力してください。(例：DTI、So-netなど)
・DNSサーバのアドレス情報が [接続時に自動取得する] に設定されていてプロバイダから自動取得できなかった場合には、最後の通信欄に赤字で [DNSサーバアドレスが取得できませんでした] と表示されます。その場合は、プロバイダから指定されたDNSサーバアドレスを設定し直してください。

3-3 専用線接続で設定する

インターネットへ専用線接続するときは、「パソコンのネットワーク機能設定」と「ルータの専用線接続設定」を行います。ユーティリティソフト「RT60w パソコンセットアップユーティリティ」のメッセージに従って、必要な情報を入力してください。

複数のパソコンを接続する場合、他のパソコンは「パソコンのネットワーク機能設定」のみを行います。設定方法については、「3-4 2台目以降のパソコンを設定する」(P.77)をご覧ください。



注意

- ・設定を始める前にLANボード/カード、無線LANボード/カードが正しく動作していることを確認してください。正しく動作していないと、設定が行えません。正しく動作していない場合は、先にボードやカードの問題を解決してから設定を行ってください。
- ・設定を始める前に他のアプリケーションソフトをすべて終了してください。設定の途中で再起動が必要になるので、データが消失することがあります。

MEMO

- ・「かんたん設定ページ」で専用線接続の設定を行うと、外部からアクセスしにくくなるよう基本的なフィルタが自動的に設定されます。公開サーバを設置する場合は、そのサーバにアクセスを許可する設定を行うことが必要です。(ユーザーズマニュアル「7-8 外部にサーバを公開する」)
- ・お使いのパソコンの仕様やソフトウェアの状態によっては、「RT60w パソコンセットアップユーティリティ」が正しく動作しないことがあります。その場合は、ネットワークの設定を手動で設定を行ってください。(P.81)
- ・その後ブラウザで“ <http://192.168.0.1/> ”にアクセスし、手順 10 (P.71)に進んでください。

ここでは、Windows98 と Internet Explorer 5.0J の画面を例に説明しています。Windows95やMacintoshの場合、画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。

1 本機と設定を行うパソコンだけ電源を入れて、他のパソコンを終了します。

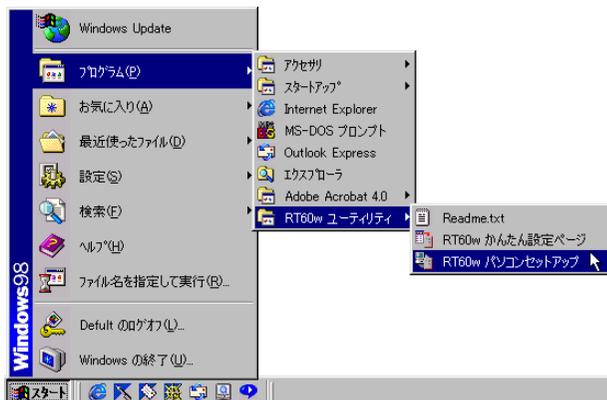
MEMO

- ・他のすべてのパソコンを終了できない場合は、本機に1台のパソコンだけ接続している状態にして、設定を行います。本機に接続されているLANケーブルを一旦すべて外し、LAN 1ポートと設定を行うパソコンのLANポートを付属のLANケーブルで接続してください。

2 RT60w パソコンセットアップ ユーティリティを開きます。

Windows 95/98 の場合

[スタート] ボタンを押し、[プログラム] - [RT60w ユーティリティ] - [RT60w パソコンセットアップ] を開きます。



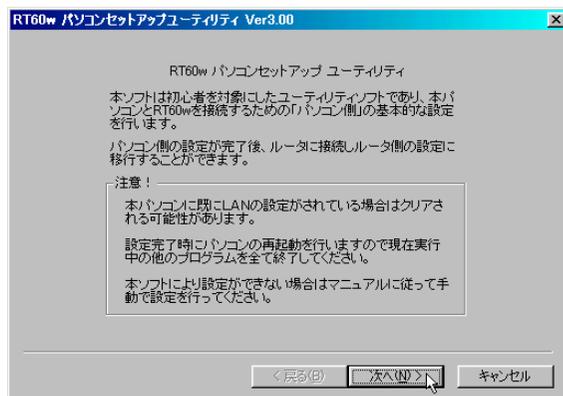
Macintosh の場合

付属の CD-ROM をパソコンにセットし、[RT60w パソコンセットアップ] フォルダ内の [パソコンセットアップ] アイコンを開きます。

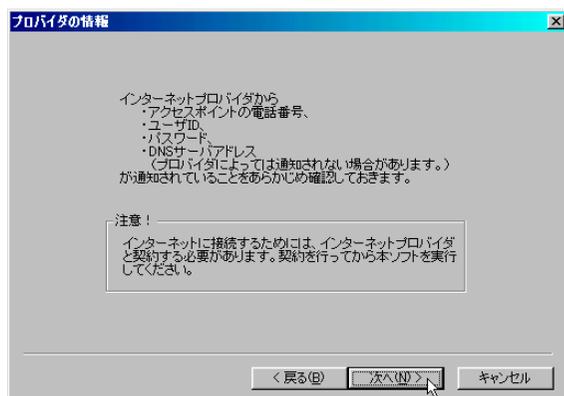


3 メッセージの内容を確認し、[次へ] ボタンを押します。

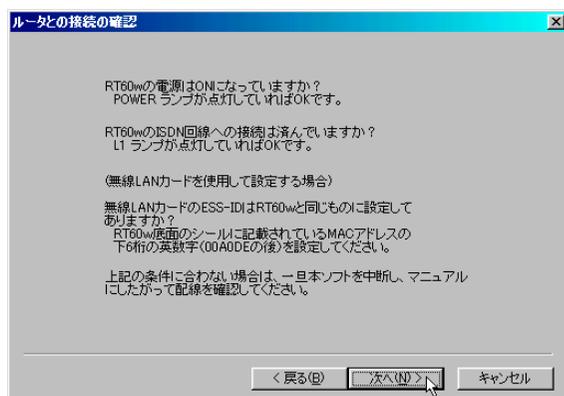
問題がある場合は、[キャンセル] ボタンを押して、問題を解決してからやり直してください。



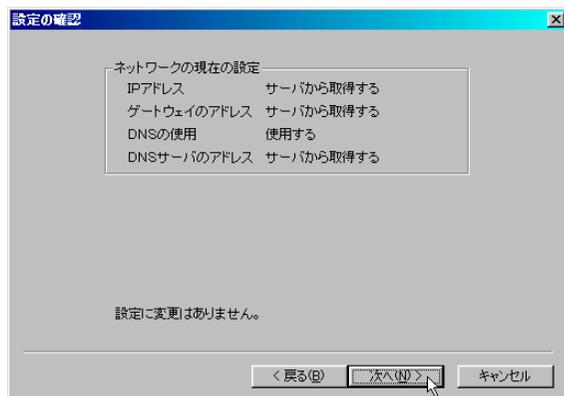
4 プロバイダ登録に必要な情報が揃っているかを確認し、[次へ]ボタンを押します。



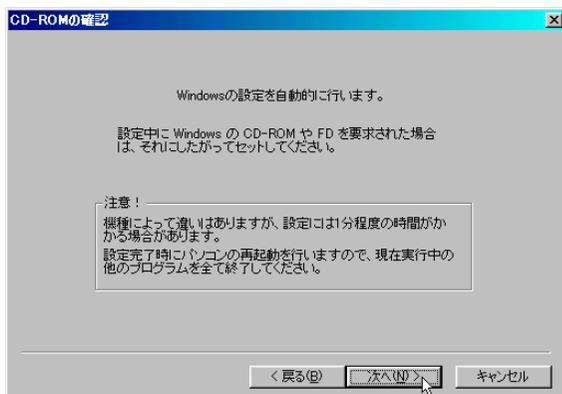
5 本機の電源やランプ表示を確認し、[次へ]ボタンを押します。 問題がある場合は、[キャンセル]ボタンを押して、接続を確認してからやり直してください。



6 設定内容を確認し、[次へ]ボタンを押します。



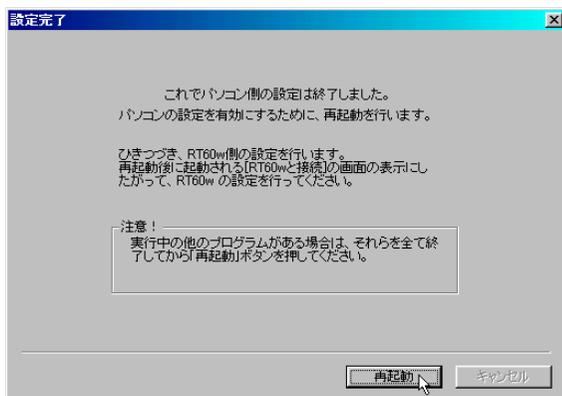
- 7** メッセージの内容を確認し、[次へ]ボタンを押します。
パソコンのネットワーク設定が自動的に行われます。Windows95の場合はWindowsのインストールCD-ROMが必要になる場合があります。



ネットワークの設定が完了すると、OSの種類やパソコンにより再起動のメッセージが表示されます。

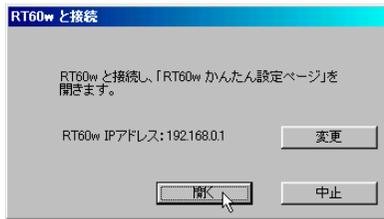
再起動のメッセージが表示されない場合は、そのまま手順 9へ進んでください。

- 8** パソコンの設定が終わり再起動のメッセージが表示された場合は、[再起動]ボタンを押します。



パソコンが再起動されます。

9 「RT60w と接続」が表示されたら、[開く] ボタンを押します。

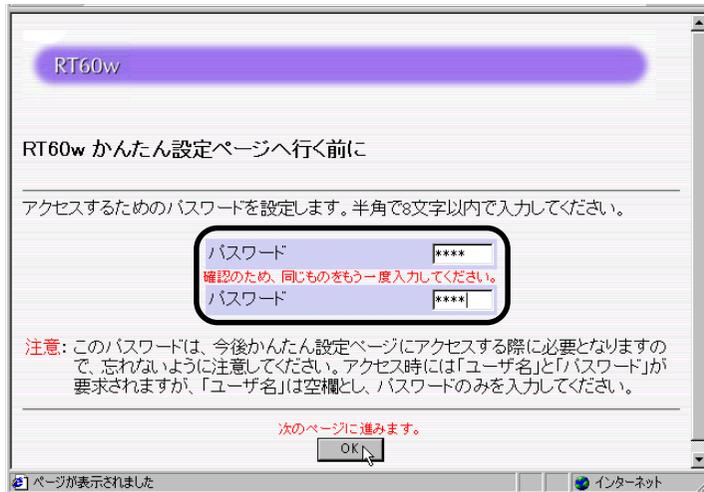


ブラウザが開き、「RT60w かんたん設定ページへ行く前に」が表示されます。

MEMO

- ・「RT60w と接続」や「RT60w かんたん設定ページへ行く前に」が表示されないときは、ブラウザを開いて、“http://192.168.0.1/” にアクセスしてください。（ユーザーズマニュアル「2-4 ブラウザで設定する」）

10 ルータの管理パスワードを2つの入力欄に入力して[OK] ボタンを押し、確認のメッセージに従って操作します。



MEMO

- ・ルータの管理パスワードは、本機の設定を変えるときや情報を見るときに必要になります。プロバイダのパスワードとは別に大切に管理してください。

11 [パスワード] 入力欄にルータの管理パスワードを入力し、[OK] ボタンを押します。



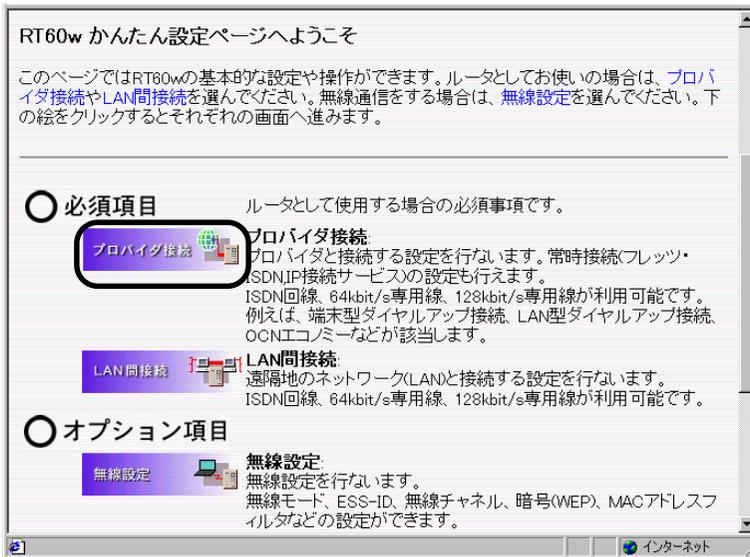
「RT60w へようこそ」ページが表示されます。

12 [かんたん設定] を押します。



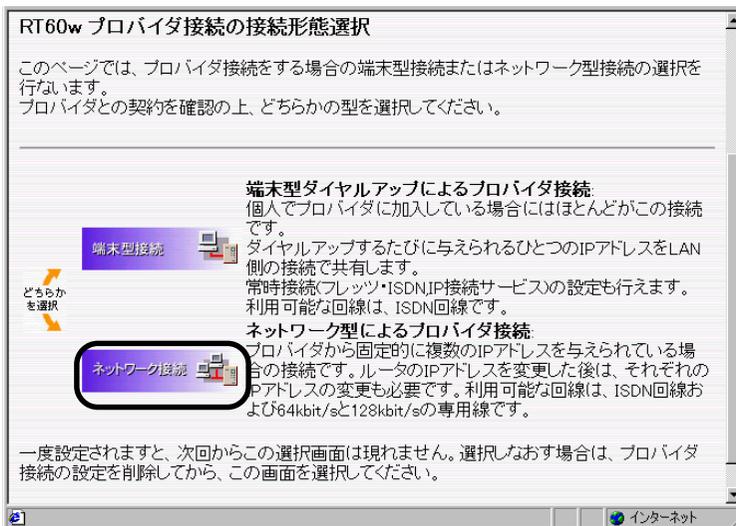
「RT60w かんたん設定ページ」が表示されます。

13 [プロバイダ接続] を押します。



「RT60w プロバイダ接続の接続形態選択」ページが表示されます。

14 [ネットワーク型接続] を押します。



「ネットワーク型プロバイダ接続設定」ページが表示されます。

15 [IPアドレス]にプロバイダから割り当てられたIPアドレスの中からルータに設定するIPアドレス、ネットマスク、専用線の回線速度、DNSサーバアドレスを入力し、[登録]ボタンを押します。

メッセージに従ってボタンを押すと設定が変更され、本機が再起動されます。

使用可能なグローバルIPアドレスの数が足りている場合の設定例

ネットワーク型プロバイダ接続設定

契約したインターネットプロバイダから通知された情報を設定します。(同じプロバイダを複数登録しないで下さい)
 DNSサーバアドレスの自動取得は、プロバイダが対応している必要があります。
 意図しない課金や接続を防ぐために、登録画面には設定した通りの接続/切断が行なわれる事を確認してください。
 発信制限やユーザID/パスワード違いにより自動的に接続を禁止する場合がありますので、接続ができなくなった場合はそれぞれの項目を確認してください。

IPアドレス

ルータのIPアドレス	10.40.33.113	IPアドレス半角入力
ネットマスク	28	マスクビット数

回線の種類

ISDN

接続形式

ダイヤルアップ接続

常時接続(フレッツ・ISDN IP接続サービス)

プロバイダの電話番号 1

2

3

ユーザID

パスワード

64 [kbit/s] (HSD64、DA64など)

128 [kbit/s] (OCNエコノミー、HSD128、DA128など)

DNS関連

DNSサーバアドレス

IPアドレスを指定する

プライマリDNSサーバアドレス

10.40.3.22

指定の場合半角入力

セカンダリDNSサーバアドレス

10.40.3.23

省略可能

ドメイン名

userdo.main.co.jp

半角入力255文字以内

NAT関連

動的アドレス変換(NAT)

使用しない

NAT外側アドレス(グローバル)範囲の始点

IPアドレス半角入力

NAT外側アドレス(グローバル)範囲の終点

IPアドレス半角入力

ファイアウォール関連

セキュリティフィルタの定義と適用

すべて自動設定(推奨)

常時接続設定のみ有効

上記の項目を設定した後、登録ボタンで設定内容を登録してください。

登録 既定値に戻す

ページが表示されました

インターネット

使用可能なグローバルIPアドレスの数が足りない場合の設定例

IP マスカレード機能を使用すると、グローバルIPアドレスの数以上のパソコンを接続することができます。

NAT関連

動的アドレス変換(NAT)

NATとIPマスカレードを併用する

NAT外側アドレス(グローバル)範囲の始点

10.40.33.126

IPアドレス半角入力

NAT外側アドレス(グローバル)範囲の終点

10.40.33.126

IPアドレス半角入力

上記の項目を設定した後、登録ボタンで設定内容を登録してください。

登録 既定値に戻す

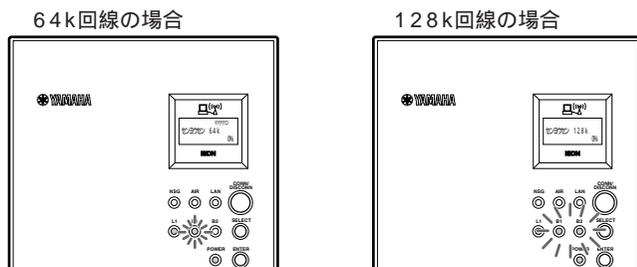
ページが表示されました

インターネット

MEMO

- IP マスカレードでは、複数のプライベートIPアドレスを1つのグローバルIPアドレスに変換します。2つ以上のグローバルIPアドレスを使い分けて変換することはできません。

- 16** 本機の再起動が終わったら、ランプの表示を確認します。
64k 回線の場合は B1 ランプ、128k 回線の場合は B1 と B2 ランプが点灯します。



正しく表示点灯しないときは、「かんたん設定ページ」を開いて手順 15 の登録をやり直してください。

- 17** パソコンを再起動します。
- 18** ブラウザを開き、アドレス入力欄に “ http://(ルータの IP アドレス)/ ” を入力し、[enter] キーを押します。
- 19** [パスワード] 入力欄に管理ルータのパスワードを入力し、[OK] ボタンを押します。



「RT60w へようこそ」ページが表示されることを確認してください。

20 ページ右上の [ネットボランチホームページ] を押します。



NetVolante のホームページが表示されることを確認してください。

21 インターネットへアクセスできることを確認したら、他のパソコンを起動します。LANケーブルを付け替えたときは、元にもどしてから他のパソコンを起動してください。これで、専用線接続の設定は完了です。

MEMO ・ルータを正しく認識しないときは、パソコンのIPアドレスをリセットしてください。(ユーザーズマニュアル「8-5 パソコンのIPアドレスをリセットするには」)

使用できる IP アドレスについて

プロバイダから割り当てられたIPアドレスのうち、始めの番号はネットワークアドレス、最後の番号はブロードキャストアドレスに割り当ててるきまりになっていて、使うことができません。

例えば、"172.16.128.112/28" のIPアドレスを割り当てられた場合、割り当てられた番号は "172.16.128.112" ~ "172.16.128.127" の 16 個ですが、

172.16.128.112 = ネットワークアドレス
172.16.128.113
:
172.16.128.126
172.16.128.127 = ブロードキャストアドレス

となり、実際にルータやパソコンなどに使える番号は、"172.16.128.113" ~ "172.16.128.126" の 14 個となります。

3-4 2 台目以降のパソコンを設定する

本機を複数のパソコンで利用する場合は、2 台目以降のすべてのパソコンに「ネットワーク機能設定」および「DHCP サーバによる自動プライベート IP アドレス割り当ての設定」を行います。

ダイヤルアップ接続時も専用線接続時も 2 台目以降の設定は同じです。ユーティリティソフト「RT60w パソコンセットアップユーティリティ」のメッセージに従って、必要な情報を入力してください。

⚠ 注意

- ・プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定(LAN-TA 接続利用時)の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- ・設定を始める前に LAN ボード / カード、無線 LAN ボード / カードが正しく動作していることを確認してください。正しく動作していないと、設定が行えません。正しく動作していない場合は、先にボードやカードの問題を解決してから設定を行ってください。
- ・設定を始める前に他のアプリケーションソフトをすべて終了してください。設定の途中で再起動が必要になるので、データが消失することがあります。

MEMO

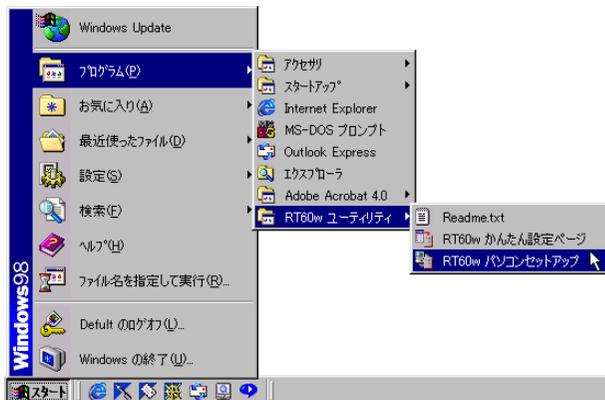
- ・お使いのパソコンの仕様やソフトウェアの状態によっては、「RT60w パソコンセットアップ ユーティリティ」が正しく動作しないことがあります。その場合は、ネットワークの設定を手動で設定してください。(P.81)
- ・ブラウザによるルータの設定は一度だけ行えば大丈夫です。パソコンごとに再度行う必要はありません。

ここでは、Windows98 と Internet Explorer 5.0J の画面を例に説明しています。
Windows95やMacintoshの場合、画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。

1 RT60w パソコンセットアップ ユーティリティを開きます。

Windows95/98 の場合

[スタート] ボタンを押し、[プログラム] - [RT60w ユーティリティ] - [RT60w パソコンセットアップ] を開きます。



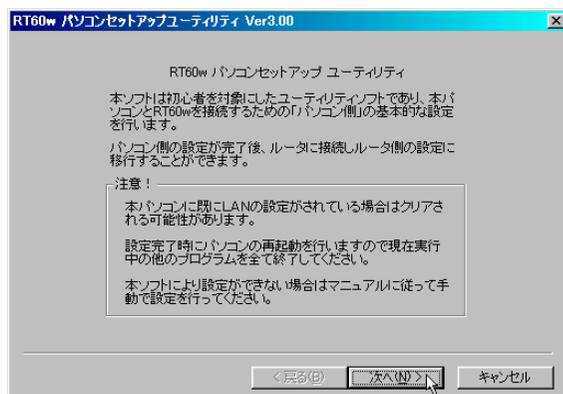
Macintosh の場合

付属の CD-ROM をパソコンにセットし、[RT60w パソコンセットアップ] フォルダ内の [パソコンセットアップ] アイコンを開きます。

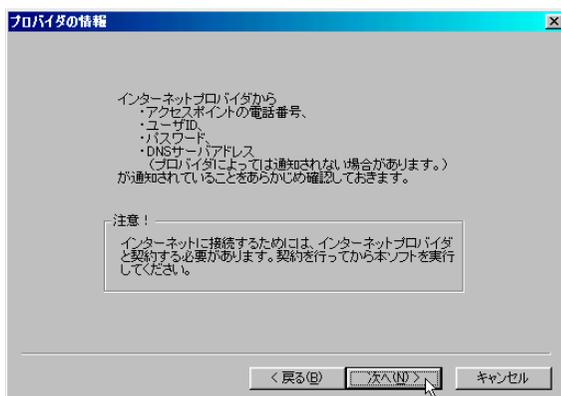


2 メッセージの内容を確認し、[次へ] ボタンを押します。

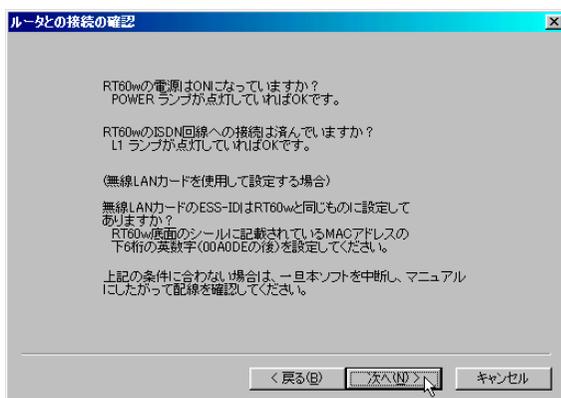
問題がある場合は、[キャンセル] ボタンを押して、問題を解決してからやり直してください。



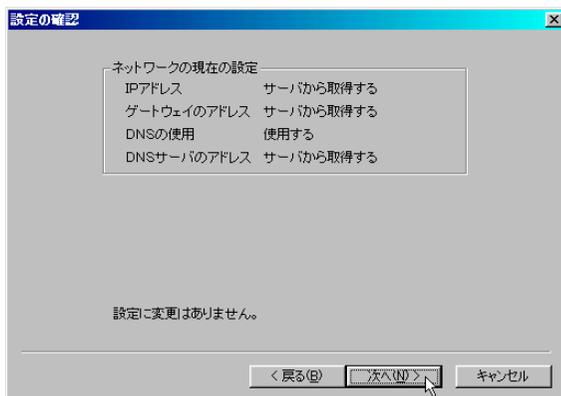
3 プロバイダ登録に必要な情報が揃っているかを確認し、[次へ] ボタンを押します。



4 本機の電源やランプ表示を確認し、[次へ] ボタンを押します。 問題がある場合は、[キャンセル] ボタンを押して、接続を確認してからやり直してください。



5 設定内容を確認し、[次へ] ボタンを押します。



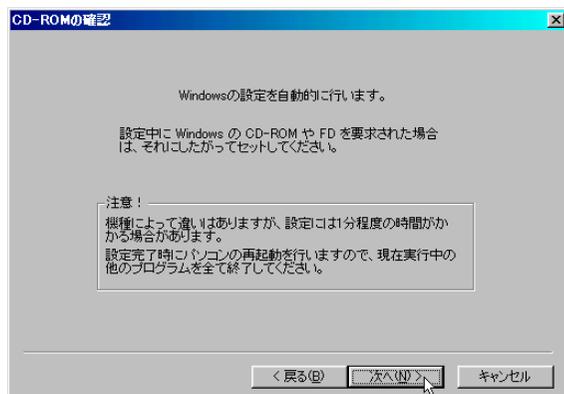
3

パソコンとルータを設定しよう

Win

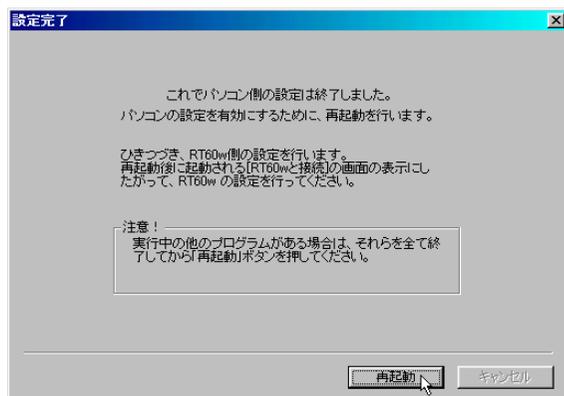
Mac

- 6 メッセージの内容を確認し、[次へ] ボタンを押します。
パソコンのネットワーク設定が自動的に行われます。Windows95 の場合は Windows のインストール CD-ROM が必要になる場合があります。



ネットワークの設定が完了すると、OSの種類やパソコンにより再起動のメッセージが表示されます。再起動のメッセージが表示されない場合は、そのまま手順8へ進んでください。

- 7 パソコンの設定が終わり再起動のメッセージが表示された場合は、[再起動] ボタンを押します。



パソコンが再起動されます。

- 8 「RT60w と接続」が表示されたら、[中止] ボタンを押します。



これでパソコンのネットワーク設定は完了です。

- 9 その他のパソコンも同様の手順でネットワーク設定を行います。

3-5 手動でネットワーク機能を設定する

ユーティリティソフトが正しく動作しない場合は、手動でネットワーク機能を設定します。ネットワーク機能の設定は、LANに接続されているすべてのパソコンで行ってください。

Windows 95/98 のネットワーク設定

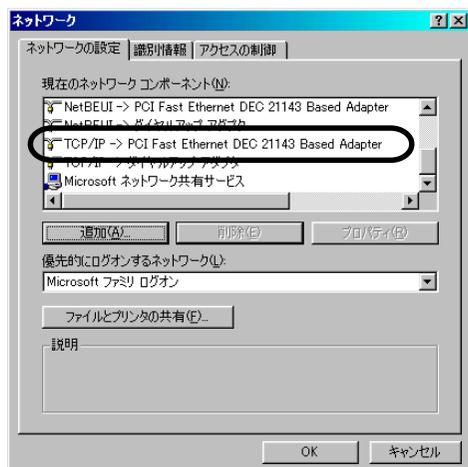
Windows 95/98 の場合は、ネットワーク機能の設定を行います。ネットワークボードが装着されていないときは、先にネットワークボードのインストールを行ってください。



注意

- ・ プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定(LAN-TA接続利用時)の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- ・ 設定を始める前にLANボード/カード、無線LANボード/カードが正しく動作していることを確認してください。正しく動作していないと、設定が行えません。正しく動作していない場合は、先にボードやカードの問題を解決してから設定を行ってください。

1 [コントロール パネル] の [ネットワーク] を開き、リストに "TCP/IP--> (ネットワークボード名)" があるかを確認します。



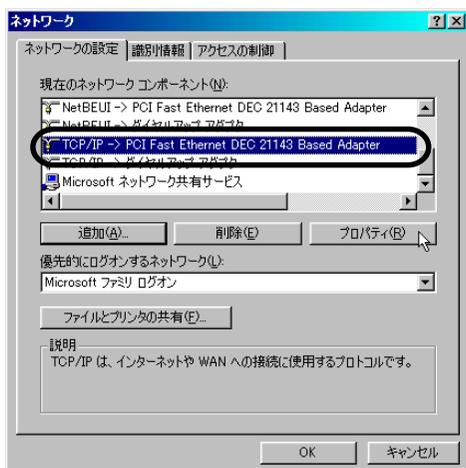
ない場合は [追加] ボタンを押して、[プロトコル] の追加で [Microsoft] の [TCP/IP] を追加します。

3

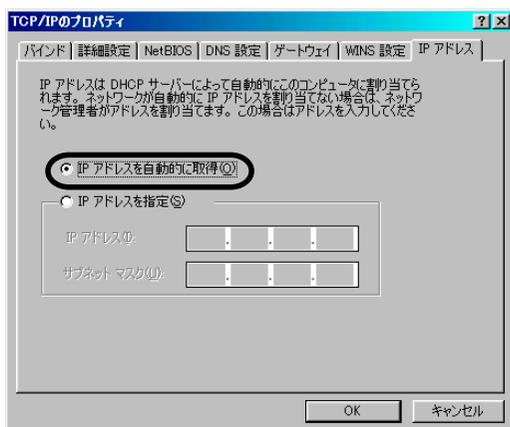
パソコンとルータを設定しよう

Win

- 2 リストの [TCP/IP --> (ネットワークボード名)] を選択し、[プロパティ] ボタンを押します。



- 3 [IP アドレス] タブの [IP アドレスを自動的に取得] を選択し、[OK] ボタンを押します。



- 4 [OK] ボタンを押して「ネットワーク」ウィンドウを閉じ、設定を変更した場合は、パソコンを再起動します。

Windows 2000 のネットワーク設定

Windows2000の場合は、ネットワーク機能の設定を行います。ネットワークボードが装着されていないときは、先にネットワークボードのインストールを行ってください。



注意

- ・プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定(LAN-TA接続利用時)の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- ・設定を始める前にLANボード/カード、無線LANボード/カードが正しく動作していることを確認してください。正しく動作していないと、設定が行えません。正しく動作していない場合は、先にボードやカードの問題を解決してから設定を行ってください。

1 [コントロールパネル]の[ネットワークとダイヤルアップ接続]を開きます。



2 本機を接続しているネットワークボード名を選択し、[プロパティ]を開きます。

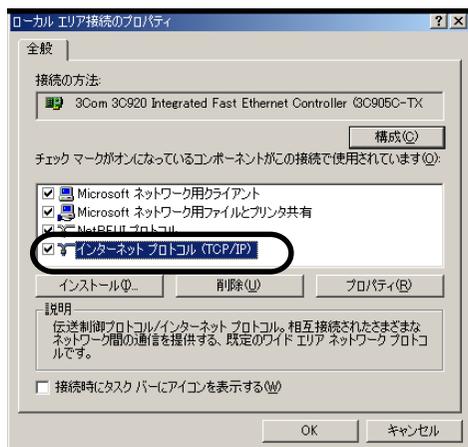


3

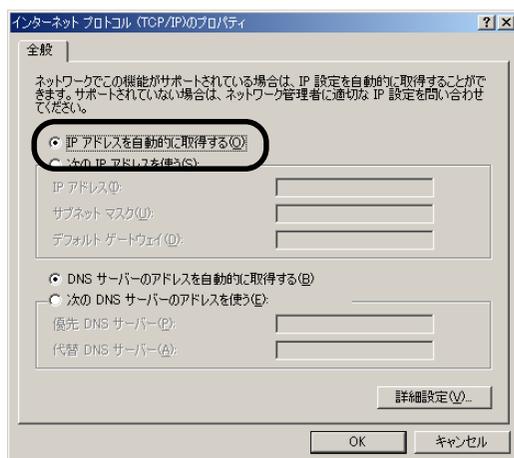
パソコンとルータを設定しよう

Win

- 3** リストの [ TCP/IP --> (ネットワークボード名)] を選択し、[プロパティ] ボタンを押します。



- 4** [IP アドレス] タブの [IP アドレスを自動的に取得] を選択し、[OK] ボタンを押します。



- 5** [OK] ボタンを押して「ネットワーク」ウィンドウを閉じ、設定を変更した場合は、パソコンを再起動します。

Macintosh (TCP/IP) のネットワーク設定

Macintoshでは、TCP/IP機能の設定を行います。TCP/IP機能の設定は、LANに接続されているすべてのパソコンで行ってください。

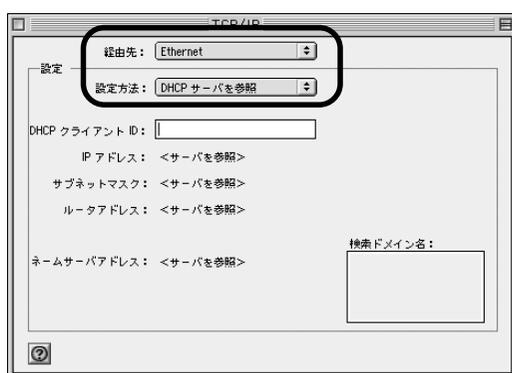
ここでは、「TCP/IP」コントロールパネルを例に説明しています。



注意

- ・プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。

- 1 コントロールパネルの [TCP/IP] を開き、[経由先] を "Ethernet"、[設定方法] を "DHCP サーバを参照" に設定します。



- 2 設定が終わったら、「TCP/IP」ウィンドウを閉じて設定を保存します。

3

パソコンとルータを設定しよう

Mac

3-6 無線 LAN の設定を変更する

本機の無線 LAN では、LAN のグループ名を表す「ESS-ID」、使用する周波数を決める「チャンネル」により混信を防止しています。近隣の無線 LAN との混信やエラーの多い場合は、近接する無線 LAN と設定を変える必要があります。

また、無線 LAN の通信を暗号化する「WEP 機能」や、接続できる機器を MAC アドレスにより制限する「MAC アドレスフィルタ」により、セキュリティの確保を行っています。本機の WEP 機能では、40bit コードで暗号化を行っています。

同じ無線 LAN で使う機器は、すべてこの設定が合っていることが必要です。設定を変更するときは、図中の番号順に行ってください。パソコンのみを無線 LAN で接続している場合、本機の設定を変更後に各パソコンの無線 LAN 設定を変更していきます。



MEMO

- ・ ESS-ID、WEP 機能の設定が両方とも合っていないと、無線 LAN でルータやパソコンを接続できません。無線アクセスポイントルータに設定した値を正確にメモして、必ず同じ値をすべての機器に設定してください。
- ・ 無線 LAN 側から ESS-ID、WEP 機能設定を変更している途中は、一時的にルータやパソコンが接続できない状態になります。各ルータやパソコンの設定変更がすべて完了すれば、接続できる状態になります。

1 使用する ESS-ID、チャンネル、WEP 機能とその暗号キーを決めます。

ESS-ID

32文字以内の半角英数字で決めてください。また本機のボタンで設定する場合は、6桁の16進数をお使いください。初期値は本機のMACアドレス下6桁の16進数（アルファベットはすべて大文字）に設定されています。

チャンネル

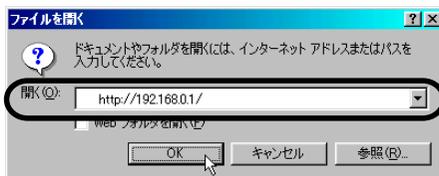
1～14チャンネルのうち、無線LANカード/ボードで使用できるチャンネルの中から、他で使っているチャンネルから3つ以上離れたチャンネルを選んでください。（例 1チャンネルと5チャンネル、3チャンネルと7チャンネルと11チャンネル）ただし、近隣で移動体識別用の構内無線局や特定小電力無線局が運営されている場合は、そのチャンネルと干渉しないチャンネルを選んでください。

WEP 機能

WEP 機能による暗号化をする場合は、5文字の半角英数字か、“0x” + 10桁の16進数のいずれかで決めてください。（例 “rt60w”、“0x12345abcde”）

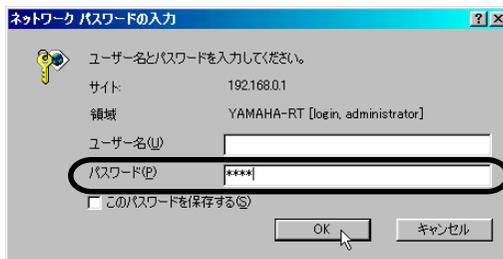
2 LAN に接続している 1 台のパソコンでブラウザを開き、アドレス入力欄に “ http://192.168.0.1/ ” を入力して、[enter] キーを押します。

本機の IP アドレスを変更している場合には、192.168.0.1 のかわりに本機の IP アドレスを入力します。



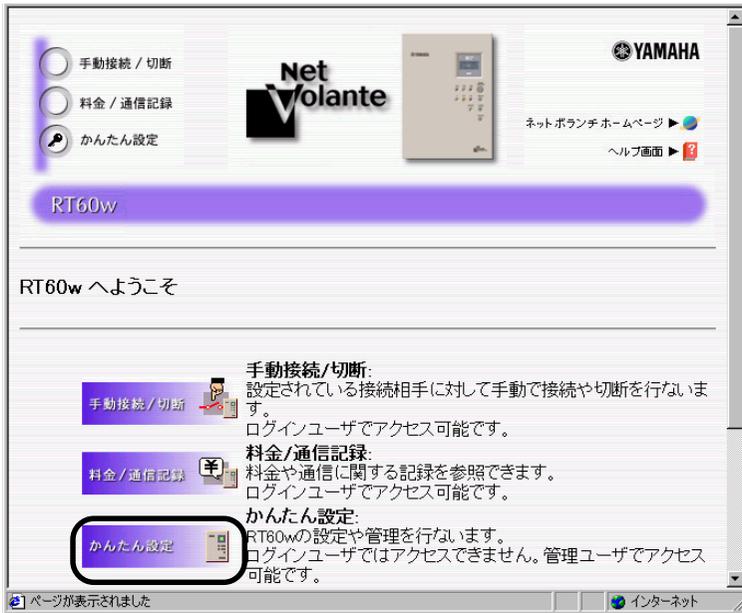
「ネットワーク パスワードの入力」ウィンドウが表示されます。

3 [パスワード] 入力欄にルータの管理パスワードを入力し、[OK] ボタンを押します。



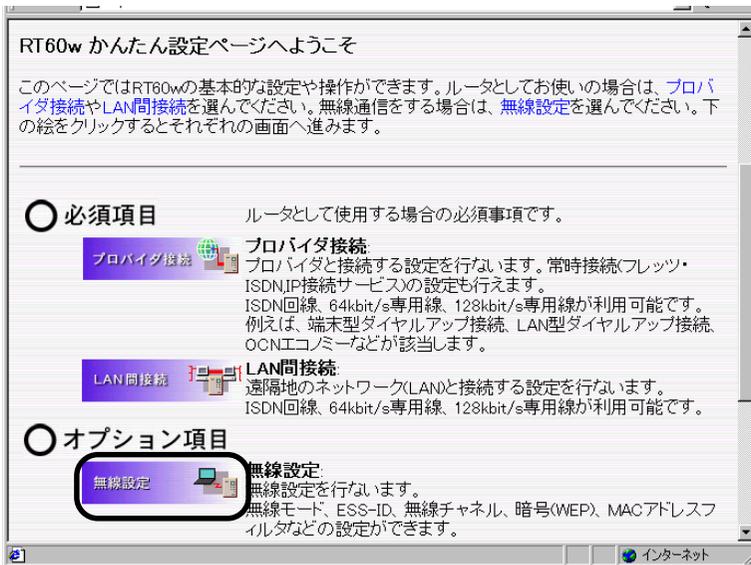
「RT60w へようこそ」ページが表示されます。

4 [かんたん設定] を押します。



「RT60w かんたん設定ページ」が表示されます。

5 [無線設定] を押します。



「無線設定」ページが表示されます。

- 6 ESS-ID、チャンネル、WEP 機能とその暗号キーを入力し、[登録] ボタンを押します。メッセージに従ってボタンを押すと設定が変更されます。

無線モードの登録

無線モードをオフに設定した場合は、無線通信ができなくなります。
RT60wが1台のみの場合はアクセスポイントモードを選択してください。

無線通信を始める前に、無線LANの電波に関する注意を詳しく読んでください。
上記の項目を設定した後、無線モードの登録ボタンで設定内容を登録してください。

無線モードの登録 既定値に戻す

詳細設定の登録

無線通信を行う場合、ESS-IDと暗号(WEP)の設定は通信する相手と同じ値に設定してください。

ESS-ID	0012ab	半角英数字32文字以内
無線チャンネル	1 ch	アクセスポイントモードの時のみ設定可能
<input checked="" type="checkbox"/> WEPを使用する		
暗号(WEP)	暗号キー	半角英数字5文字 または「0x」に続く16進数10桁 (例) RT60wまたは「0x12345abcde」
	暗号キー(確認用)	*****

無線通信を始める前に、無線LANの電波に関する注意を詳しく読んでください。
上記の項目を設定した後、詳細設定の登録ボタンで設定内容を登録してください。

詳細設定の登録 既定値に戻す

設定変更後は、一時的に各パソコンと無線接続できなくなります。

MEMO ・設定した暗号キーの文字数を隠すため、ページを再表示したときは、暗号キー欄が「*」一つだけの表示となります。

- 7 パソコンの無線LANカードに付属の設定ユーティリティを開き、RT60wに設定したものと同一ESS-ID、チャンネル(自動設定の場合は不要)、WEP機能とその暗号キーを設定します。

設定ユーティリティソフトの操作については、各ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

- 8 パソコンから本機の「かんたん設定ページ」を開きます。
開ければ、設定完了です。

- 9 他のパソコンの設定も同様に変更します。
LANにアクセスできれば設定完了です。

第4章

ルータを使ってみよう

この章では、ダイヤルアップルータでインターネットに接続する時の基本的な操作や知っておいてほしい知識について説明しています。使い始める前に、ご一読ください。

4-1	インターネット接続を開始する	92
	自動で接続する	92
	ボタンで接続する	93
4-2	インターネット接続を終了する	94
	自動で切断する	94
	ボタンで切断する	95
4-3	ルータの動作状態を確認する	96
	ランプで確認する	96
	ディスプレイで確認する	97
	かんたん設定ページで確認する	98
4-4	料金情報をリセットする	101
4-5	プロバイダ接続を制限する	104
4-6	ブザーを止める	109
4-7	不審な自動接続が見つかったときは	111
	通信記録の見かた	112
	原因になりやすい設定項目	114

4-1 インターネット接続を開始する

ダイヤルアップルータは、LAN内の情報を監視し、インターネットへのアクセスが必要になると自動的に接続します。通常は、パソコンでホームページやメールを見る操作をするだけで、インターネットの接続・切断が自動的に行われます。また、本機のボタンを押して手動でルータ接続を行うこともできます。自動接続をするかしないかは、「かんたん設定ページ」の「プロバイダ接続」ページで変更することができます。手動接続をする場合は、あらかじめ「CONN/DISCONNボタンによる手動接続/切断設定」で変更する必要があります。初期設定では、手動接続は[しない]、手動切断は[する]に設定されています。



注意

- ・お使いのソフトウェアの設定により、定期的にインターネットに接続されて、電話料金が異常に多くなることがあります。ときどき接続ログを見て、意図しない接続がないか、確認してください。(P.111)
- ・ソフトウェアによっては、意識的に起動しなくてもパソコン使用中に自動的に動作しているものがあり、知らないうちに自動発信を繰り返している場合があるので、十分注意してください。(P.111)

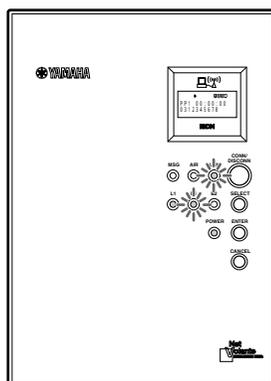
MEMO

- ・CONN/DISCONN ボタンでアナログポートの接続 / 切断はできません。

自動で接続する

自動接続の場合は、接続のための操作はありません。ブラウザでURLを入力したり、メールソフトで送信や受信の操作を行うだけで、自動的に接続されます。

- 1 ブラウザのアドレス入力欄にURLを入力し、[enter]キーを押します。
自動的にインターネットへ接続され、ホームページが表示されます。
インターネットへ接続されているときは、ISDN B1またはB2ランプが点灯し、ディスプレイに「PPxx : 00:00:00 (接続時間)」が表示されます。
一定時間アクセスがないと、自動的に切断されます。



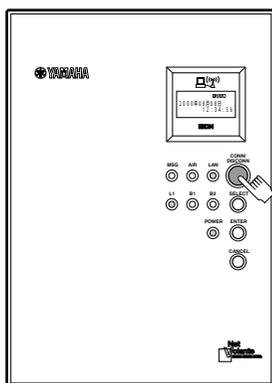
ボタンで接続する

「かんたん設定ページ」の「プロバイダ接続」ページで[CONN/DISCONN ボタンによる手動接続]の設定を[する]にしてある場合は、本機のボタンを押して手動で接続を行うことができます。この機能を使うときは、先に「かんたん設定ページ」で設定を行ってください。

MEMO

- ・本機の初期設定は、[CONN/DISCONN ボタンによる手動接続]が[し
ない]になっています。また、接続先は「かんたん設定ページ」で指定
したプロバイダになります。

- 1 [CONN/DISCONN] ボタンを 2 秒以上押し続けます。
ISDN B1 または B2 ランプが点灯し、ディスプレイに「PPxx : 00:00:00 (接続時間)」
が表示されて、インターネットへ接続されます。



4

ルータを使ってみよう

Win

Mac

4-2 インターネット接続を終了する

ダイヤルアップルータは、LAN内から一定時間インターネットへのアクセスがないと、次の課金単位時間（初期設定では3分毎）で自動切断します。切断条件の設定は、「かんたん設定ページ」で変更することができます。また、本機のボタンを押して手動で切断することもできます。

⚠注意

- ・お使いのソフトウェアの設定により、定期的にインターネットに接続されて、電話料金が異常に多くなることがあります。ときどき接続ログを見て、意図しない接続がないか、確認してください。（ P.111 ）
- ・ソフトウェアによっては、意識的に起動しなくてもパソコン使用中に自動的に動作しているものがあり、知らないうちに自動発信を繰り返している場合があるので、十分注意してください。（ P.111 ）

MEMO

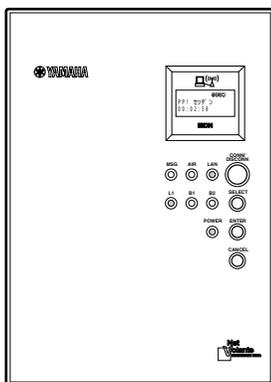
- ・CONN/DISCONNボタンでアナログポートの接続を切断することはできません。

自動で切断する

自動接続の場合は、切断のための操作はありません。ブラウザによるアクセスや、メールソフトでの送受信操作を行わなくなると、自動的に切断されます。

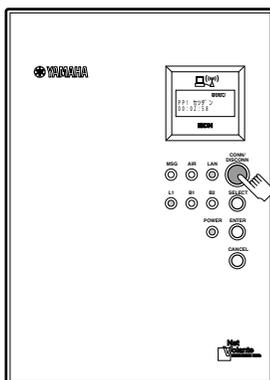
1 インターネットへのアクセスをやめます。

次の課金単位時間（初期設定では3分毎）で自動切断されます。切断されると、ISDN B1またはB2ランプが消灯し、ディスプレイに「PPxx: セツダン」および電話料金が表示されます。



ボタンで切断する

- 1 [CONN/DISCONN] ボタンを 1 秒以上押し続けます。
インターネット接続が切断され、点灯していた ISDN B1 または B2 ランプが消灯し、ディスプレイに「PPxx: セツダン」および電話料金が表示されます。



- MEMO
- ・本機の初期設定は、[CONN/DISCONN ボタンによる切断] が [する] になっています。ボタン切断の設定は「かんたん設定ページ」の「プロバイダ接続」ページで変更できます。

4

ルータを使ってみよう

Win

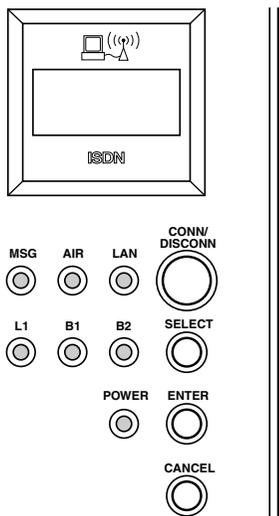
Mac

4-3 ルータの動作状態を確認する

ルータの動作状態は、ランプやディスプレイ、簡単設定ページで確認することができます。

ランプで確認する

前面のランプは、次の状態を示します。



- | | | |
|---------|----------------------------------|---|
| MSG : | | プロバイダのメールサーバにメールが着信していることを示します。点滅回数で登録したサーバの番号を表示します。使用するには、かんたん設定ページでメールサーバの登録が必要です。 |
| L1 : | <input checked="" type="radio"/> | ISDN 回線または専用線が正常な状態を示します。 |
| | <input type="radio"/> | ISDN 回線または専用線が使用できない状態を示します。 |
| B1 : | <input checked="" type="radio"/> | B1 チャンネルを使用している状態を示します。 |
| | <input type="radio"/> | B1 チャンネルが空いている状態を示します。 |
| B2 : | <input checked="" type="radio"/> | B2 チャンネルを使用している状態を示します。 |
| | <input type="radio"/> | B2 チャンネルが空いている状態を示します。 |
| LAN : | <input checked="" type="radio"/> | LAN が使用可能な状態を示します。 |
| | | LAN にデータが流れていることを示します。 |
| | <input type="radio"/> | LAN が使用不可能な状態を示します。 |
| AIR : | <input checked="" type="radio"/> | 無線 LAN が使用可能な状態を示します。 |
| | | 無線 LAN にデータが流れていることを示します。 |
| | <input type="radio"/> | 無線 LAN が使用不可能な状態を示します。 |
| POWER : | <input checked="" type="radio"/> | 電源が入っていることを示します。 |
| | | 停電状態でバックアップ電池による動作中を示します。 |
| | <input type="radio"/> | 電源が切れているまたは停電していることを示します。 |
- : 点灯 : 点滅 : 消灯

ディスプレイで確認する

前面のディスプレイには、さまざまな情報が表示されます。ただし、停電状態でバックアップ電池による動作をしているときは表示されません。

■ ISDN 回線の場合

通常状態

2000年01月01日
00:00:00

現在の日付

現在の時間

インターネット自動接続状態

PP01: 00:00:00
0123456789

プロバイダ番号、接続時間

接続先の電話番号

インターネット切断時

PP01: セツダン
552 20円

プロバイダ番号

切断コード、通話料金

電話機発信状態

TEL1: ハッシン
0123456789

TEL ポート番号

接続先の電話番号

電話機使用状態

TEL1: 00:00:00
0123456789

TEL ポート番号、接続時間

接続先の電話番号

電話機切断時

TEL1: セツダン
0 60円

TEL ポート番号

切断コード、通話料金

■ 専用線の場合

インターネット接続状態

センヨウセン 64k
60%

回線の種類

データ送受信のグラフ表示

4

ルータを使ってみよう

Win

Mac

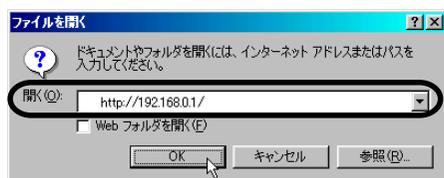
かんたん設定ページで確認する

「かんたん設定ページ」では、より詳しい状態や通信記録を見ることができます。ここでは、Windows 98 で Internet Explorer 5.0J を使った例に説明します。

■ かんたん設定ページを開く

MEMO ・ Windows 95/98/2000 の場合は、[スタート] ボタン - [プログラム] - [RT60w ユーティリティ] - [RT60w かんたん設定ページ] でも開くことができます。

- 1 ブラウザを開き、ファイルメニューの [開く] を選択します。
- 2 "http://192.168.0.1/" と入力して [OK] ボタンを押します。
本機の IP アドレスを変更している場合には、192.168.0.1 のかわりに本機の IP アドレスを入力します。



「ネットワーク パスワードの入力」ウィンドウが表示されます。

- 3 ルータの管理パスワードまたはログインパスワードを入力して [OK] ボタンを押します。



本機に内蔵の「RT60w へようこそ」が表示されます。

4

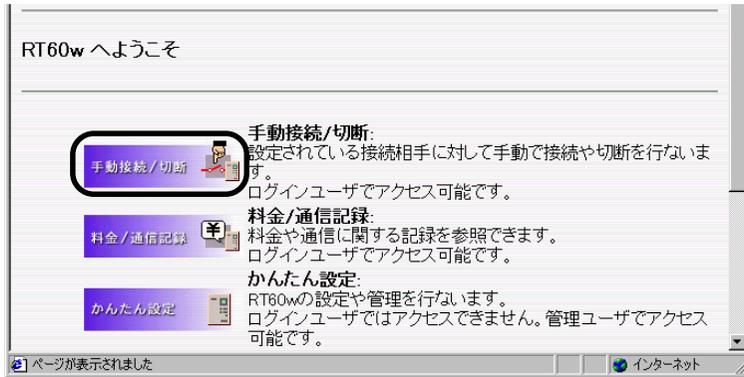
ルータを使ってみよう

Win

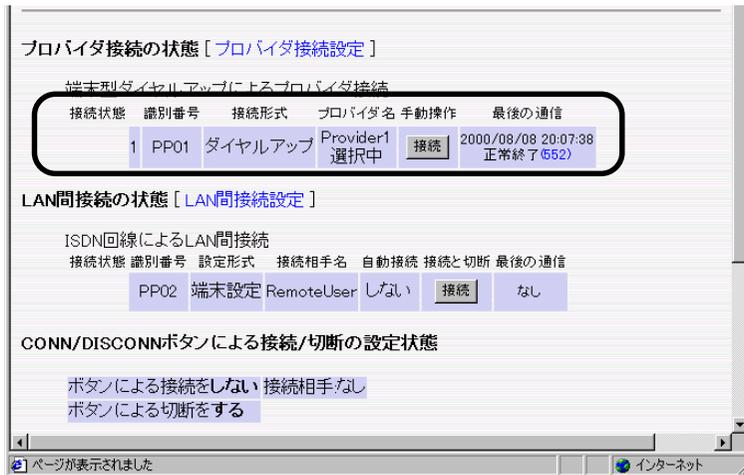
Mac

■ インターネット接続状態を見る

1 [手動接続 / 切断] を押します。

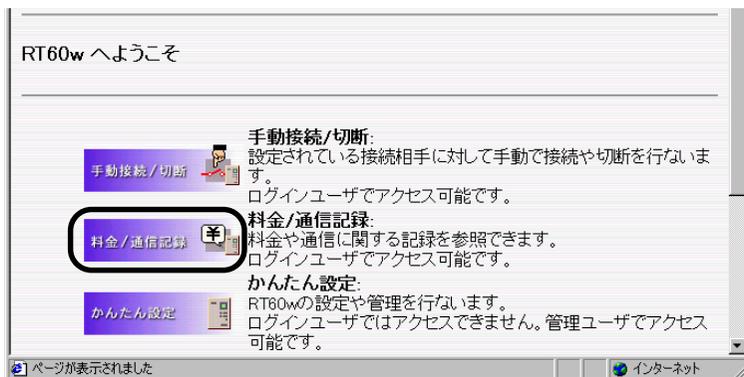


「手動接続 / 切断」ページには、現在の接続状態が表示されています。登録済みのプロバイダ毎に手動接続または切断が行えます。



■ 通信記録を見る

1 [料金 / 通信記録] を押します。



「料金 / 通信記録」ページが表示されます。

4

ルータを使ってみよう

Win

Mac

「料金／通信記録」ページには、各ポート毎の料金や通話時間、通話毎の記録、着信転送件数、メールの着信件数、転送件数が表示されます。

料金情報 [料金設定]

通信種別	最後の通信 料金	累積 料金	累積 接続時間	累積 発信回数	累積 着信回数
プロバイダ1(PP01) Provider1_選択中	10円	40円	00:09:41	4回	0回
LAN間接続(PP02) RemotelUser	0円	0円	00:00:00	0回	0回
アナログポート	0円	10円	00:00:41	1回	0回
ISDN-DCP	0円	0円	00:00:00	0回	0回
LAN-TA機能	0円	0円	00:00:00	0回	0回
合計		50円	00:10:22	5回	0回

アナログポート (機器間アナログ通話をしている機器の各アナログポートの料金情報)

TEL1ポート	0円	0円	00:00:00	0回	0回
TEL2ポート	0円	10円	00:00:41	1回	0回
TEL3ポート	0円	0円	00:00:00	0回	0回
合計		0円	00:00:00	0回	0回

着信転送履歴 [電話設定]

着信転送の履歴はありません

メール着信数 [メール設定]

メール着信確認は設定されていません

メール転送履歴 [メール設定]

メール転送は設定されていません

通信履歴

日付	時刻	通信種別	通信時間	料金	切断コード	通信相手
1	2000/08/08 20:38:16	PP01:発信	00:02:58	10円	552	XXXXXXXXXX
2	2000/08/08 20:24:13	PP01:発信	00:02:57	10円	552	XXXXXXXXXX
3	2000/08/08 20:23:09	TEL3:発信	00:00:41	10円	0	117

ページが表示されました

インターネット

MEMO

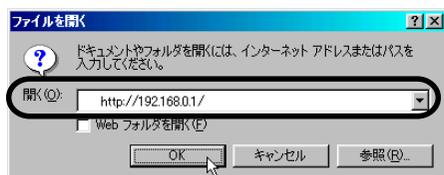
- ・通信料金はNTTから通知される料金を累積して表示しています。NTTの割引サービスやNTT以外の回線業者の料金は反映されていません。
- ・プロバイダ接続やLAN間接続の累積情報が発信制限に達している場合は、赤字で表示されます。その場合は、発信制限の値の見直しや料金のクリアにより発信できるようになります。
- ・アナログポートの累積料金は、TEL1～3ポートとアナログ子機のTELポートの通話を含めた合計が表示されます。(ユーザーズマニュアル「6-5 複数ルータ間で通話する」)
- ・アナログ子機として使用しているルータには、アナログポートの料金は表示されません。(ユーザーズマニュアル「6-5 複数ルータ間で通話する」)

4-4 料金情報をリセットする

課金制限に達してプロバイダ接続できなくなった場合や定期的に累積制限を管理したい場合など、累積料金をリセットしたいときは、「かんたん設定ページ」の「料金設定」ページで行います。

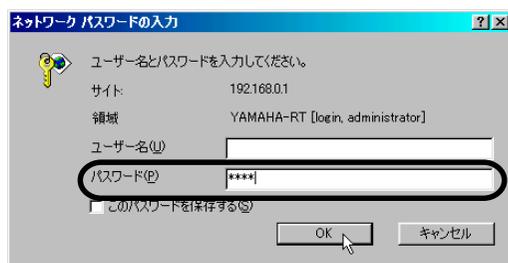
MEMO ・ Windows 95/98/2000 の場合は、[スタート] ボタン - [プログラム] - [RT60w ユーティリティ] - [RT60w かんたん設定ページ] でも開くことができます。

- 1 ブラウザを開き、ファイルメニューの [開く] を選択します。
- 2 "http://192.168.0.1/" と入力して [OK] ボタンを押します。
ルータの IP アドレスを変更している場合は、"http:// (ルータの IP アドレス) /" を入力してください。



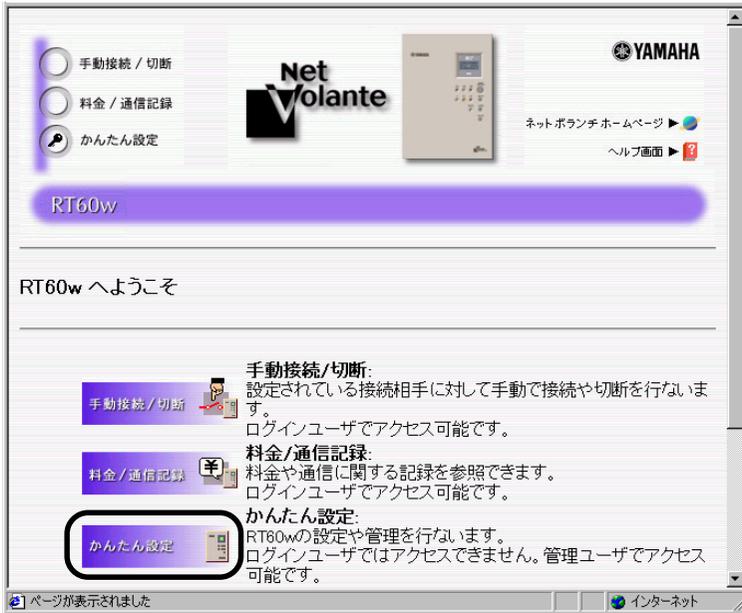
「ネットワーク パスワードの入力」ウィンドウが表示されます。

- 3 ルータの管理パスワードを入力して [OK] ボタンを押します。



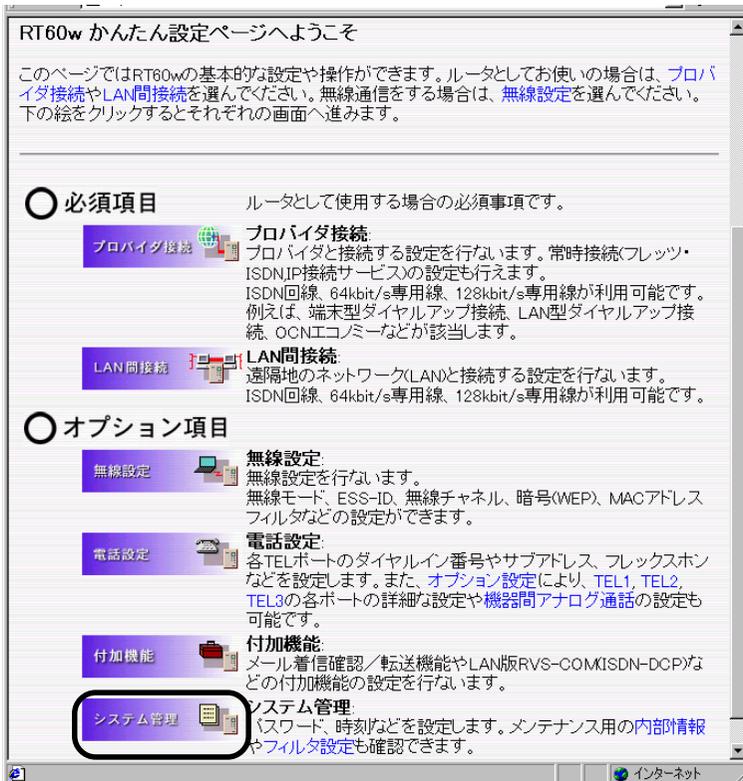
本機に内蔵の「RT60w へようこそ」が表示されます。

4 [かんたん設定] を押します。



「かんたん設定」ページが表示されます。

5 [システム管理] を押します。



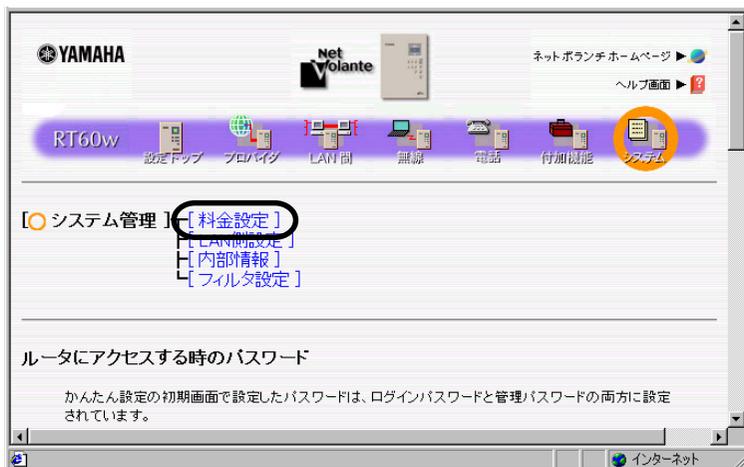
4

ルータを使ってみよう

Win

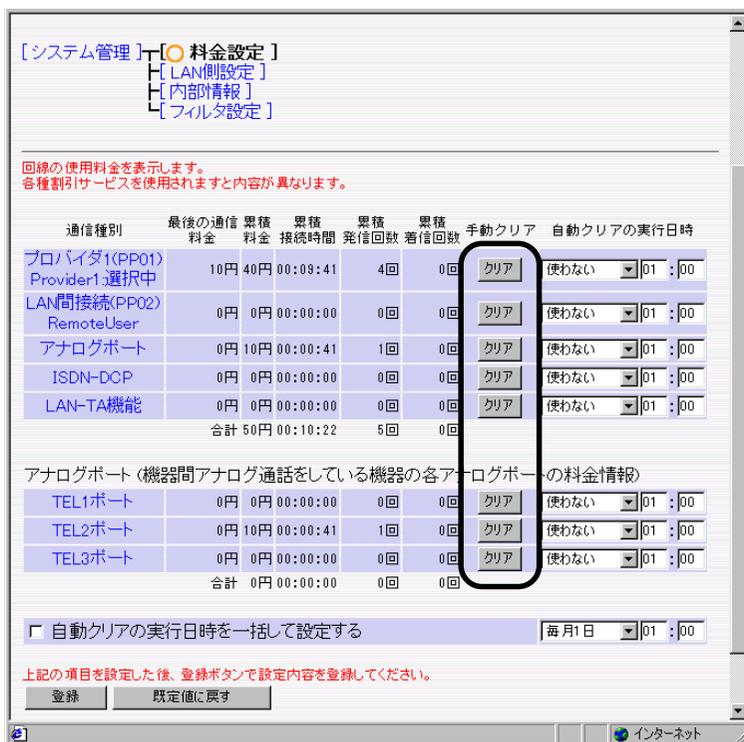
Mac

6 [料金設定] を押します。



「料金情報」ページには、各プロバイダ毎や各ポート毎の通話料金合計が表示されます。また、料金合計をリセットすることもできます。

7 リセットするときは、項目の [クリア] ボタンを押します。



料金合計がリセットされます。

MEMO ・各ポート毎に定期的に自動リセットすることができます。定期的のリセットしたいときは、各ポート毎にリセットする日付と時刻を設定します。また、[自動クリアの実行日時を一括して設定する]をチェックし、日付と時刻を入力すると、すべての項目を一度にまとめて設定することができます。

4-5 プロバイダ接続を制限する

本機は切断タイマと発信制限に条件を設定することができます。これにより、通信料金の使いすぎや回線がつながりっぱなしになったまま気づかずにいたというトラブルを軽減することができます。



注意

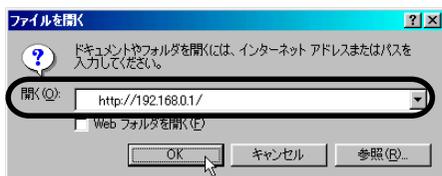
・本機の料金表示は、NTTの料金通知情報を累積したものです。NTTの割引サービスや他の回線業者の料金は反映されていません。実際の料金については、回線業者およびプロバイダの請求書を確認してください。

MEMO

・Windows 95/98/2000の場合は、[スタート]ボタン-[プログラム]-[RT60w ユーティリティ]-[RT60w かんたん設定ページ]でも開くことができます。

1 ブラウザを開き、ファイルメニューの[開く]を選択します。

2 "http://192.168.0.1/" と入力して [OK] ボタンを押します。
ルータのIPアドレスを変更している場合は、"http://(ルータのIPアドレス)/" を入力してください。



「ネットワーク パスワードの入力」ウィンドウが表示されます。

3 ルータの管理パスワードを入力して [OK] ボタンを押します。



本機に内蔵の「RT60w へようこそ」が表示されます。

4

ルータを使ってみよう

Win

Mac

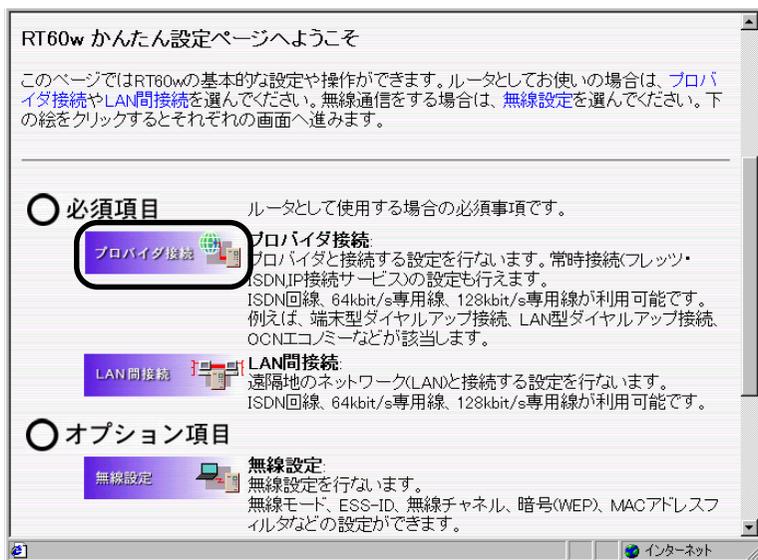
4 [かんたん設定] を押します。



「かんたん設定」ページが表示されます。

5 [プロバイダ接続] を押します。

すでに基本的な設定が行われていると仮定しています。設定が済んでいない場合にはスタートマニュアル第3章を参照して設定してください。



4

ルータを使ってみよう

Win

Mac

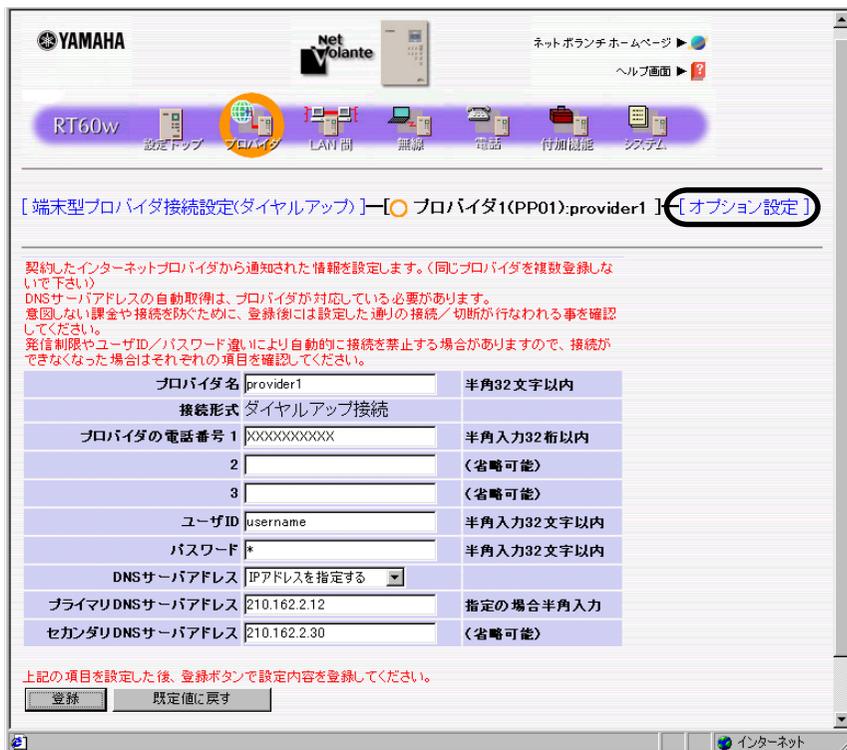
6 プロバイダ名の右の[登録の修正]ボタンを押します。



4

ルータを使ってみよう

7 [オプション設定]を押します。



Win

Mac

8 切断タイマの制限条件を設定する場合は、項目をチェックして条件値を入力します。



課金される単位時間毎に通信の有無を監視して自動切断する
3分10円などの課金単位で自動切断したいときは、この項目をチェックします。
契約内容に合わせて昼間や深夜の単位時間を変えることができます。

タイマで通信の有無を監視して自動切断する
アクセスしない時間によって自動切断したいときは、この項目をチェックします。

深夜時間帯
上記の2項目で深夜時間の設定を指定するときは、この項目をチェックし、深夜の時間帯を入力します。通常のNTT通話料金では、23:00～8:00が深夜料金扱いになります。

タイマによる自動切断を禁止する時間帯を指定する
テレホーダイを利用している場合、利用時間帯に自動切断しないよう設定したいときは、この項目をチェックし、時間帯を入力します。

タイマに関係なく連続通信時間XXX分で強制的に切断する
連続通信時間を監視して切断したいときは、この項目をチェックします。初期値は、540分（9時間）に設定されています。

9 発信制限の条件を設定する場合は、項目をチェックして条件値を入力します。

発信制限 [料金設定]

料金情報/課金情報はNTTの交換機から通知される情報です。各種割引サービスを使用されますと内容が異なるとはなりません。

累積料金が10000 円以上になったら接続を行わない

累積接続時間が50 時間以上になったら接続を行わない

累積発信回数が1000 回以上になったら接続を行わない

MP関連

プロバイダがMPに対応している場合のみ設定して下さい。
限られた時間のみ使用する場合は時間帯を指定してください。
MP設定を変更した場合は、設定後MPの動作を確認してください。

MPを使用する

時間帯を指定 00 : 00 ~ 00 : 00

通信の負荷に応じてチャネル数を増減させる

NTPサーバ関連

毎月1回時刻を修正します。

時刻をインターネット上のサーバに定期的に問い合わせる

NTPサーバIPアドレス

静的IPマスカレード関連

指定ポートへの外部からのアクセスを許可します。

プロトコル	ポート	使用ホストIPアドレス
<input type="checkbox"/> TCP		

上記の項目を設定した後、登録ボタンで設定内容を登録してください。

登録 既定値に戻す

累積料金が XXXXX 円以上になったら接続を行わない
プロバイダ接続の累積料金で制限したいときは、この項目をチェックし、金額を設定します。初期値は1万円に設定されています。

累積接続時間が XXXXX 時間以上になったら接続を行わない
プロバイダ接続の累積接続時間で制限したいときは、この項目をチェックし、時間を設定します。初期値は50時間に設定されています。

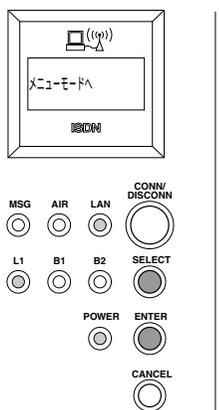
累積発信回数が XXXXX 回以上になったら接続を行わない
プロバイダ接続の累積発信回数で制限したいときは、この項目をチェックし、回数を設定します。初期値は1000回に設定されています。

10 画面下にある[登録]ボタンを押します。

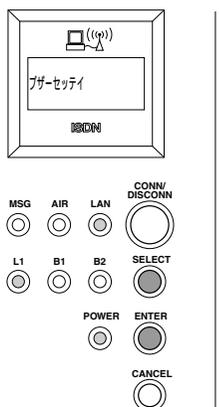
4-6 ブザーを止める

本機にはブザーが内蔵されており、工場出荷状態ではインターネットへ自動接続するときと切断するときにブザーが鳴るように設定されています。ブザー音は、ボタン操作で止めたり、鳴らしたりすることができます。

- 1 [SELECT] ボタンを押して [メニューモードへ] を表示し、[ENTER] ボタンを押します。
メニュー項目が表示されます。



- 2 [SELECT] ボタンを何度か押して [ブザーセッテイ] を表示し、[ENTER] ボタンを押します。



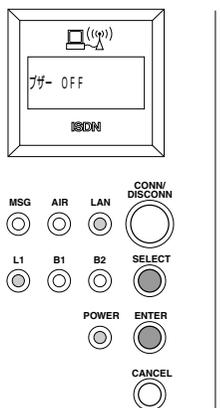
4

ルータを使ってみよう

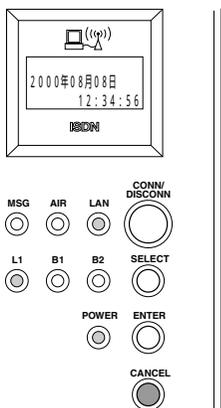
Win

Mac

- 3** [SELECT]ボタンを押して[ブザー ON]または[ブザー OFF]を選び、[ENTER]ボタンを押します。
ブザーを止めたいときは [ブザー OFF]、ブザーを鳴らしたいときは [ブザー ON]を選んでください。



- 4** [CANCEL] ボタンを何度か押して、日付・時刻表示にもどります。



4

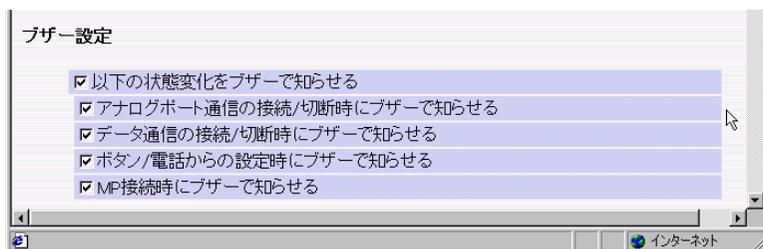
ルータを使ってみよう

Win

Mac

ブザーが鳴るルータ動作について

本機のブザーは、下記のルータ動作時に鳴るよう設定することができます。ブザー鳴らすルータ動作については、「かんたん設定ページ」の「システム管理」ページで設定してください。



4-7 不審な自動接続が見つかったときは

自動接続機能でインターネットへ接続している場合で、料金情報や通信記録を見て使った覚えのない通話料金があった場合は、パソコンのソフトウェアや機器が自動的にインターネットへアクセスしている疑いがあります。ソフトウェアによっては、意識的に起動しなくてもパソコン使用中に自動的に動作しているものがあり、知らないうちに自動発信を繰り返している場合があります。放置すると、多額の通話料金になる場合がありますので、こまめに料金や通話記録を確認してください。

次のような場合は、特にご注意ください。

- 本機を使い始めた時
- 本機のプロバイダ接続設定を変更した時
- パソコンのダイヤルアップネットワーク設定を変更した時
- MP 接続を設定した時
- 無線 LAN の設定を変更した時
- 機器間アナログ通話機能の設定を変更した時
- LAN-TA 接続を併用または切り替えた時
- Real Player をインストールした時
- パソコンに新しいソフトウェアをインストールした時
- ネットワークに新しいパソコンやネットワーク機器、周辺機器などを接続した時
- 本機のファームウェアをリビジョンアップした時
- その他、いつもと違う操作を行ったり、通信の反応に違いを感じた時など

注意

- ・プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定(LAN-TA 接続利用時)の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- ・MP 接続に対応していないプロバイダに対して、MP 接続の設定や発信は絶対に行わないでください。2 回線目が発信とエラーを繰り返して多額の料金を請求される場合があります。

MEMO

- ・ここで使用している画面や設定項目は、各ソフトウェアのバージョンにより内容が異なります。

通信記録の見かた

■ 料金 / 通信記録ページ

「料金 / 通信記録」ページでは、各ポート毎の累積料金や累積接続時間、累積発信回数、累積着信回数、通信毎の履歴を調べることができます。

料金情報 [料金設定]

通信種別	最後の通信 料金	累積 料金	累積 接続時間	累積 発信回数	累積 着信回数
プロバイダ1(PP01) Provider1_選択中	10円	40円	00:08:41	4回	0回
LAN間接続(PP02) RemoteUser	0円	0円	00:00:00	0回	0回
アナログポート	0円	10円	00:00:41	1回	0回
ISDN-DCP	0円	0円	00:00:00	0回	0回
LAN-TA機能	0円	0円	00:00:00	0回	0回
合計		50円	00:10:22	5回	0回

アナログポート (機器間アナログ通話をしている機器の各アナログポートの料金情報)

TEL1ポート	0円	0円	00:00:00	0回	0回
TEL2ポート	0円	10円	00:00:41	1回	0回
TEL3ポート	0円	0円	00:00:00	0回	0回
合計	0円	0円	00:00:00	0回	0回

着信転送履歴 [電話設定]

着信転送の履歴はありません

メール着信数 [メール設定]

メール着信確認は設定されていません

メール転送履歴 [メール設定]

メール転送は設定されていません

通信履歴

日付	時刻	通信種別	通信時間	料金	切断コード	通信相手
1	2000/08/08 20:38:16	PP01:発信	00:02:58	10円	552	XXXXXXXXXX
2	2000/08/08 20:24:13	PP01:発信	00:02:57	10円	552	XXXXXXXXXX
3	2000/08/08 20:29:09	TEL3:発信	00:00:41	10円	0	117

ページが表示されました インターネット

料金情報

プロバイダごとの累積料金や累積接続時間、累積発信回数、累積着信回数が表示されています。

通信履歴

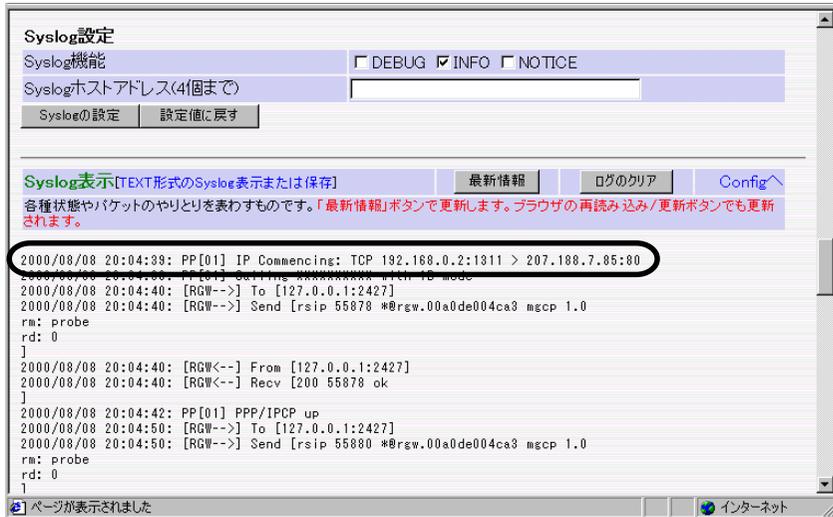
発信日付、発信時刻、通信種別、通話時間、通話料金、切断コード、相手先の番号が新しい順に100件まで記録されています。通信種別がPPxxとなっている通話が、プロバイダ(またはLAN間接続相手)へ接続した通話です。

■ ログ情報の見かた

「システム管理」の「内部情報」ページでは、自動接続のきっかけになったアクセスの情報を Syslog 表示で調べることができます。

意図しないアクセスが多いときは、Syslog 表示の中で一番下から順に "IP Commencing" の行を探していきます。IP Commencing 行のパソコン IP アドレス、アクセス先ホストの IP アドレスやアクセス時間(もしくは間隔)などを手がかりに、どのアプリケーションソフトもしくは機器がアクセス要求を出しているかを調べて原因を探してください。

アクセス例 1



PP[01] IP Commencing : TCP 192.168.0.2 : 1311 > 207.188.7.85 : 80
プロバイダ番号 パソコンの IP アドレス アクセス先の IP アドレス

上記のアクセス例では、LAN 内のパソコン (192.168.0.2) からインターネットのホスト (207.188.7.85) へのアクセス要求をきっかけに、プロバイダへの自動接続を開始しています。

アクセス例 2

PP[01] IP Commencing: UDP 192.168.0.2:1024 > DNS サーバ:53
(DNS Query [windowsupdate.microsoft.com])

上記のアクセス例では、LAN 内のパソコン (192.168.0.2) から DNS サーバへインターネットのホスト (windowsupdate.microsoft.com) の IP アドレスを調べる問い合わせ要求をきっかけに、プロバイダへの自動接続を開始しています。

原因になりやすい設定項目

不審なインターネットアクセスの原因になる設定項目には、次のようなものがあります。OSを使い始めるときや、新しいソフトウェアをインストールしたときは、例を参考に設定を見直してください。

■ 頻繁に発信している場合

パソコンのネットワーク設定のDNS設定値を確認してください。インターネット上のDNSサーバのIPアドレスが指定されていると、頻繁にアクセスする場合があります。

■ パソコンを起動するたびに発信している場合

アクティブデスクトップを表示している場合、表示の設定内容により、起動する度にインターネットへアクセスしている場合があります。また、パソコン起動時に自動的に開くソフトウェアが有る場合は、[スタート]ボタンの[スタートアップ]項目を確認してください。スタートアップに登録されているソフトウェアの設定を確認し、自動アップデートなどの機能が有る場合は、設定を変更してください。

コントロールパネルの [画面] 設定

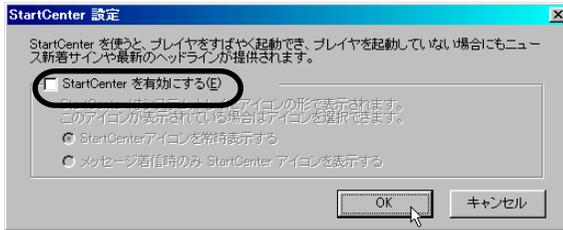
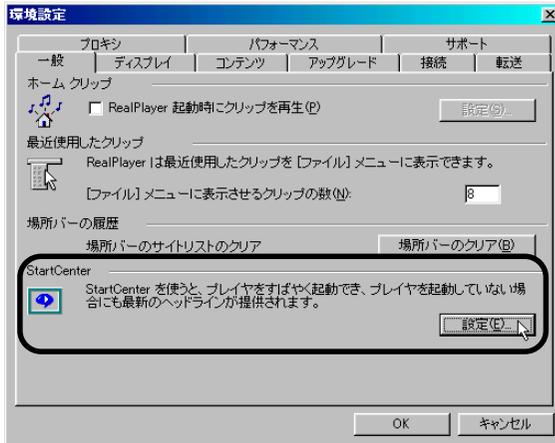
WindowsのデスクトップにWebページを設定していると、パソコンを起動するたびにインターネットへアクセスし、Webページ内容が更新されます。その度に料金がかかります。必要なければ、設定を解除してください。



RealPlayer の環境設定

[一般] シートの StartCenter を有効にしていると、パソコンを起動するたびにインターネットへアクセスし、[コンテンツ] シートで指定したチャンネルなどの最新情報が更新されます。このアクセスは、RealPlayer を使わなくても行われ、その度に料金がかかります。必要なければ設定を解除してください。

[一般] シート



[コンテンツ] シート



4

ルータを使ってみよう

Win

Mac

■ 定期的に発信している場合

1日に何回も発信している場合は、Internet Explorerのチャンネルを購読している場合やWindows updateを利用している場合、メールの自動送受信が設定されている場合などが考えられます。各パソコンの該当するソフトウェア設定を確認してください。

1日に数回以内の場合は、ハードウェアのメンテナンスプログラムやNTPサーバ（インターネット自動時刻サーバ）の設定を確認してください。

ホームページのバナー広告

バナー広告が掲載されているホームページでは、何も操作しなくても定期的に自動更新する場合があります。そのページを開いたままブラウザを放置すると、定期的にインターネットへアクセスし続け、その度に料金がかかります。見終わったらブラウザを閉じることで、不要なアクセスを防ぐことができます。

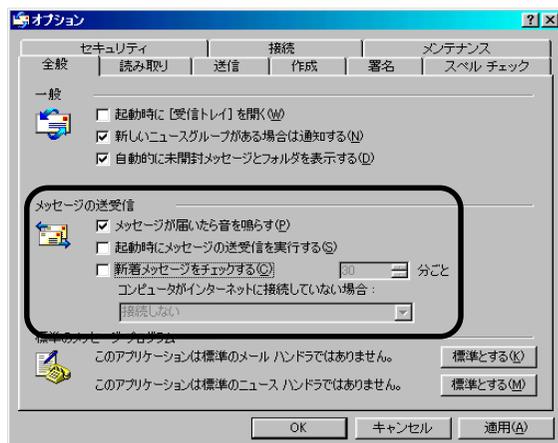
購読チャンネルのプロパティ

Internet Explorerのチャンネルを購読している場合は、プロパティで指定した間隔で、チャンネル内容の更新のためインターネットへアクセスします。その度に料金がかかります。購読する場合は更新間隔をよく確認してお使いください。不要な場合は、設定を解除してください。



Outlook Express の [オプション] 設定

Outlook Expressなどのメールソフトには、新着メールを定期的にチェックする機能があります。設定していると、定期的にインターネットのメールサーバにアクセスし、その度に料金がかかります。この機能を利用する場合は、チェック間隔を十分考慮して設定してください。必要な場合は設定を解除して、手動チェック（手動送受信）でお使いください。

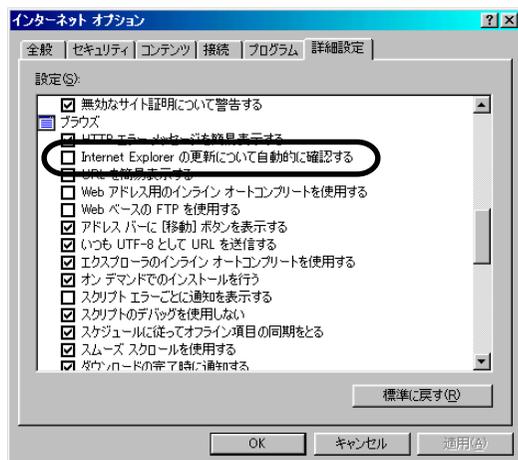


■ ソフトウェアを開くたびに発信している場合

インストールしたソフトウェアの環境設定（初期設定）を確認し、自動アップデートなどの機能が有る場合は、設定を変更してください。

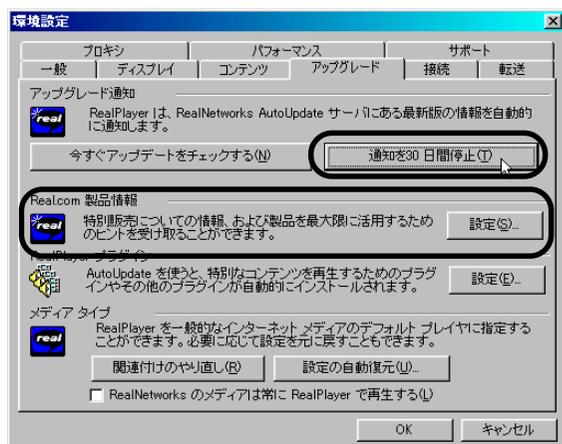
Internet Explorer の [インターネットオプション] 設定

Internet Explorerの自動アップデート機能が設定されていると、ソフトウェアを開く度にインターネットへアクセスし、その度に料金がかかります。不要であれば設定を解除してください。

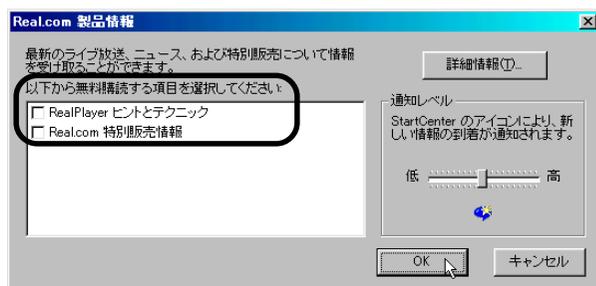


RealPlayer の環境設定

RealPlayerをインストールすると、アップグレード情報を得るためにRealPlayerを開く度にインターネットにアクセスします。その度に料金がかかります。必要な場合は、[アップグレード]シートの[通知を30日間停止]ボタンを押すと、30日間はアクセスしなくなります。アクセスしない日数がカウントダウンされますので、ときどきチェックして[通知を30日間停止]ボタンを押し直してください。(完全に解除することはできません。)



また、Real.com 製品情報がチェックされていると、製品情報を得るためにRealPlayerを開く度にインターネットにアクセスします。その度に料金がかかります。必要な場合は設定を解除してください。



4

ルーターを使ってみよう

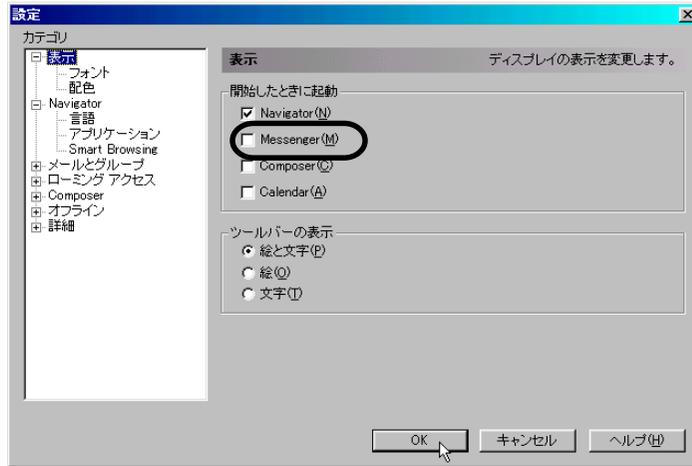
Win

Mac

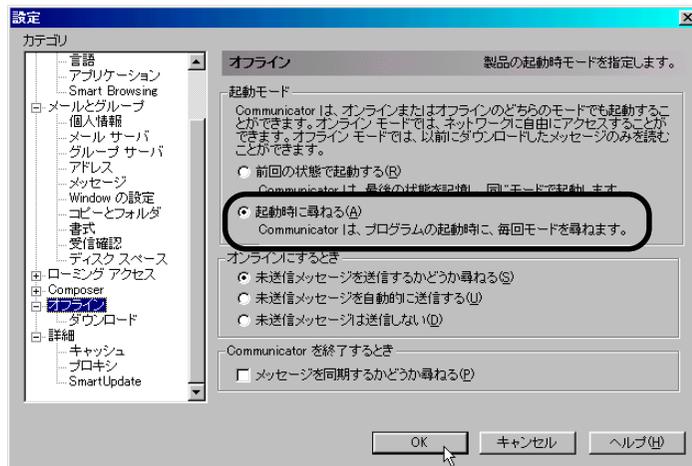
Netscape Communicator の設定

Netscape Communicator をインストールすると、Messenger のウィンドウを開くときに必ず Netscape の広告ページを読み込むため、インターネットにアクセスします。その度に料金がかかります。

Netscape Messenger を使っていない場合は、最初に開くウィンドウの設定で Messenger のチェックを外します。



Netscape Messenger を使っている場合や意図しない接続を止めたい場合は、[オフライン] の [起動モード] を [起動時に尋ねる] に設定し、オフラインで起動してください。(自動的にオフラインで起動する設定はありません。)



付録

付録では、スタートマニュアルの索引を収録しています。

索引	122
----------	-----

索引

英数字

10BASE-T ポート	18
AIR ランプ	9, 96
B1 チャンネル表示	11
B1 ランプ	9, 96
B2 チャンネル表示	11
B2 ランプ	9, 96
[CANCEL] ボタン	9
[CONN/DISCONN] ボタン	9, 93, 95
DSU	25, 48
DSU スイッチ	10, 25, 26, 48, 49
[ENTER] ボタン	9
ESS-ID	86
FAX 機器の接続	27
INS キャッチホン	15
Internet Explorer	117
IP アドレス設定	76
ISDN S/T ポート	10, 26, 49
ISDN U ポート	10, 25, 48
ISDN 回線	14
ISDN 回線の接続	24
ISDN 付加サービス	15
i・ナンバー	15
L1 ランプ	9, 29, 96
LAN1 ポート表示	11
LAN2 ポート表示	11
LAN3 ポート表示	11
LAN4 ポート表示	11
LAN カード	18, 19
LAN スイッチ	10
LAN ボード	18, 20
LAN ポート	10, 18
LAN ポートの接続	33
LAN ランプ	9, 36, 42, 96
MAC アドレス	10
MSG ランプ	9
Netscape Communicator	119
Outlook Express	117
POWER スイッチ	9
POWER ランプ	9, 96
RealPlayer	115, 118

[SELECT] ボタン	9
TEL1 ポート表示	11
TEL2 ポート表示	11
TEL3 ポート表示	11
TEL ポート	10
TERM スイッチ	10
UPLINK ポート	34, 40
WEP 機能	86

ア行

アースコード	28, 50
アース端子	10, 28, 50
インストール	
Macintosh	56
Windows	54

カ行

各部の名称	9
かんたん設定ページ	98
極性反転スイッチ	10

サ行

サブアドレス通知	15
三者通話	15
自動アップデート	114
自動接続	92
自動接続表示	11
自動切断	94
手動接続	93, 99
手動切断	95
接続情報	16
専用線	14
専用線接続契約	17

タ行

ターミネータスイッチ	10, 30
ダイヤルイン	15
端末型ダイヤルアップ接続契約	16
着信転送	15
着信転送表示	11
チャンネル	86
チャンネル	116

通信記録	112, 113
通信中着信通知サービス	15
通信中転送	15
ディスプレイ	97
電源コード	10, 28, 50
電源の接続	28, 50
電池カバー	22
電池ボックス	10
電話機の接続	27

ナ行

認証番号	10, 14
ネットワークアドレス	76
ネットワーク設定	
Macintosh	85
Windows	81, 83

ハ行

パソコンセットアップ ユーティリティ ...	54
バックアップ電池	22
発信者番号通知	15
発信制限	104
不審な自動接続	111
フレックスホン	15
ブロードキャストアドレス	76
プロバイダとの契約	16

マ行

無線 LAN	43
無線 LAN カード	19
無線 LAN ボード	20
メール着信表示	11
メール転送表示	11
メッセージ表示	11

ヤ行

ユーザ間情報通知	15
ユーティリティソフト	54

ラ行

料金情報通知	15
ルータの動作確認	29

製品サポートのご案内

■ 最新情報を入手するには

本機に関する最新情報は、インターネットのホームページで入手することができます。設定に関する初歩的な情報からルータの専門的な情報まで、それぞれの目的別に用意していますので、十分ご活用ください。

NetVolante シリーズのホームページ

本機や NetVolante シリーズに関する最新情報をご覧ください。

<http://NetVolante.rtpro.yamaha.co.jp/>

NetVolante シリーズの FAQ

本機や NetVolante シリーズに関する Q&A をご覧ください。

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT60w/FAQ/>

NetVolante シリーズのリビジョンアップ情報

本機や NetVolante シリーズの最新ファームウェアに関する情報をご覧ください。

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT60w/RevUpper.html>

RT シリーズのホームページ

RT シリーズのルータに関する最新情報やルータの技術情報、高度な利用方法などをご覧ください。

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/>

RT シリーズソフトウェアのダウンロードサーバ

RT シリーズのルータに関するソフトウェアの FTP サーバです。

<ftp.rtpro.yamaha.co.jp>

■ ご質問・お問い合わせについて

本機に関する技術的なご質問やお問い合わせは、下記へご連絡ください。

ネットボランチコールセンター

RT60w 専用サービス窓口

TEL: 03-5715-0350

土日祝日を除く 9時～12時、13時～17時

電子メールでのお問い合わせ

Web お問い合わせページ: <http://NetVolante.rtpro.yamaha.co.jp/>

メールアドレス: support@volante.rtpro.yamaha.co.jp

ヤマハ株式会社

ネットボランチコールセンター

RT60w専用サービス窓口

TEL: 03-5715-0350

土日祝日を除く9時～12時、13時～17時

電子メールでのお問い合わせ

Webお問い合わせページ: <http://NetVolante.rtpro.yamaha.co.jp/>

メールアドレス: support@volante.rtpro.yamaha.co.jp